

平成29年度 埼玉県政世論調査結果の概要

県政世論調査は、県政の重要課題に対する県民の関心、意識、要望などを把握し、施策の立案及び推進の資料として活用するため、昭和43年度から毎年度実施しています。

今年度は、課題調査として「シニアの社会参加」「性的少数者(LGBT)」の2つのテーマと、定期調査（時系列項目）として「生活意識」「日常生活」「県政への要望」について調査を行いました。

【目次】

調査のあらまし	3
調査結果のポイント	5
調査結果（単純集計結果）	13
1 生活意識	15
2 日常生活	25
3 県政への要望	50
4 シニアの社会参加	56
5 性的少数者（LGBT）	68
（参考資料）世論調査実施状況	74

< 本調査の内容及び結果についてのお問い合わせ先 >

埼玉県県民生活部広聴広報課 広聴・知事への提言担当

電話 048-830-2850（直通）

調査のあらまし

1 調査の目的

県民の県政に対する要望、意見及び県民の生活意識などを把握し、県政推進のための資料とする。

2 調査の項目

この調査の項目は次のとおりである。

- ア 生活意識（昨年と比べた暮らし向き、生活程度、生活全体の満足度、住みよさ）
- イ 日常生活
- ウ 県政への要望
- エ シニアの社会参加
- オ 性的少数者（LGBT）

3 調査の設計

この調査は次のように設計した。

- ア 調査地域 埼玉県全域
- イ 調査対象 満18歳以上の男女個人
- ウ 標本数 3,000
- エ 抽出方法 住民基本台帳による層化2段無作為抽出法
- オ 調査方法 調査員による個別面接聴取法
- カ 調査時期 平成29年7月7日～7月31日
- キ 調査実施委託機関 株式会社 サーベイリサーチセンター

4 回収結果

- ア 有効回収数（率） 2,140（71.3%）
- イ 調査不能数（率） 860（28.7%）

〔調査不能の内訳〕 転居 57（6.6%） 長期不在 46（5.3%）
一時不在 390（45.3%） 住所不明 45（5.2%）
拒否 283（32.9%） 病気・入院 26（3.0%）
その他 13（1.5%）

5 回答者の属性

(1) 性別

総数	男性	女性
2,140	1,075	1,065
100.0	50.2	49.8

(2) 年代別

総数	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
2,140	45	167	279	421	356	387	485
100.0	2.1	7.8	13.0	19.7	16.6	18.1	22.7

6 調査結果の見方

- (1) 結果は、百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が一致しないことがある。なお、回答者を絞った質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- (2) 一人の対象者に2つ以上の回答を認めた質問では、回答の合計を回答者（n）で割った比率を算出しており、通常その百分率の合計は、100%を超える。また、この回答の合計数をM.T.として表示した。

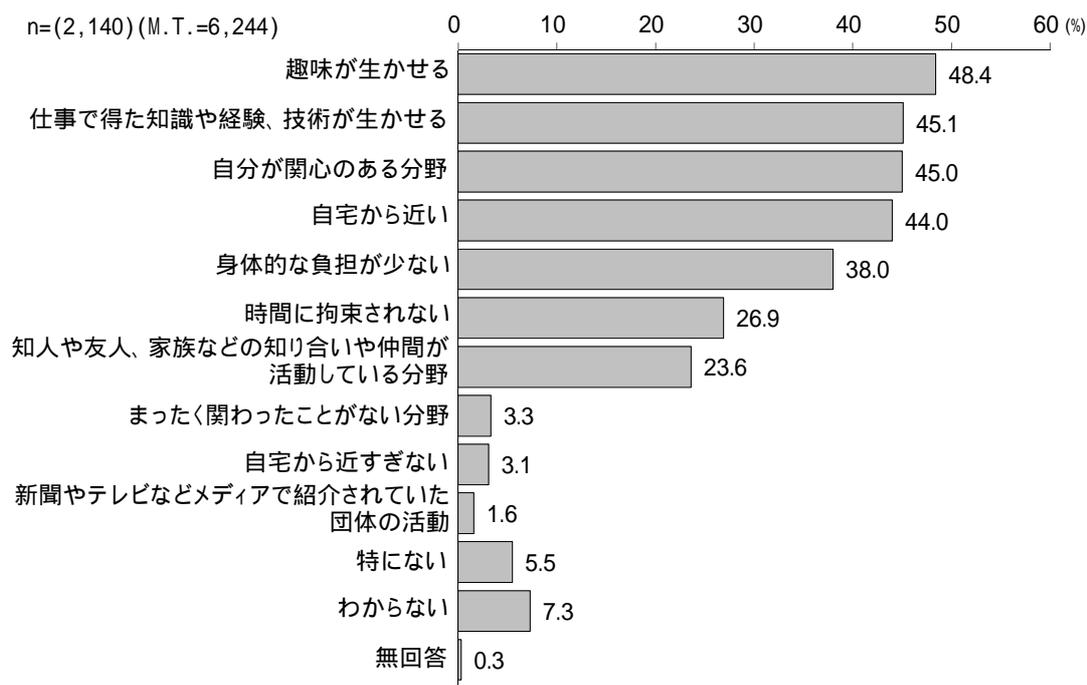
調査結果のポイント

1 課題調査

シニアの社会参加

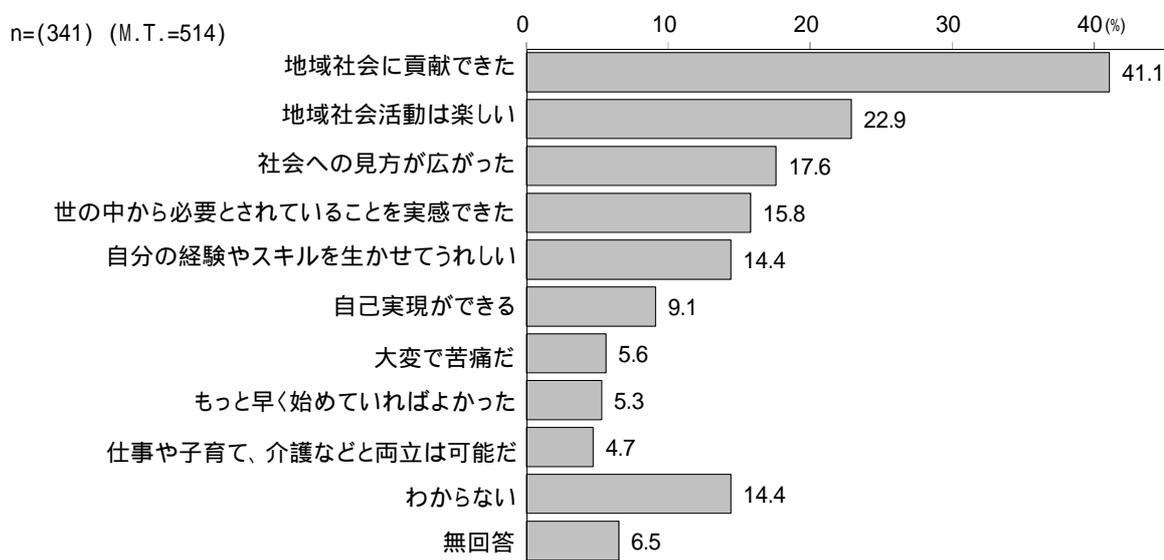
(1) シニアが地域社会活動に一步踏み出すためには、どのような内容の活動がよいと思いますか。(あてはまるものすべて)

- ・「趣味が生かせる」が5割弱(48.4%)
- ・「仕事で得た知識や経験、技術が生かせる」(45.1%)、「自分が関心のある分野の活動」(45.0%)、「自宅から近い」(44.0%)が4割台半ば。



(2) 地域社会活動を始めた後に感じたことはどんなことですか。(あてはまるものすべて)

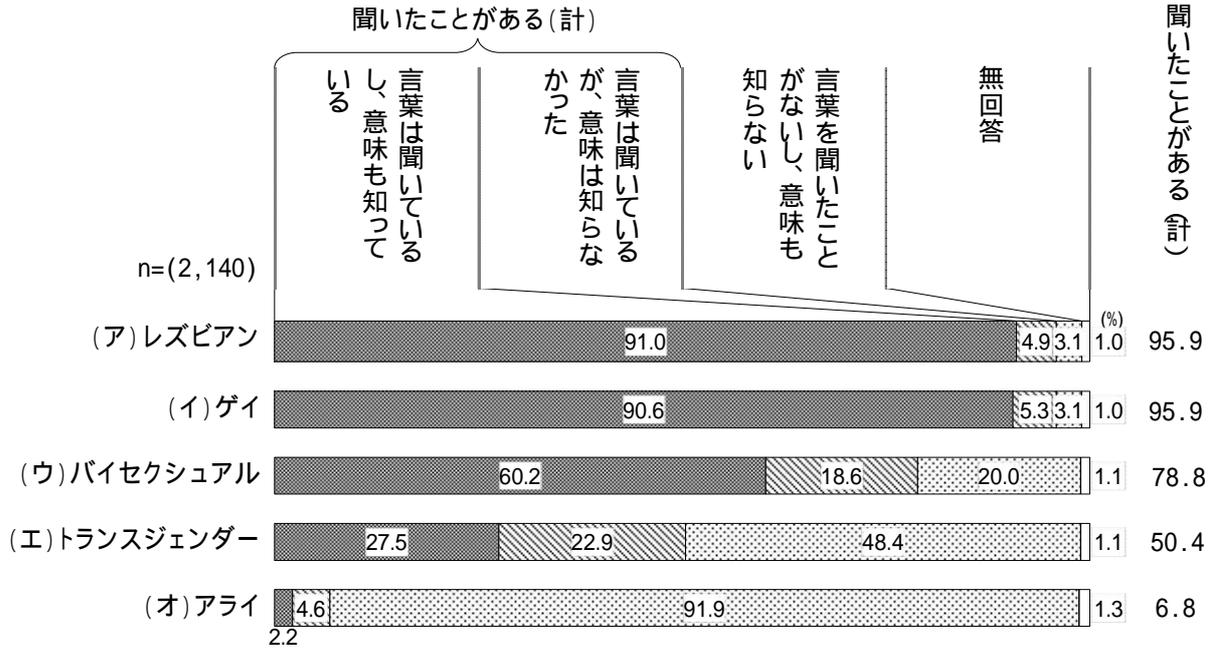
- ・地域社会活動への参加経験がある(37.0%)と回答した方にお聴きしました。
- ・地域社会活動への参加経験があるシニア世代(60歳以上(計))では、「地域社会に貢献できた」が4割強(41.1%)



性的少数者(LGBT)

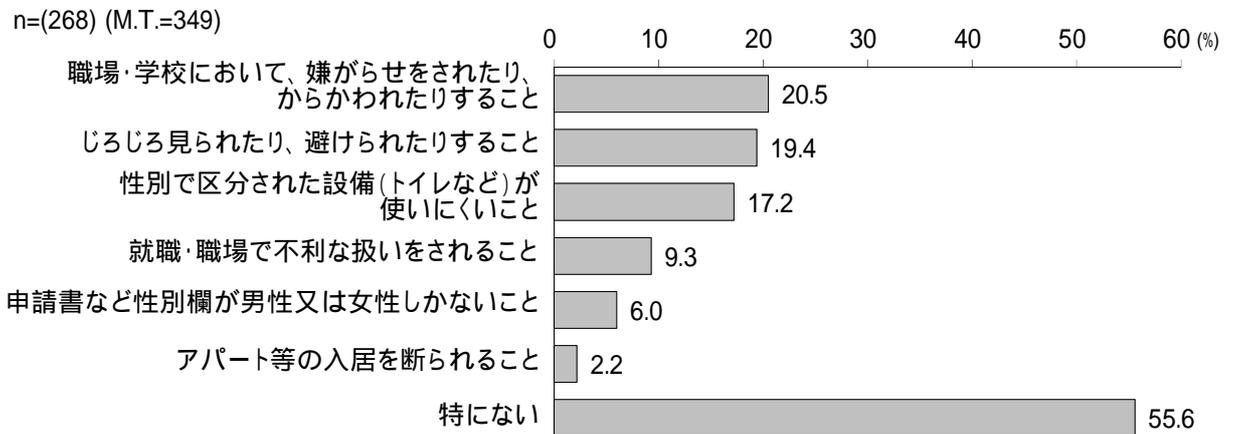
(1) あなたは、次の言葉について聞いたことがありますか。また、意味を知っていますか。(もっとも近いものを1つ)

- ・『聞いたことがある(計)』は、レズビアンとゲイが9割台半ば(ともに95.9%)、バイセクシュアルが8割弱(78.8%)、トランスジェンダーが5割超(50.4%)
- ・「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」は、アライが9割強(91.9%)、トランスジェンダーが5割弱(48.4%)



(2) あなたは、性的少数者に対して次のことを実際に見聞きしたことがありますか。(あてはまるものすべて)

- ・身のまわりに性的少数者の方がいた(12.5%)と回答した方にお聴きしました。
- ・「職場・学校において、嫌がらせをされたり、からかわれたりすること」が2割超(20.5%)



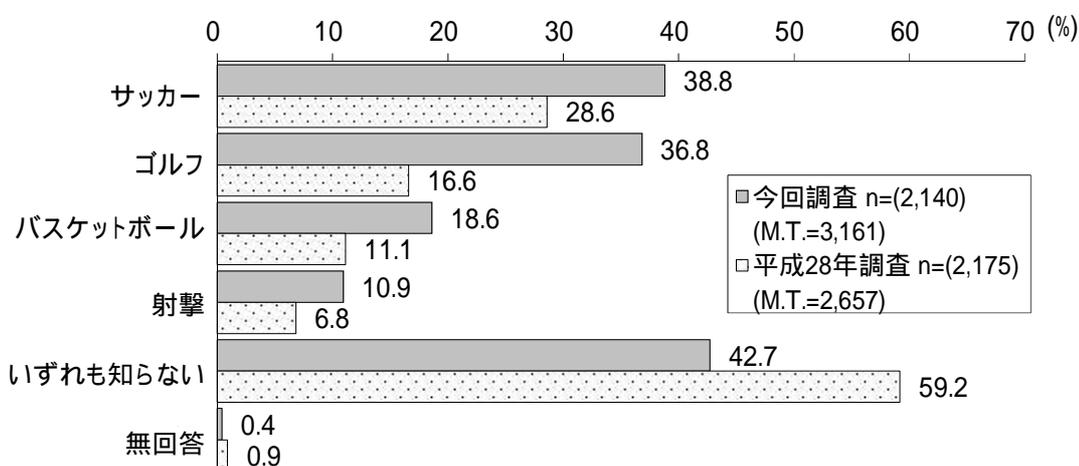
2 定期調査（日常生活）

東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ2019に関する項目は、大会開催まで継続実施

東京2020オリンピック・パラリンピック 認知状況

「東京2020オリンピック・パラリンピック」において、埼玉県内で開催される競技で、知っていたものはどれですか。（あてはまるものすべて）

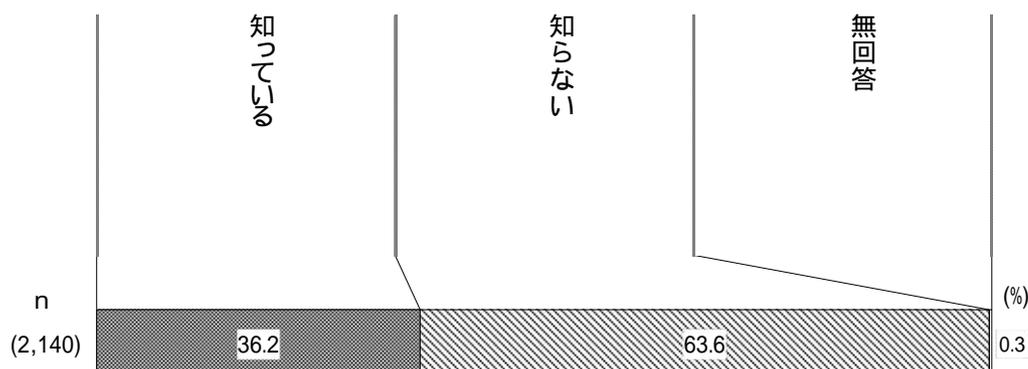
- ・「サッカー」が4割弱（38.8%）次いで、「ゴルフ」（36.8%）、「バスケットボール」（18.6%）、「射撃」（10.9%）
- ・「いずれも知らない」が4割強（42.7%）



ラグビーワールドカップ2019熊谷開催 認知状況

埼玉県は、熊谷市とともに平成31年9月20日～11月2日に日本で開催されるラグビーワールドカップ2019の開催都市になっており、県営熊谷ラグビー場は全国12会場の一つになっています。あなたは、このことを知っていますか。

- ・「知っている」が3割台半ば（36.2%）
- ・「知らない」が6割強（63.6%）

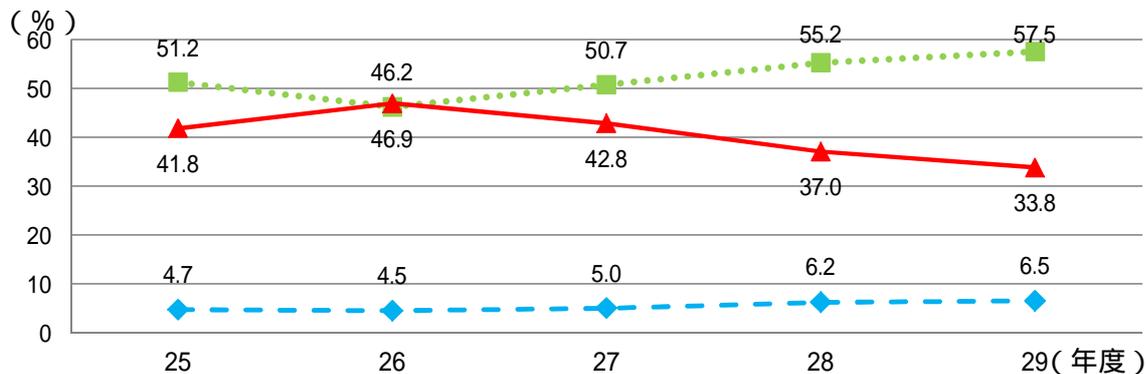


3 定期調査（生活意識）

昨年と比べた暮らし向き

◆ 楽になった(計) ● 変わらない ▲ 苦しくなった(計)

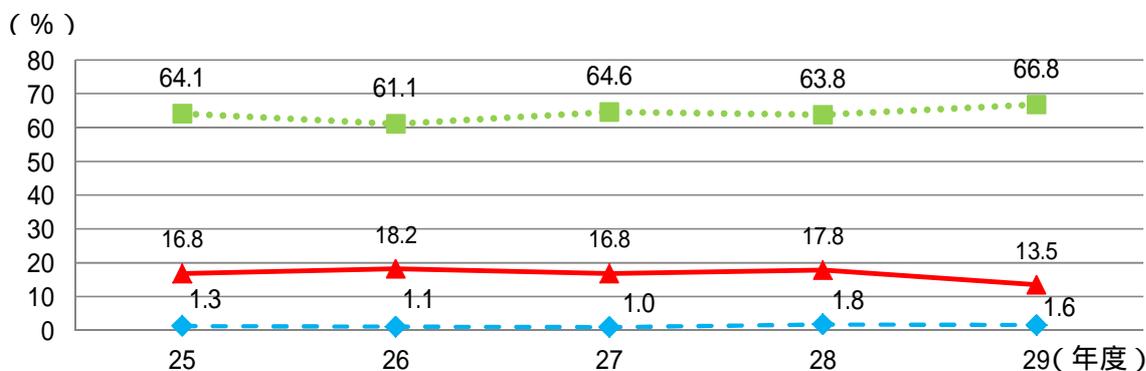
- ・「楽になった」は昨年より0.3 p増加
- ・「変わらない」は2.3 p増加
- ・「苦しくなった」は3.2 p減少



生活の程度

◆ 上(計) ● 中(計) ▲ 下(計)

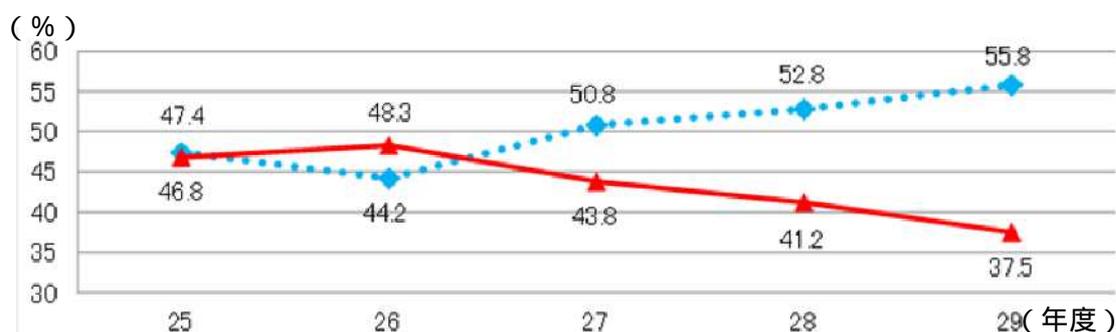
- ・「上」は昨年より0.2 p減少
- ・「中」は3.0 p増加
- ・「下」は4.3 p減少
- ・「中」が平成20年度以降で初めて全体の3分の2に達した



生活全体の満足度

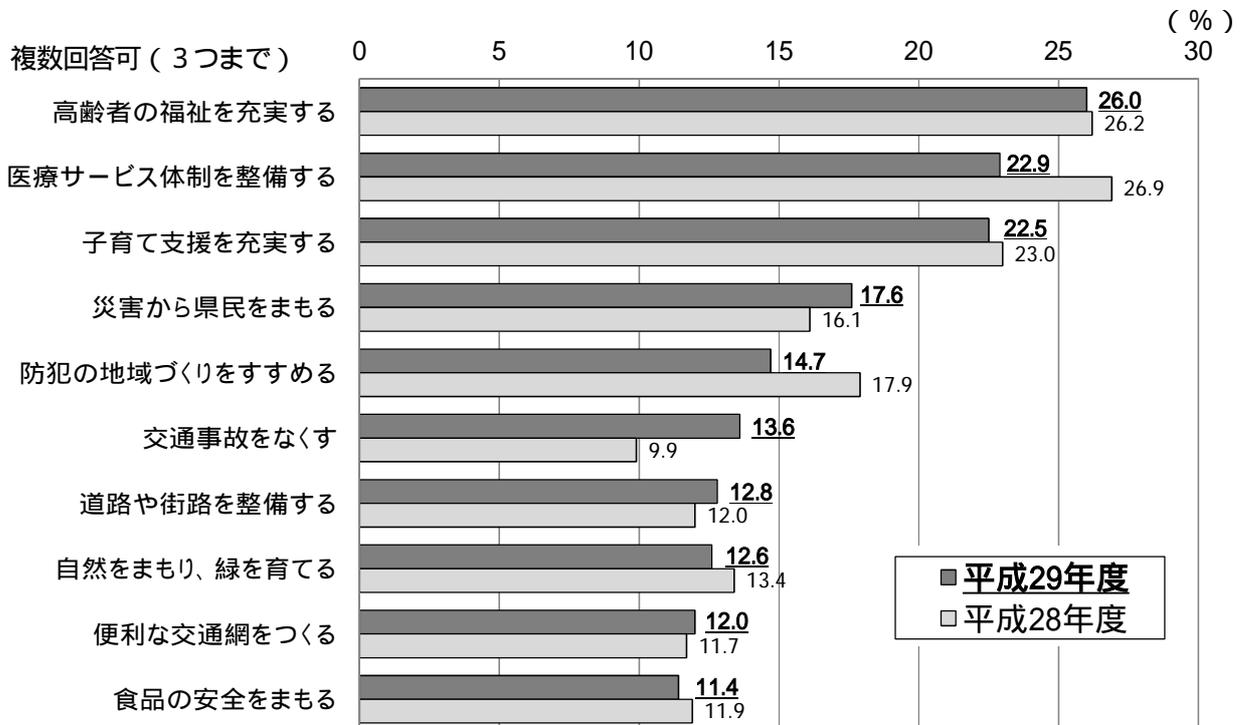
◆ 満足(計) ▲ 不満(計)

- ・「満足(計)」は3.0 p増加
- ・「不満(計)」は3.7 p減少



4 定期調査（県政への要望）

- ・ 1位と2位、4位と5位が入れ替わり、3位は変動なし
- ・ 「高齢者の福祉を充実する」が2年ぶりに第1位となった



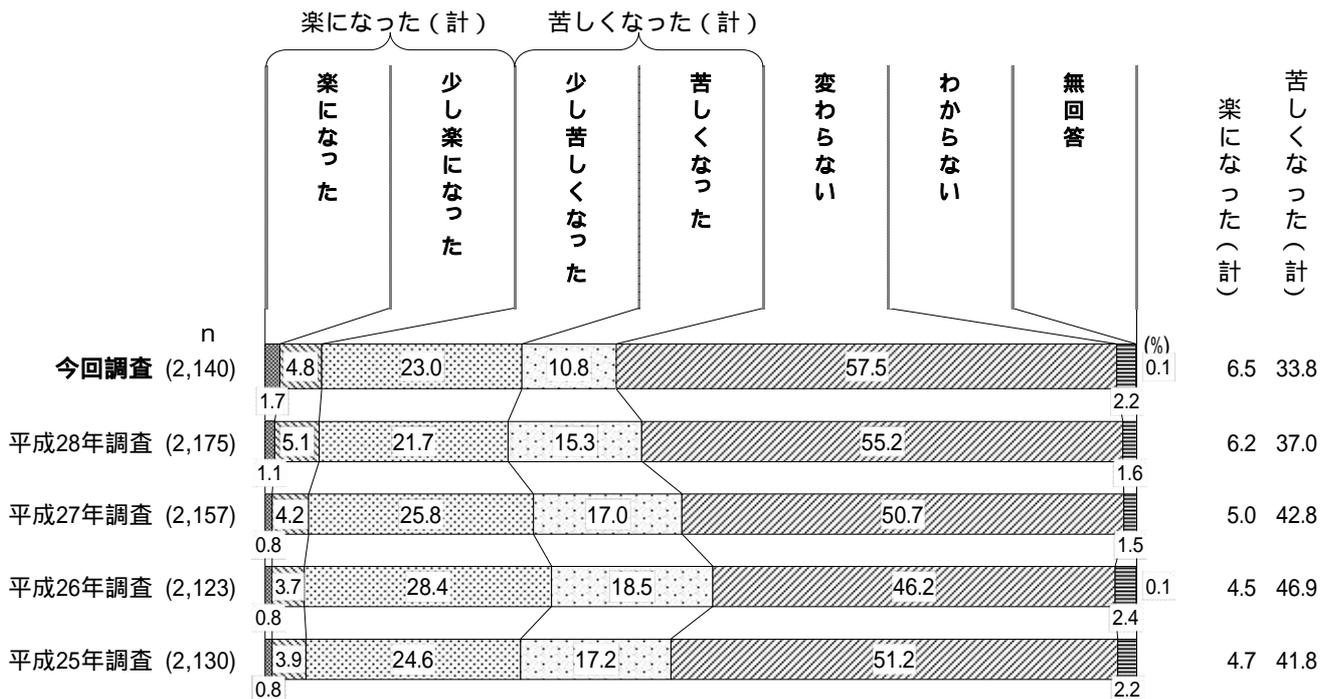
調査結果（単純集計結果）

1 生活意識

(1) 昨年と比べた暮らし向き

『苦しくなった(計)』が33.8%と前年より3.2ポイント減少

問1 最初に、あなたの生活意識についておたずねいたします。
お宅の暮らし向きは、昨年の今ごろと比べて楽になりましたか、それとも、苦しくなりましたか。



暮らし向きが「楽になった」(1.7%)と「少し楽になった」(4.8%)を合わせた『楽になった(計)』は6.5%となっている。一方で、「苦しくなった」(10.8%)と「少し苦しくなった」(23.0%)を合わせた『苦しくなった(計)』(33.8%)は3割強となっている。「変わらない」(57.5%)は5割台半ばを超えており、『苦しくなった(計)』を23.7ポイント上回った。

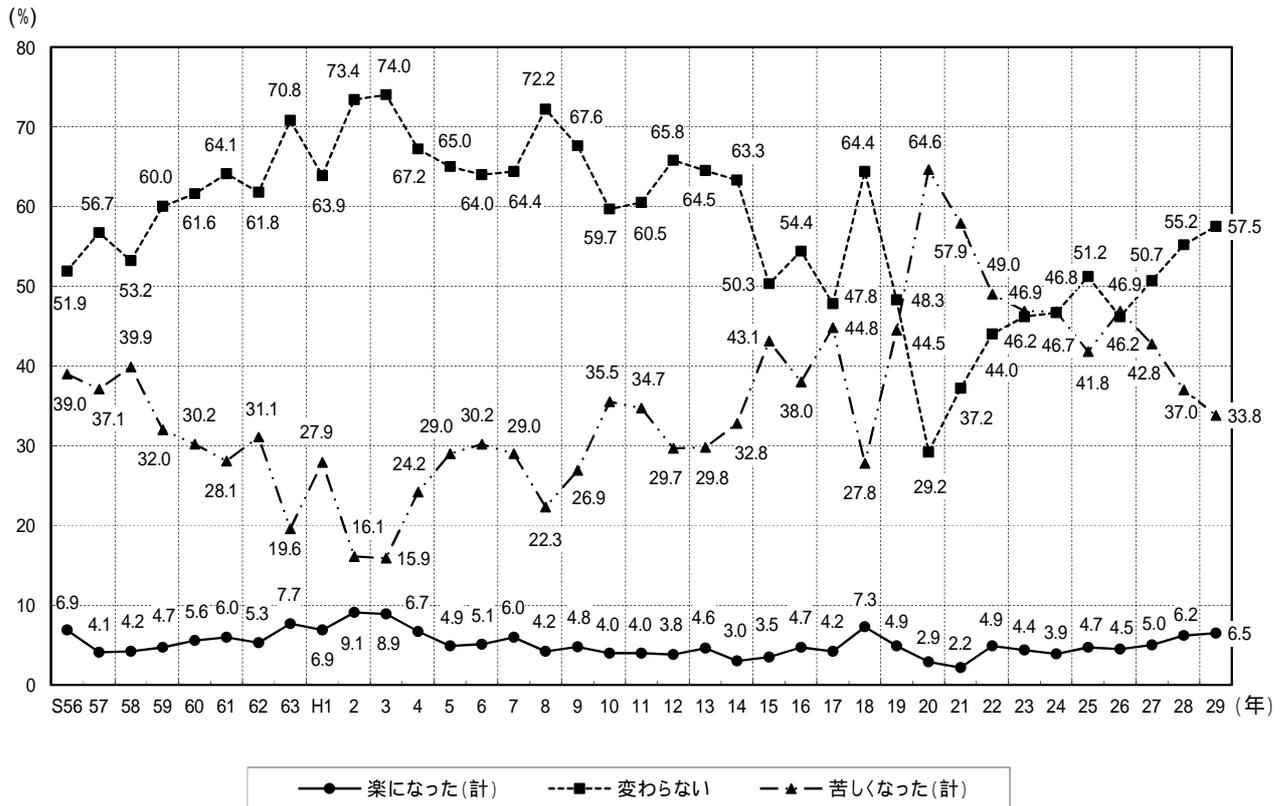
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『苦しくなった(計)』が3.2ポイント減少している一方で、「変わらない」が2.3ポイント増加している。

【経年比較】

この調査を開始した昭和56年以降の推移をみると、『苦しくなった(計)』は最も高かった平成20年(64.6%)からの減少傾向に対し、平成26年調査では46.9%と増加に転じたものの、平成27年調査からは再び3年連続で減少している。

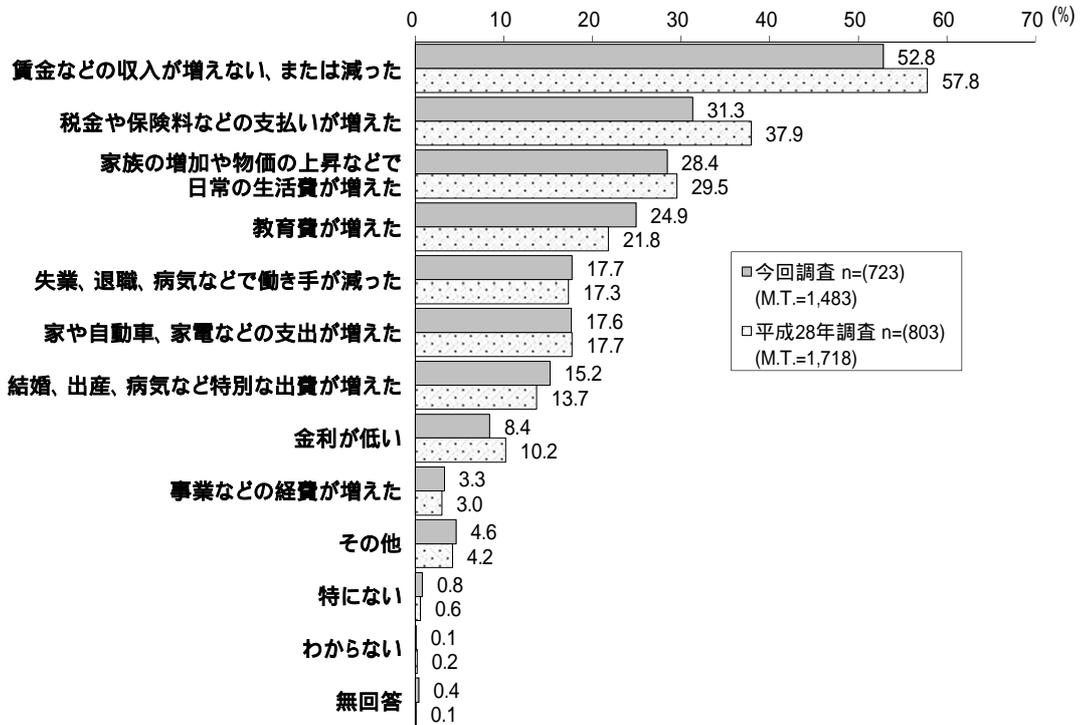
昨年と比べた暮らし向き・昭和56年以降の推移



(1 - 1) 暮らし向きが苦しくなった理由

「賃金などの収入が増えない、または減った」が52.8%と最も高い

(問1で「少し苦しくなった」、「苦しくなった」のいずれかを答えた方に)
問1 - 1 その理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



暮らし向きが苦しくなった理由は、「賃金などの収入が増えない、または減った」(52.8%)が5割強と最も高く、次いで、「税金や保険料などの支払いが増えた」(31.3%)、「家族の増加や物価の上昇などで日常の生活費が増えた」(28.4%)、「教育費が増えた」(24.9%)、「失業、退職、病気などで働き手が減った」(17.7%)、「家や自動車、家電などの支出が増えた」(17.6%)などとなっている。

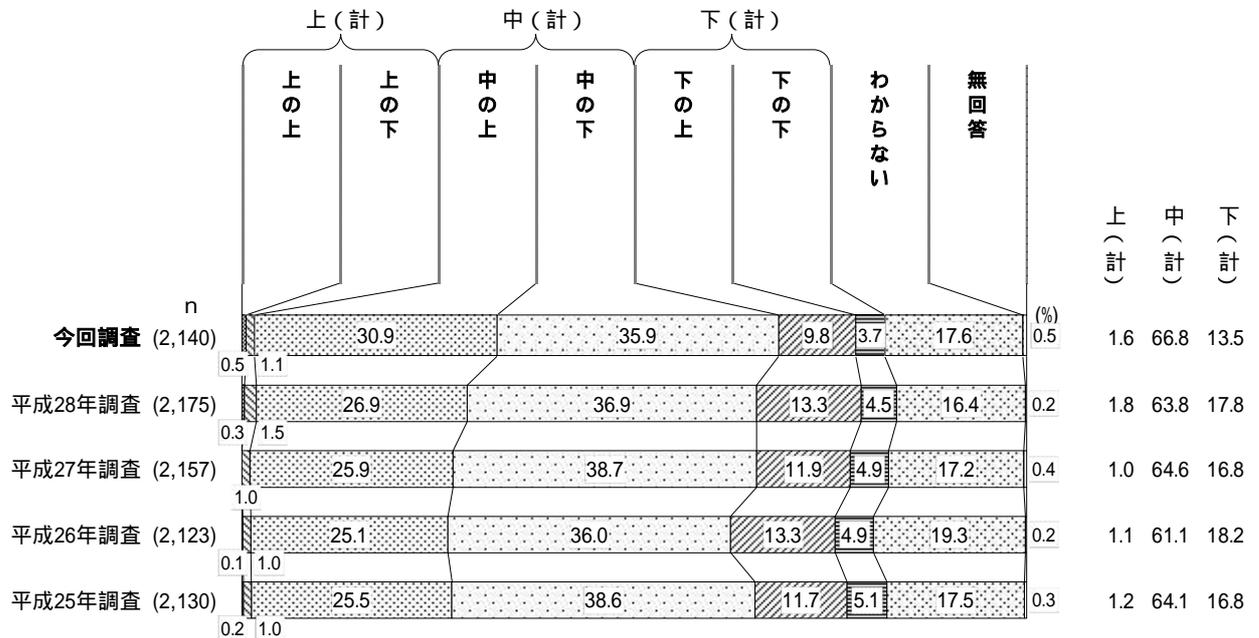
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、「教育費が増えた」(3.1ポイント増)などが増加し、「税金や保険料などの支払いが増えた」(6.6ポイント減)、「賃金などの収入が増えない、または減った」(5.0ポイント減)などが減少している。

(2) 生活程度

『中(計)』が66.8%、『下(計)』は13.5%

問2 お宅の現在の生活程度は、世間一般からみて、この中のどれに属すると思いますか。



世間一般からみた生活程度は、「中の下」(35.9%)が最も高く、次いで、「中の上」(30.9%)となっている。両者を合わせた『中(計)』(66.8%)は6割台半ばを超えている。同様に「下の上」(9.8%)と「下の下」(3.7%)を合わせた『下(計)』(13.5%)は1割強、「上の上」(0.5%)と「上の下」(1.1%)を合わせた『上(計)』は1.6%となっている。

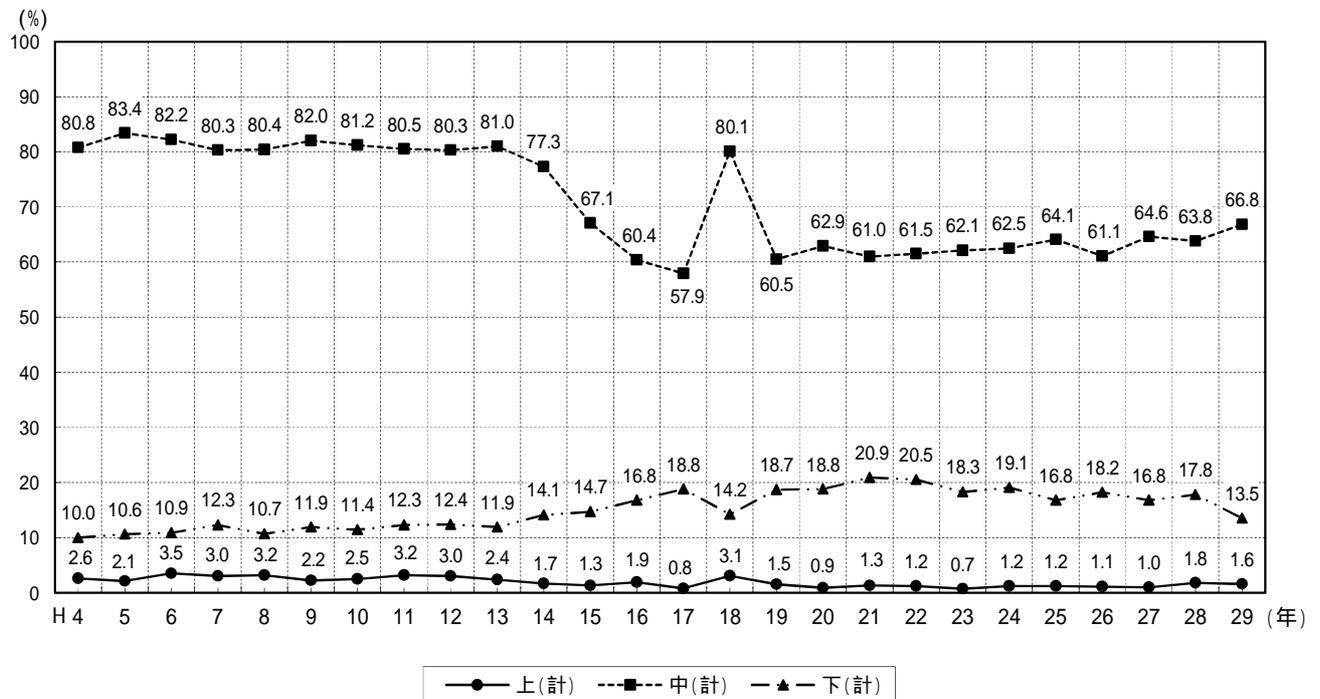
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『中(計)』が3.0ポイント増加、『下(計)』が4.3ポイント減少し、『上(計)』が0.2ポイント減少している。

【経年比較】

平成19年以降、『中(計)』が6割前半で推移していたが、今回調査では66.8%となり、11年振りに6割台半ばを超えている。

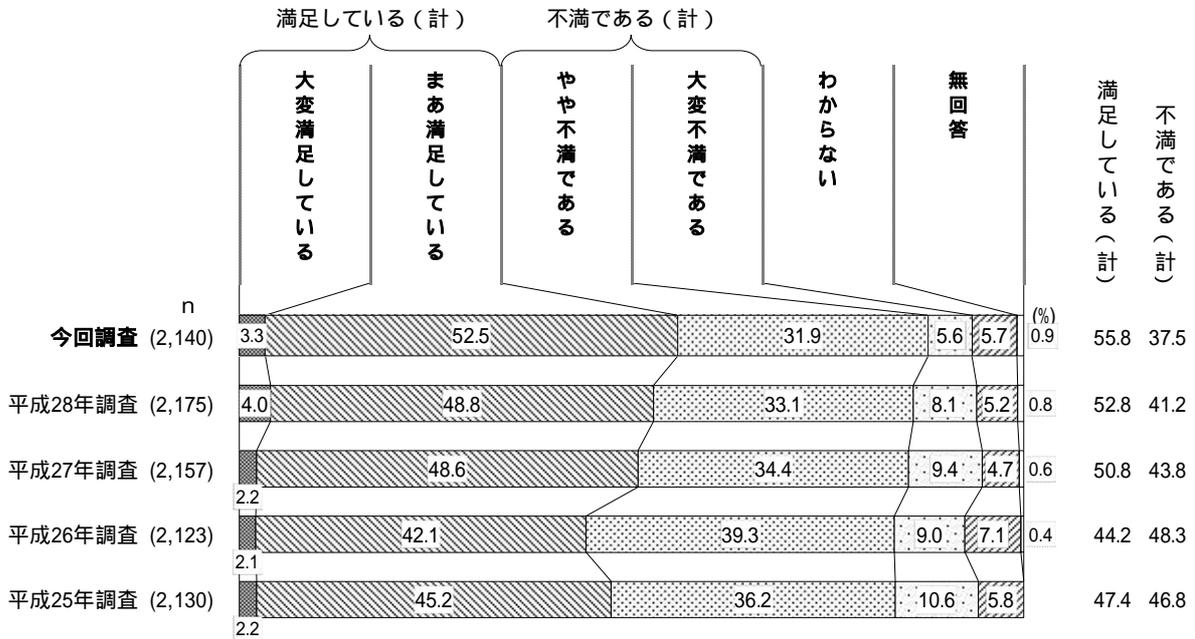
生活程度・平成4年以降の推移



(3) 生活全体の満足度

『満足している(計)』は55.8%、『不満である(計)』は37.5%

問3 あなたは、現在の生活について、全体としてどの程度満足していますか。



生活全体に対する満足度は、「まあ満足している」が52.5%で最も高く、次いで、「やや不満である」が31.9%となっている。「大変満足している」(3.3%)と「まあ満足している」(52.5%)を合わせた『満足している(計)』(55.8%)は5割台半ば、「大変不満である」(5.6%)と「やや不満である」(31.9%)を合わせた『不満である(計)』(37.5%)は3割台後半となっている。『満足している(計)』が『不満である(計)』を18.3ポイント上回っている。

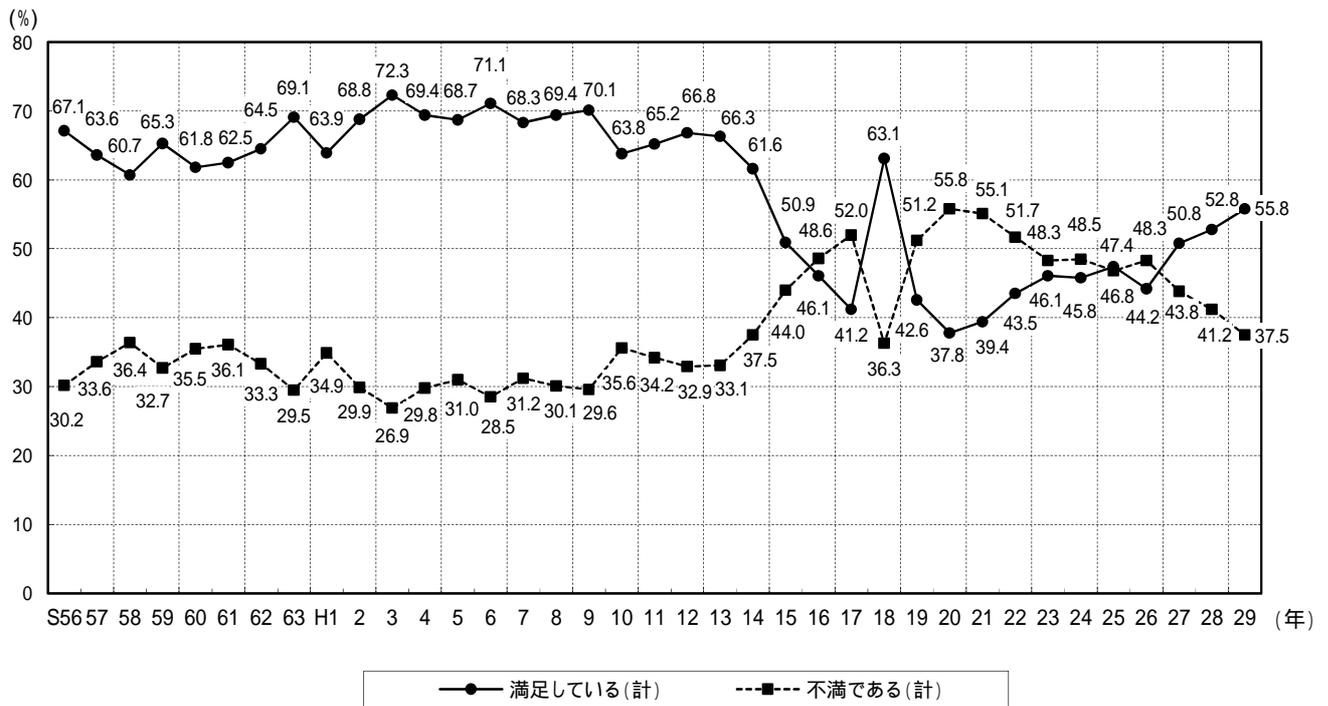
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『満足している(計)』は3.0ポイント増加し、『不満である(計)』は3.7ポイント減少している。

【経年比較】

昭和56年以降の推移をみると、平成19年以降『不満である(計)』の割合が『満足している(計)』をおおむね上回る傾向にあったが、『満足している(計)』の割合が平成27年調査(50.8%)で5割を超えて逆転した。今回調査でも『満足している(計)』(55.8%)が『不満である(計)』(37.5%)を上回る傾向が続き、3年連続となっている。

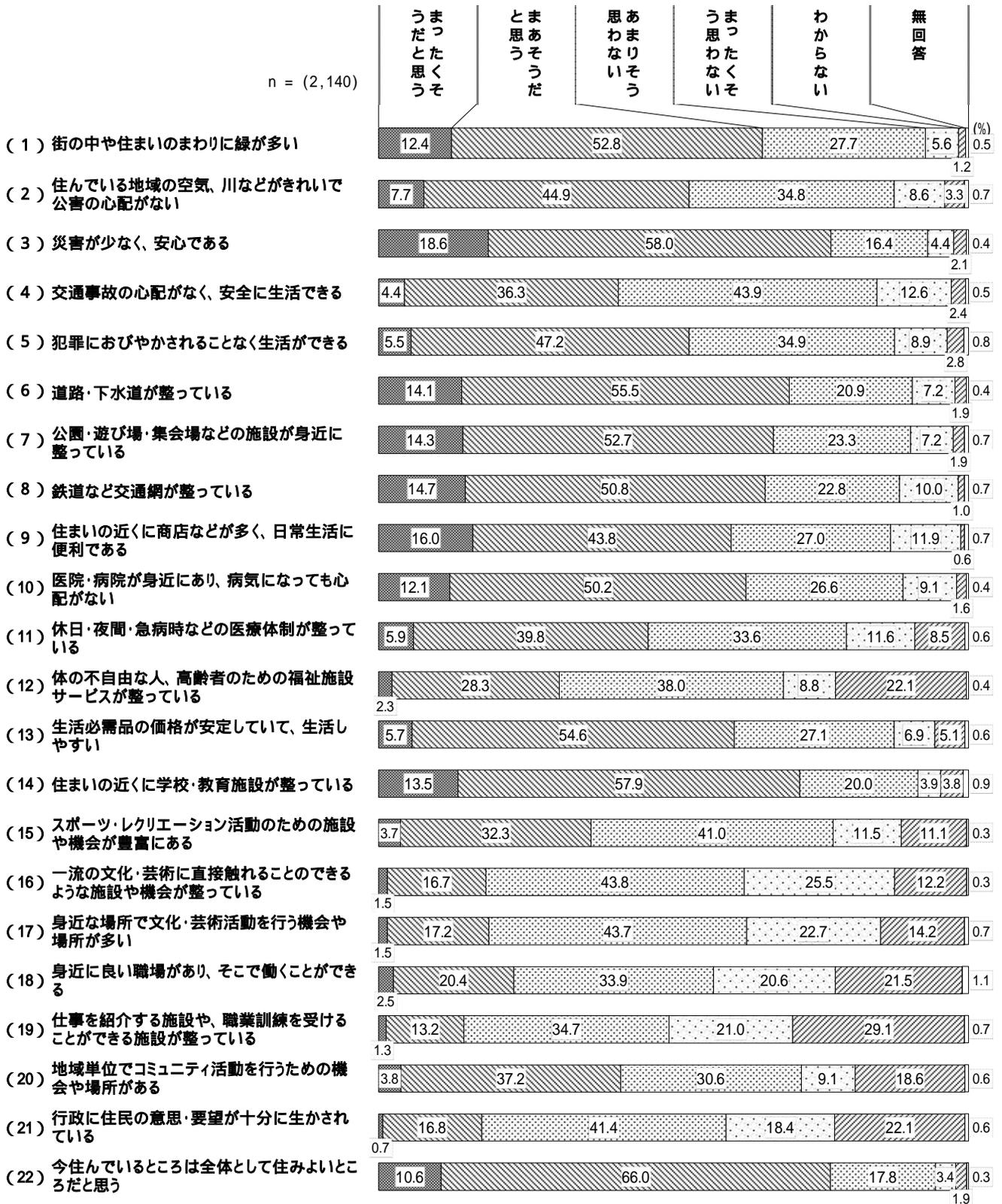
生活全体の満足度・昭和56年以降の推移



(4) 住みよさ

同意率が最も高いのは「災害が少なく、安心である」(76.6%)

問4 あなたは、日ごろの生活の中で今お住まいの地域について、どのように感じていますか。
(1)から(22)のそれぞれについて、そう思うものをお選びください。



日ごろの生活の中で、今住んでいる地域の評価を22の項目（個別評価項目21、全体評価項目1）に分けて聞いた。分析に当たっては、『そうだと思う（計）』（「まったくそうだと思う」＋「まあそうだと思う」）と『そう思わない（計）』（「まったくそう思わない」＋「あまりそう思わない」）の分類と、平均点（「まったくそうだと思う」にプラス2、「まあそうだと思う」にプラス1、「あまりそう思わない」にマイナス1、「まったくそう思わない」にマイナス2、「わからない」に0の得点）の算出を行った。

【個別評価の21項目について】

同意率・不同意率の比較

『そうだと思う（計）』（以下「同意率」という。）の高い項目

1位	災害が少なく、安心である	76.6%
2位	住まいの近くに学校・教育施設が整っている	71.4%
3位	道路・下水道が整っている	69.6%
4位	公園・遊び場・集会場などの施設が身近に整っている	67.0%
5位	鉄道など交通網が整っている	65.5%

『そう思わない（計）』（以下「不同意率」という。）の高い項目

1位	一流の文化・芸術に直接触れることのできるような施設や機会が整っている	69.3%
2位	身近な場所で文化・芸術活動を行う機会や場所が多い	66.4%
3位	行政に住民の意思・要望が十分に生かされている	59.8%
4位	交通事故の心配がなく、安全に生活できる	56.5%
5位	仕事を紹介する施設や、職業訓練を受けることができる施設が整っている	55.7%

平均点の比較

平均点は、プラス評価が11項目で、マイナス評価が10項目となっている。

順位	プラス評価項目	平均点	順位	マイナス評価項目	平均点
1位	災害が少なく、安心である	0.70	12位	地域単位でコミュニティ活動を行うための機会や場所がある	-0.04
2位	住まいの近くに学校・教育施設が整っている	0.58	13位	休日・夜間・急病時などの医療体制が整っている	-0.05
3位	道路・下水道が整っている	0.49	14位	体の不自由な人、高齢者のための福祉施設サービスが整っている	-0.23
4位	公園・遊び場・集会場などの施設が身近に整っている	0.44	15位	交通事故の心配がなく、安全に生活できる	-0.24
5位	街の中や住まいのまわりに緑が多い	0.39		スポーツ・レクリエーション活動のための施設や機会が豊富にある	-0.24
6位	鉄道など交通網が整っている	0.38	17位	身近に良い職場があり、そこで働くことができる	-0.50
7位	医院・病院が身近にあり、病気になっても心配がない	0.30	18位	行政に住民の意思・要望が十分に生かされている	-0.60
8位	住まいの近くに商店などが多く、日常生活に便利である	0.25	19位	仕事を紹介する施設や、職業訓練を受けることができる施設が整っている	-0.61
	生活必需品の価格が安定していて、生活しやすい	0.25	20位	身近な場所で文化・芸術活動を行う機会や場所が多い	-0.69
10位	住んでいる地域の空気、川などがきれいで公害の心配がない	0.08	21位	一流の文化・芸術に直接触れることのできるような施設や機会が整っている	-0.75
11位	犯罪におびやがされることなく生活ができる	0.06			

(注) 平均点 = 「まったくそうだと思う」にプラス2、「まあそうだと思う」にプラス1、「あまりそう思わない」にマイナス1、「まったくそう思わない」にマイナス2、「わからない」を0とした。

全体評価項目について

「今住んでいるところは全体として住みよいところだと思う」は同意率76.6%、平均点0.63点で、同意率は個別評価項目の「災害が少なく、安心である」と同率であり、それ以外のすべての項目を上回っている。

同意率の高い順

	同意率 (%)	不同意率 (%)	平均点
【全体評価項目】			
今住んでいるところは全体として住みよいところだと思う	76.6	21.2	0.63
【個別評価21項目】			
(3) 災害が少なく、安心である	76.6	20.8	0.70
(14) 住まいの近くに学校・教育施設が整っている	71.4	23.9	0.58
(6) 道路・下水道が整っている	69.6	28.1	0.49
(7) 公園・遊び場・集会場などの施設が身近に整っている	67.0	30.5	0.44
(8) 鉄道など交通網が整っている	65.5	32.8	0.38
(1) 街の中や住まいのまわりに緑が多い	65.2	33.3	0.39
(10) 医院・病院が身近にあり、病気になっても心配がない	62.3	35.7	0.30
(13) 生活必需品の価格が安定していて、生活しやすい	60.3	34.0	0.25
(9) 住まいの近くに商店などが多く、日常生活に便利である	59.8	38.9	0.25
(5) 犯罪におびやかされることなく生活ができる	52.7	43.8	0.06
(2) 住んでいる地域の空気、川などがきれいで公害の心配がない	52.6	43.4	0.08
(11) 休日・夜間・急病時などの医療体制が整っている	45.7	45.2	-0.05
(20) 地域単位でコミュニティ活動を行うための機会や場所がある	41.0	39.7	-0.04
(4) 交通事故の心配がなく、安全に生活できる	40.7	56.5	-0.24
(15) スポーツ・レクリエーション活動のための施設や機会が豊富にある	36.0	52.5	-0.24
(12) 体の不自由な人、高齢者のための福祉施設サービスが整っている	30.6	46.8	-0.23
(18) 身近に良い職場があり、そこで働くことができる	22.9	54.5	-0.50
(17) 身近な場所で文化・芸術活動を行う機会や場所が多い	18.7	66.4	-0.69
(16) 一流の文化・芸術に直接触れることのできるような施設や機会が整っている	18.2	69.3	-0.75
(21) 行政に住民の意思・要望が十分に生かされている	17.5	59.8	-0.60
(19) 仕事を紹介する施設や、職業訓練を受けられる施設が整っている	14.5	55.7	-0.61

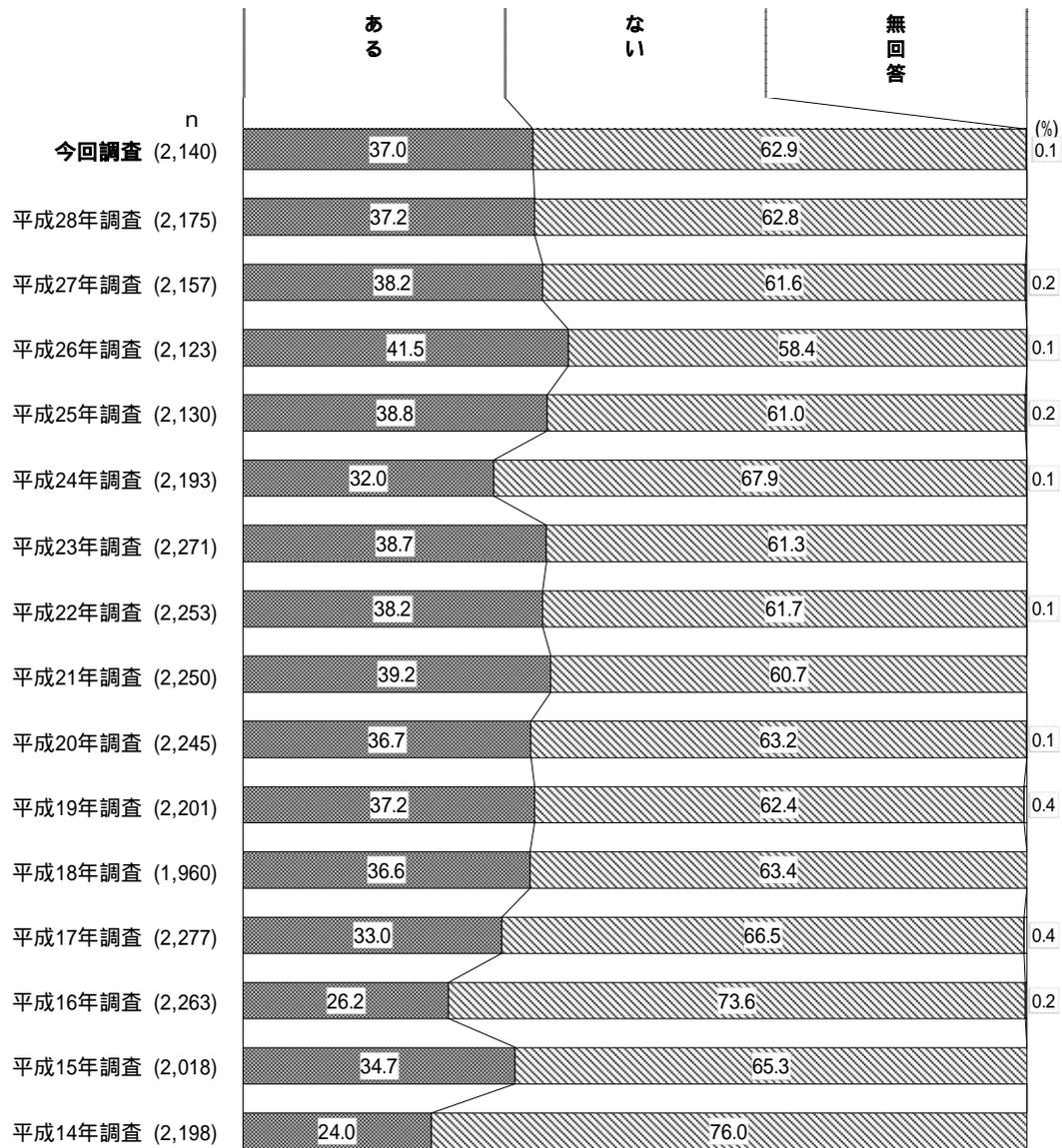
2 日常生活

(1) 地域社会活動への参加経験

参加経験が「ある」37.0%、「ない」62.9%

問5 次に、あなたの日常生活に関連することについておたずねいたします。

(1) あなたは、過去1年間に、自治会活動（清掃活動や防犯パトロール、地域運動会への参加など）やPTA活動、子供会活動、学校応援団（読み聞かせボランティアなど）、障がい者や高齢者の方々のための活動、青少年健全育成のための活動、みどりと川の再生活動など、地域活動やNPO・ボランティア活動に参加したことがありますか。



過去1年間に地域活動やNPO・ボランティア活動に参加したことが「ある」(37.0%)は3割台半ばを超えている。

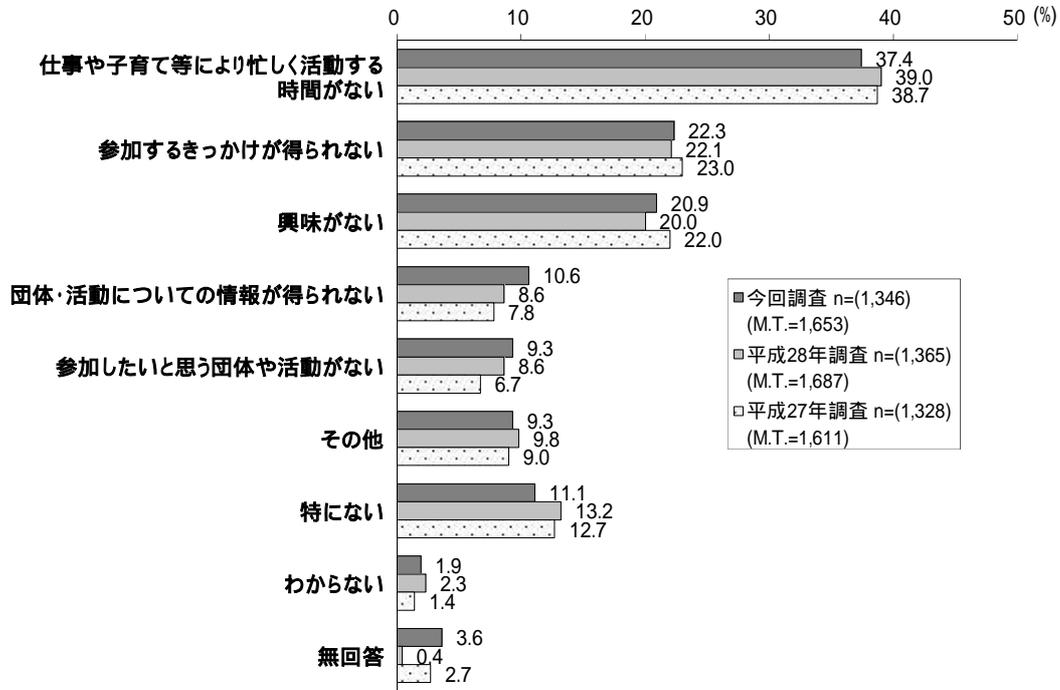
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、「ある」は0.2ポイント減少している。

(1 - 1) 地域社会活動への不参加の理由

「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」が37.4%

(問5(1)で「ない」と答えた方に)
 問5(1)-1 その理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



地域活動やNPO・ボランティア活動への不参加の理由は、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」(37.4%)が最も高く、次いで、「参加するきっかけが得られない」(22.3%)、「興味がない」(20.9%)、「団体・活動についての情報が得られない」(10.6%)、「参加したいと思う団体や活動がない」(9.3%)となっている。

【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、「団体・活動についての情報が得られない」(2.0ポイント増)などが増加し、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」(1.6ポイント減)などが減少している。

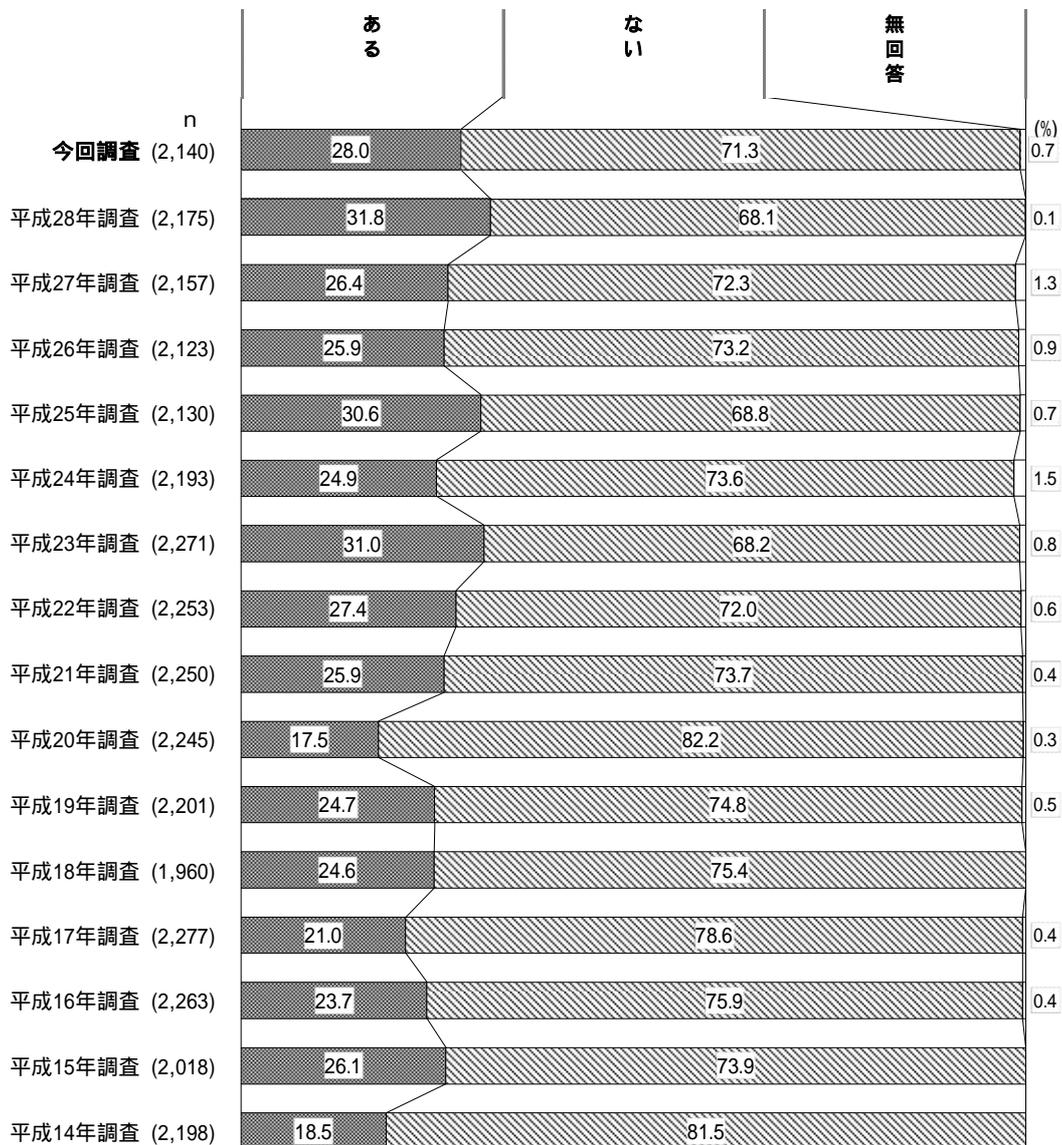
(2) 文化芸術活動の経験

文化芸術活動の経験が「ある」28.0%、「ない」71.3%

問5(2) あなたは、この1年間に、文化芸術活動()を行ったことがありますか。

文化芸術活動とは、以下のような分野での活動です。

- ・音楽(クラシック、ロック、ポピュラー、コーラス、演歌など)
- ・美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)
- ・写真(ポートレート、風景、スナップ写真など)
- ・文芸(小説、詩、俳句、短歌など)
- ・生活文化(書道、華道、盆栽など)
- ・国民娯楽(囲碁、将棋など)
- ・舞踊(バレエ、ダンスなど)
- ・伝統芸能(歌舞伎、能・狂言、日本舞踊、和太鼓、箏曲、神楽、獅子舞など)
- ・演劇(現代劇、ミュージカルなど)
- ・演芸(落語、漫談、漫才など)
- ・映画・漫画・アニメ・コンピューターグラフィックス



平成22年調査までは、設問文を「現在、自主的な文化芸術活動を行っていますか」とし、選択肢を「行っている」と「行っていない」としていた。

この1年間に文化芸術活動を行ったことが「ある」(28.0%)は3割弱となっている。

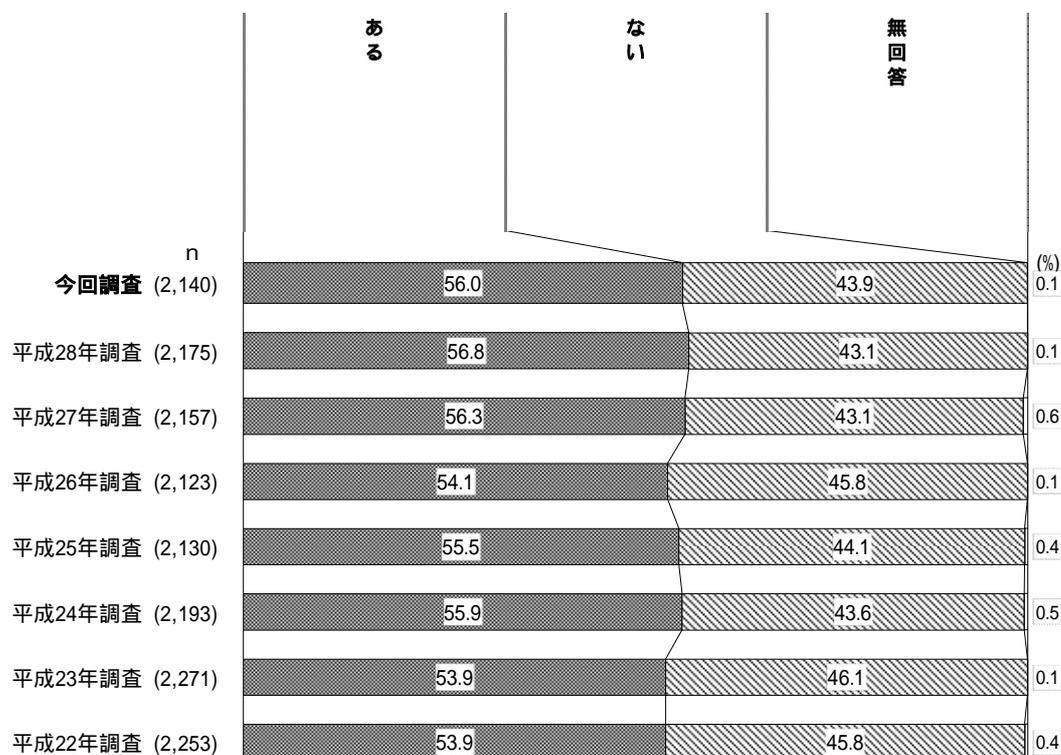
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、「ある」は3.8ポイント減少した。

(3) 文化芸術活動の鑑賞

文化芸術活動の鑑賞は「ある」56.0%、「ない」43.9%

問5(3) あなたは、この1年間に、文化芸術活動を鑑賞するためにホール・劇場、映画館、美術館、博物館などに出かけたことがありますか。



この1年間で、文化芸術活動を鑑賞するためにホール・劇場、映画館、美術館、博物館などに出かけたことが「ある」(56.0%)は5割台半ばを超えており、「ない」(43.9%)を12.1ポイント上回っている。

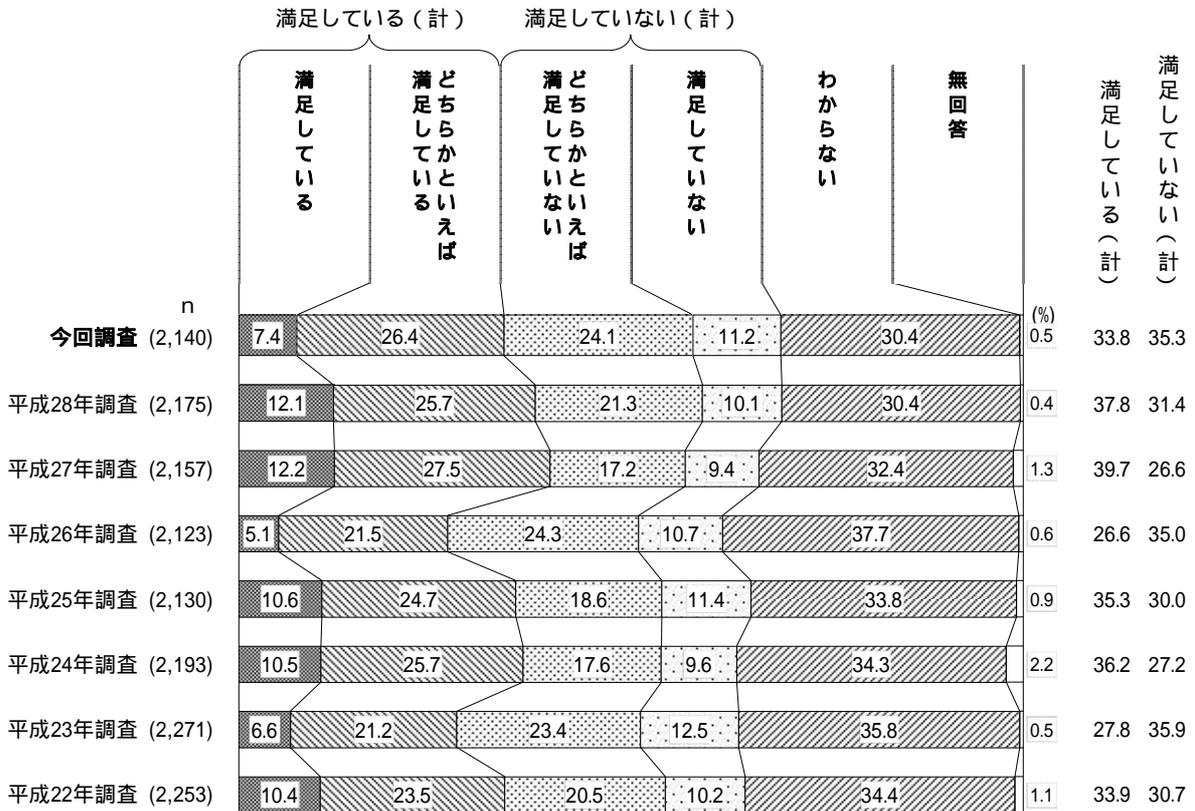
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、「ある」は0.8ポイント減少した。

(4) 文化芸術活動の機会や環境の満足度

『満足している(計)』は33.8%、『満足していない(計)』は35.3%

問5(4)あなたは、日常生活の中で文化芸術を鑑賞したり、文化芸術活動を行ったりする機会や環境について、満足していますか。



日常生活の中での文化芸術活動の機会や環境の満足度は、「どちらかといえば満足している」(26.4%)が2割台半ばを超えて最も高くなっており、これに「満足している」(7.4%)を合わせた『満足している(計)』(33.8%)は3割強となっている。一方で、「満足していない」(11.2%)と「どちらかといえば満足していない」(24.1%)を合わせた『満足していない(計)』(35.3%)は、3割台半ばとなっている。また、「わからない」(30.4%)も3割を超えて高くなっている。

【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『満足していない(計)』が3.9ポイント増加し、『満足している(計)』が4.0ポイント減少している。

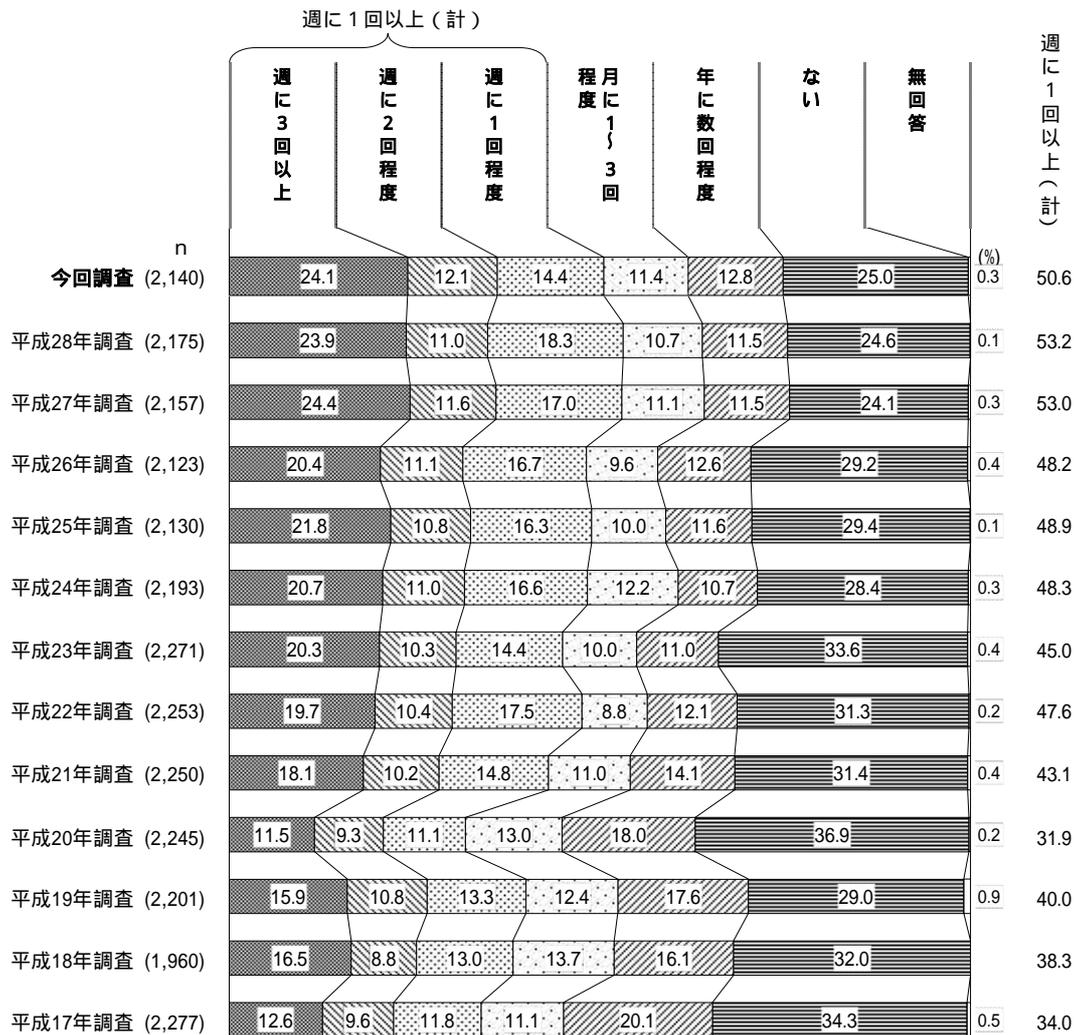
(5) スポーツをする機会

『週に1回以上(計)』は50.6%

問6 埼玉県では、週に1回以上スポーツをすることを推奨しています。あなたは、過去1年間に、スポーツ・レクリエーション活動をする機会がどのくらいありましたか。(散歩やウォーキング、軽い体操、子供との体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなど()も含めます。)

スポーツ・レクリエーション活動には、以下のような活動も含めます。

〔散歩・ウォーキング、ジョギング・ランニング、水泳、体操(軽い体操・ラジオ体操を含む)、登山(トレッキングを含む)、ハイキング、ボウリング、ゴルフ、筋力トレーニング、釣り、サイクリング、ゲートボール、フォークダンス、民謡踊りなど〕



選択肢「月に1~3回程度」は、平成22年から平成26年調査までは「月に1~2回程度」としていた。
また、平成24年調査までの選択肢「ない」は、「ない」と「わからない」の合計である。

過去1年間のスポーツをする機会は、「ない」(25.0%)が2割台半ばと最も高く、次いで、「週に3回以上」(24.1%)、「週に1回程度」(14.4%)などとなっている。また、『週に1回以上(計)』(「週に3回以上」(24.1%)、「週に2回程度」(12.1%)、「週に1回程度」(14.4%)の合計50.6%)は5割を超えている。

週に1回以上スポーツをする満20歳以上の県民の割合は50.2%となっている(平成28年調査は52.9%)。

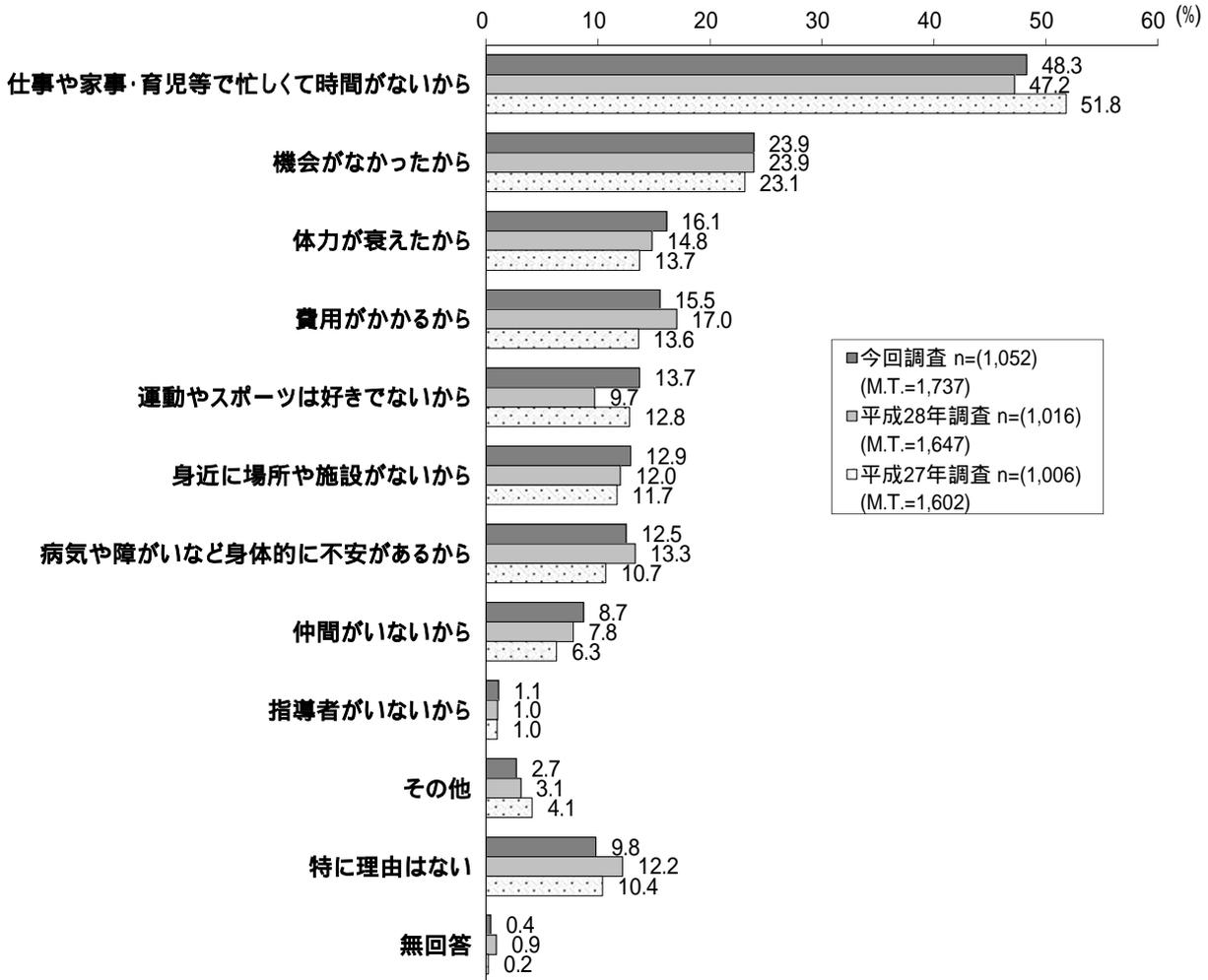
【過去調査との比較】

『週に1回以上(計)』(50.6%)は平成28年調査から2.6ポイント減少している。

(5 - 1) スポーツをする機会がなかった理由

「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」が48.3%

(問6で「月に1～3回程度」「年に数回程度」「ない」のいずれかを答えた方に)
 問6 - 1 週に1回以上活動する機会がなかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



週に1回以上スポーツをする機会がなかった理由は、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」(48.3%)が5割弱で最も高く、次いで、「機会がなかったから」(23.9%)、「体力が衰えたから」(16.1%)、「費用がかかるから」(15.5%)、「運動やスポーツは好きでないから」(13.7%)などとなっている。

【過去調査との比較】

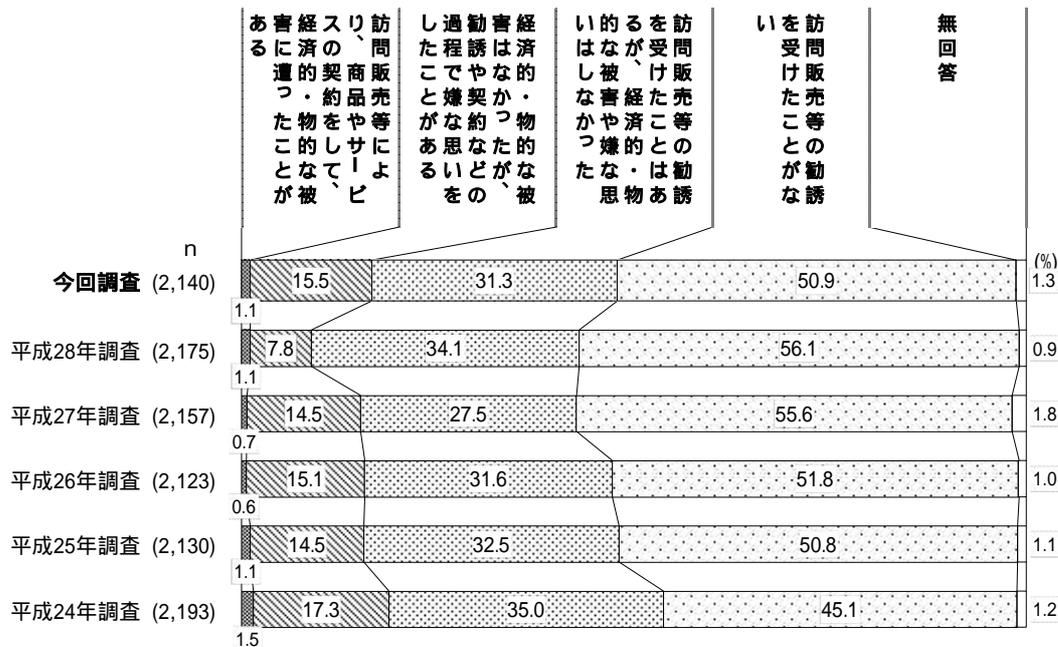
平成28年調査と比べて、「運動やスポーツは好きでないから」(4.0ポイント増)、「仲間がないから」(0.9ポイント増)などが増加している。

(6 - 1) 訪問販売、電話勧誘販売、通信販売による経済的・物的な被害

「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」が50.9%

問7 消費生活についておたずねいたします。

(1) あなたはここ1年以内に、訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによって、経済的・物的な被害に遭った、または嫌な思いをしたことがありますか。



訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによる経済的・物的な被害は、「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」(50.9%) が5割を超えて最も高くなっている。訪問販売等を受けたことがある中では、「訪問販売等の勧誘を受けたことはあるが、経済的・物的な被害や嫌な思いはしなかった」(31.3%) が3割強で最も高くなっている。また、「経済的・物的な被害はなかったが、勧誘や契約などの過程で嫌な思いをしたことがある」(15.5%) は1割台半ばとなっており、「訪問販売等により、商品やサービスの契約をして、経済的・物的な被害に遭ったことがある」(1.1%) は極めて低くなっている。

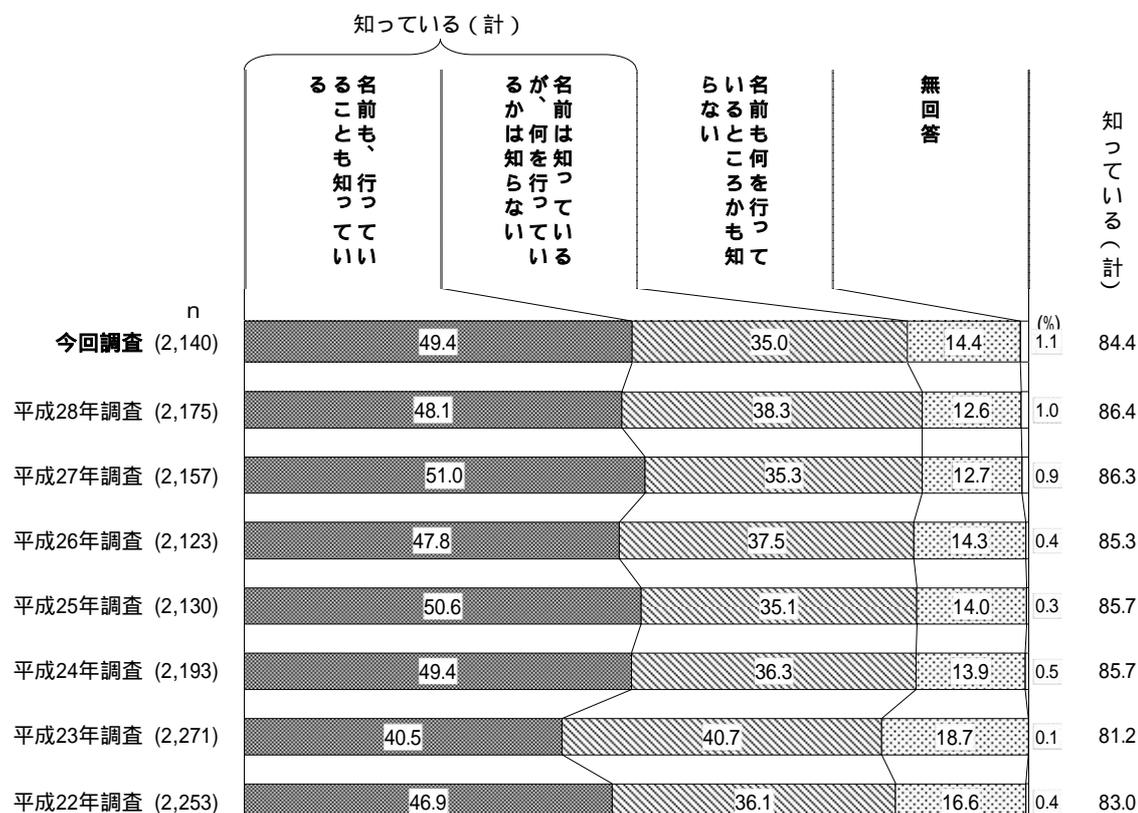
【過去調査との比較】

「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」は調査開始の平成24年から平成28年までは増加傾向にあったが、今回調査では5.2ポイント減少している。「経済的・物的な被害はなかったが、勧誘や契約などの過程で嫌な思いをしたことがある」は平成28年調査と比べて7.7ポイント増加している。

(6 - 2) 消費生活センターの認知度

『知っている(計)』が84.4%

問7(2)あなたは契約トラブルの相談・助言や商品テストを行っている消費生活センター(または消費生活相談窓口)を知っていますか。



消費生活センター(または消費生活相談窓口)の認知度は、「名前も、行っていることも知っている」(49.4%)が約5割、これに「名前を知っているが、何を行っているかは知らない」(35.0%)を合わせた『知っている(計)』(84.4%)は8割台半ばである。一方で、「名前も何を行っているところかも知らない」(14.4%)は1割台半ばとなっている。

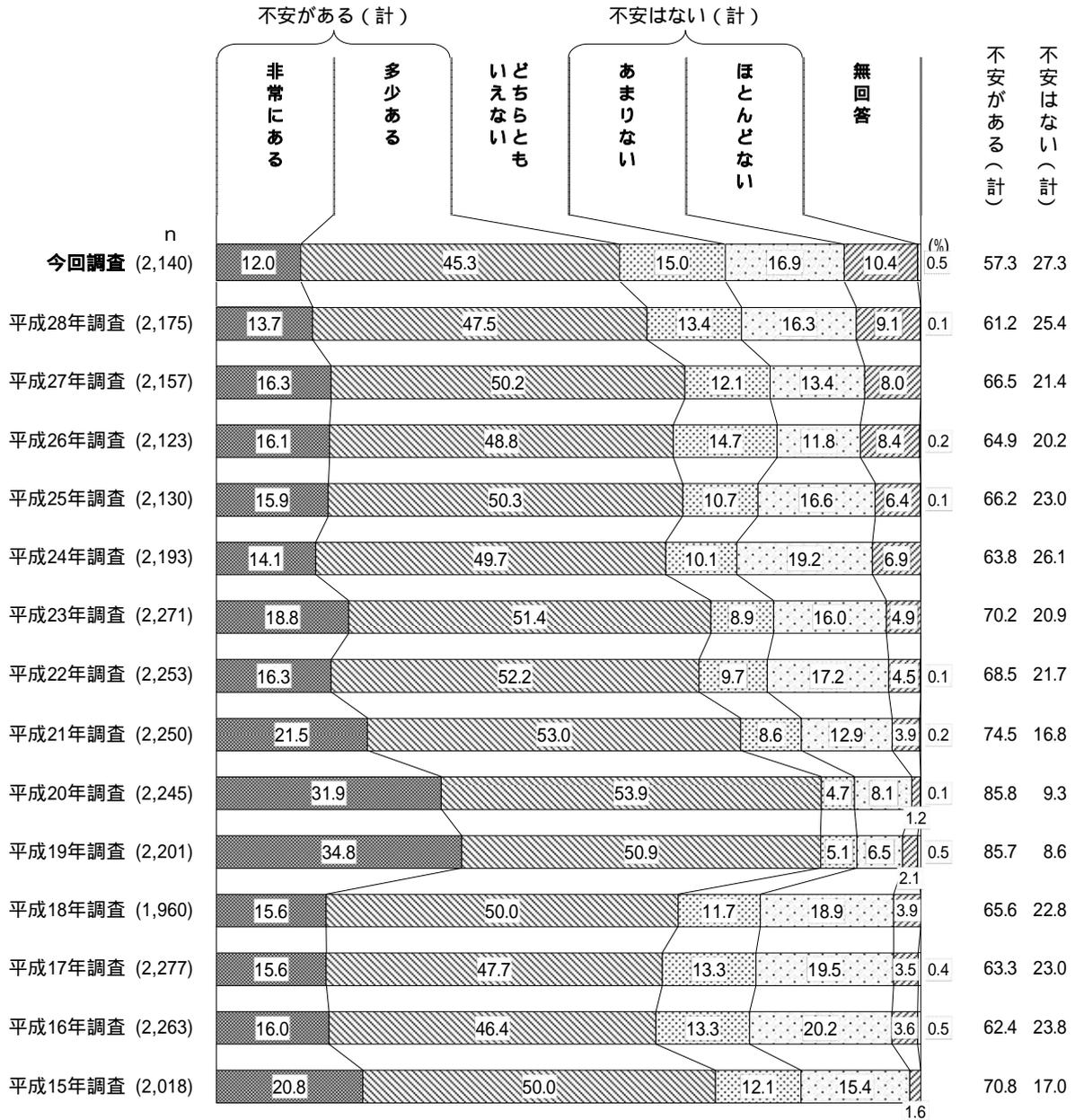
【過去調査との比較】

「名前も、行っていることも知っている」は平成28年調査から1.3ポイント増加したが、『知っている(計)』は2.0ポイント減少した。

(7) 食品の安全性に対する意識

『不安がある(計)』が57.3%

問8 食品の安全性についておたずねいたします。
あなたは、食品の安全性に不安がありますか。



食品の安全性に関して、不安が「多少ある(45.3%)」が4割台半ばと最も高く、「非常にある(12.0%)」と合わせた『不安がある(計)』(57.3%)は5割台半ばを超えている。一方で、不安が「ほとんどない(10.4%)」と「あまりない(16.9%)」を合わせた『不安はない(計)』(27.3%)は2割台半ばを超えている。

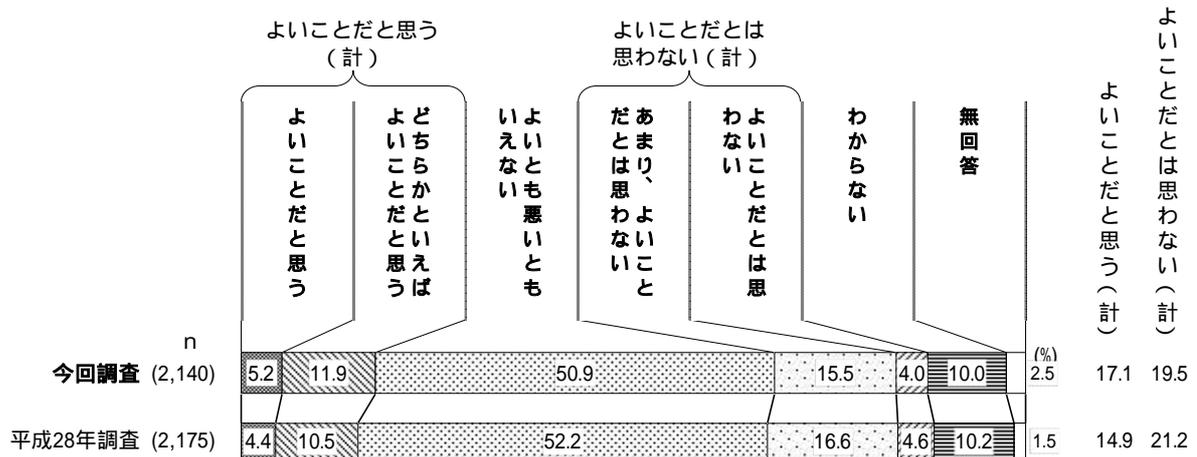
【過去調査との比較】

『不安がある(計)』の割合は、平成25年から平成27年の調査では6割台半ば程度で推移していたが、平成28年調査では5.3ポイント、今回調査では3.9ポイントと連続で減少している。

(8) 外国人増加に対する感想

「よいとも悪いともいえない」が50.9%

問9 県内の外国人住民についておたずねいたします。
 県内には、約15万人の外国人が住んでおり、今後も増えていくことが予想されています。
 あなたは、お住まいの地域に外国人が増えていくことをどのように思いますか。



地域に外国人が増えていくことに関して、「よいとも悪いともいえない」(50.9%)が5割を超えて最も高く、次いで「あまり、よいことだとは思わない」(15.5%)が1割台半ば、「よいことだとは思わない」(4.0%)と合わせた『よいことだとは思わない(計)』(19.5%)は約2割となっている。一方で、「よいことだと思ふ」(5.2%)と「どちらかといえばよいことだと思ふ」(11.9%)を合わせた『よいことだと思ふ(計)』(17.1%)は1割台半ばを超えている。

【過去調査との比較】

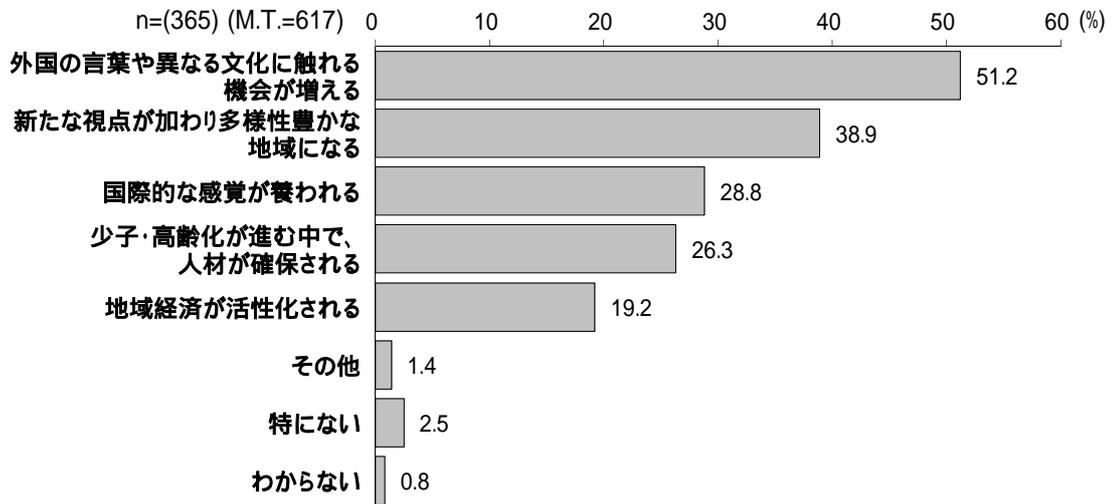
平成28年調査と比べて、『よいことだと思ふ(計)』が2.2ポイント増加、『よいことだとは思わない(計)』が1.7ポイント減少している。

(8 - 1) 外国人増加をよいことだと思ふ理由

「外国の言葉や異なる文化に触れる機会が増える」が51.2%

(問9で「よいことだと思ふ」「どちらかといえばよいことだと思ふ」のいずれかを答えた方に)

問9 - 1 その理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



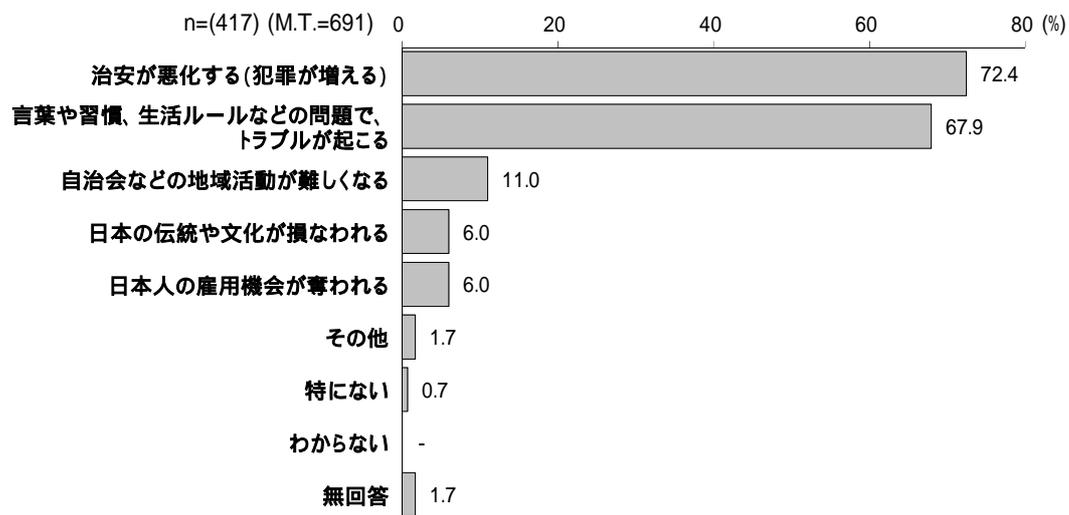
外国人増加をよいことだと思ふ理由は、「外国の言葉や異なる文化に触れる機会が増える」(51.2%) が5割強と最も高く、次いで、「新たな視点が加わり多様性豊かな地域になる」(38.9%)、「国際的な感覚が養われる」(28.8%)、「少子・高齢化が進む中で、人材が確保される」(26.3%)、「地域経済が活性化される」(19.2%) などとなっている。

(8 - 2) 外国人増加をよいことだと思わない理由

「治安が悪化する(犯罪が増える)」72.4%と「言葉や習慣、生活ルールなどの問題で、トラブルが起こる」67.9%が突出

(問9で「あまり、よいことだとは思わない」「よいことだとは思わない」のいずれかを答えた方に)

問9 - 2 その理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



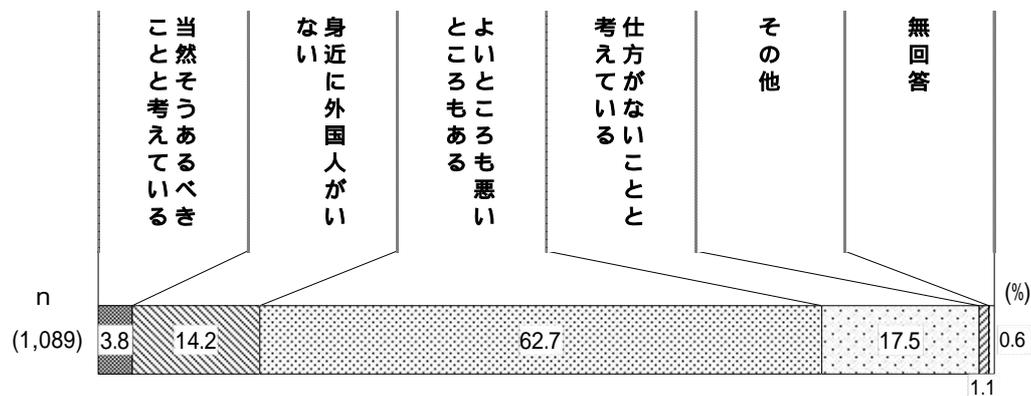
外国人増加をよいことだと思わない理由は、「治安が悪化する(犯罪が増える)」(72.4%)と「言葉や習慣、生活ルールなどの問題で、トラブルが起こる」(67.9%)が突出して高くなっている。次いで、「自治会などの地域活動が難しくなる」(11.0%)、「日本の伝統や文化が損なわれる」(6.0%)、「日本人の雇用機会が奪われる」(6.0%)などとなっている。

(8 - 3) 外国人増加をよいとも悪いともいえない理由

「よいところも悪いところもある」が62.7%

(問9で「よいとも悪いともいえない」を答えた方に)

問9 - 3 その理由は何ですか。次の中から1つ選んでください。

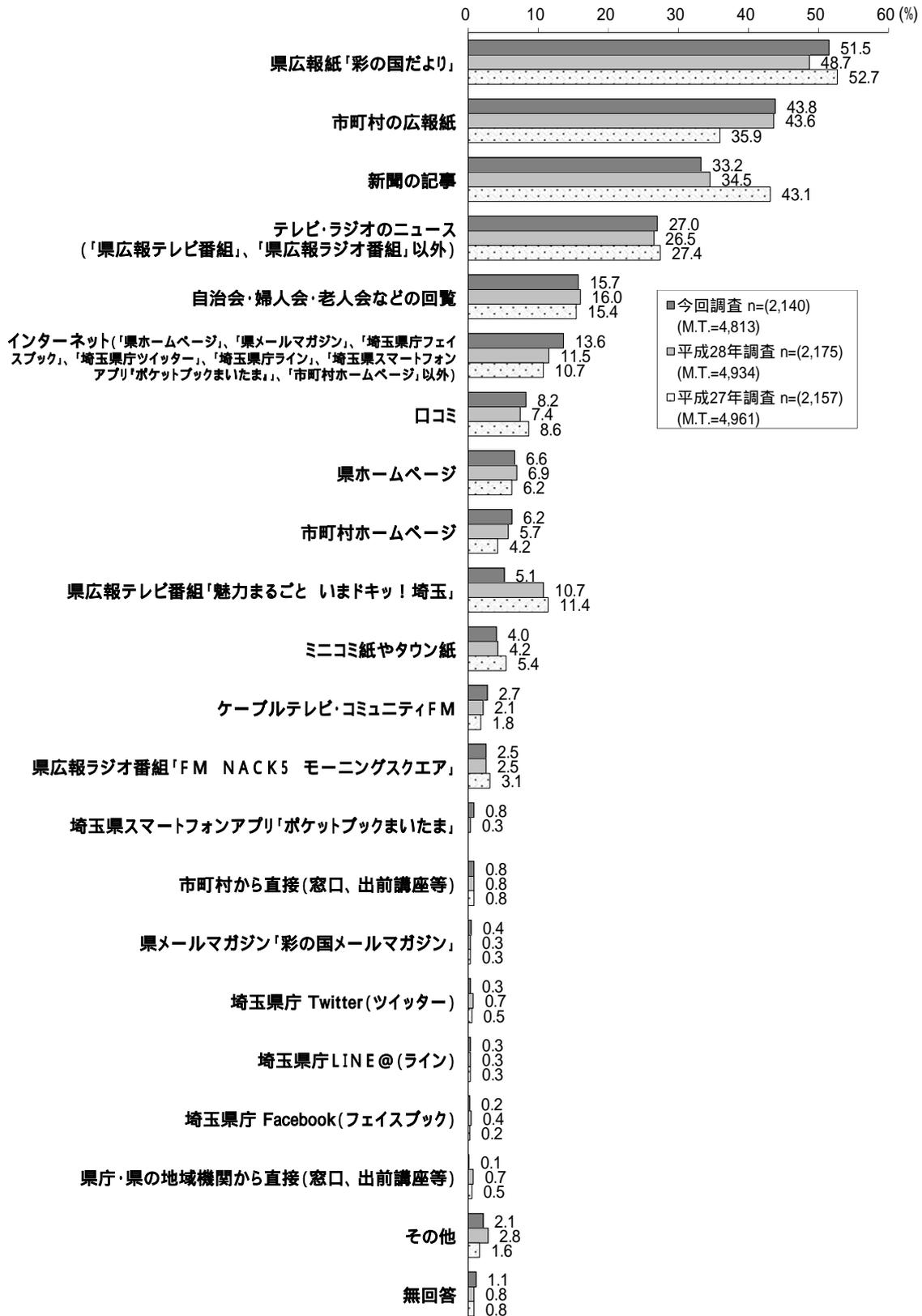


外国人増加をよいとも悪いともいえない理由は、「よいところも悪いところもある」(62.7%)が6割強と最も高く、「仕方がないことと考えている」(17.5%)が1割台半ばを超え、「身近に外国人がない」(14.2%)が1割台半ばとなっている。

(9) 埼玉県に関する情報の入手先

「県広報紙「彩の国だより」」が51.5%

問10 あなたは、埼玉県に関する情報を主にどこから入手していますか。次の中から3つまで選んでください。



平成27年調査から「埼玉県庁LINE@(ライン)」を、平成28年調査から「埼玉県スマートフォンアプリ『ポケットブックまいたま』」を追加した。今回調査から番組名の変更に伴い、「県広報テレビ番組『テレ玉 彩の国ニュース ほっと』」を「県広報テレビ番組『魅力まるごと いまドキッ! 埼玉』」へ変更した。

埼玉県に関する情報の入手先は、「県広報紙「彩の国だより」」(51.5%)が5割強と最も高く、次いで、「市町村の広報紙」(43.8%)が4割強、「新聞の記事」(33.2%)が3割強となっている。以下、「テレビ・ラジオのニュース」(27.0%)、「自治会・婦人会・老人会などの回覧」(15.7%)、「インターネット」(13.6%)、「口コミ」(8.2%)などとなっている。

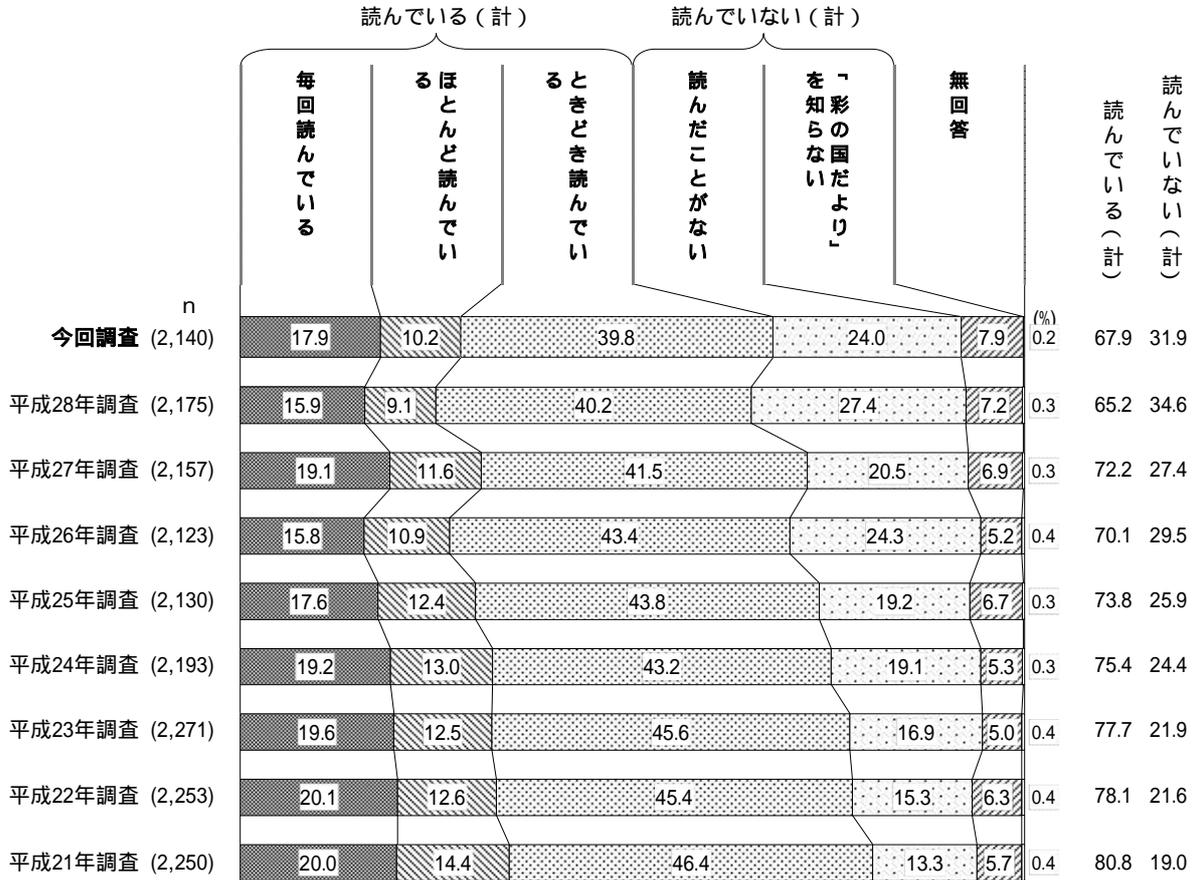
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、「県広報紙「彩の国だより」」は2.8ポイント増加、「インターネット」は2.1ポイント増加している。

(10) 県広報紙「彩の国だより」の閲読状況

『読んでいる(計)』が67.9%

問11 県広報紙「彩の国だより」を読んだことがありますか。



県広報紙「彩の国だより」の閲読状況は、「ときどき読んでいる」(39.8%)が約4割と最も高く、これに「毎回読んでいる」(17.9%)と「ほとんど読んでいる」(10.2%)を合わせた『読んでいる(計)』(67.9%)は6割台半ばを超えている。一方で、「読んだことがない」(24.0%)と「「彩の国だより」を知らない」(7.9%)を合わせた『読んでいない(計)』(31.9%)は3割強となっている。

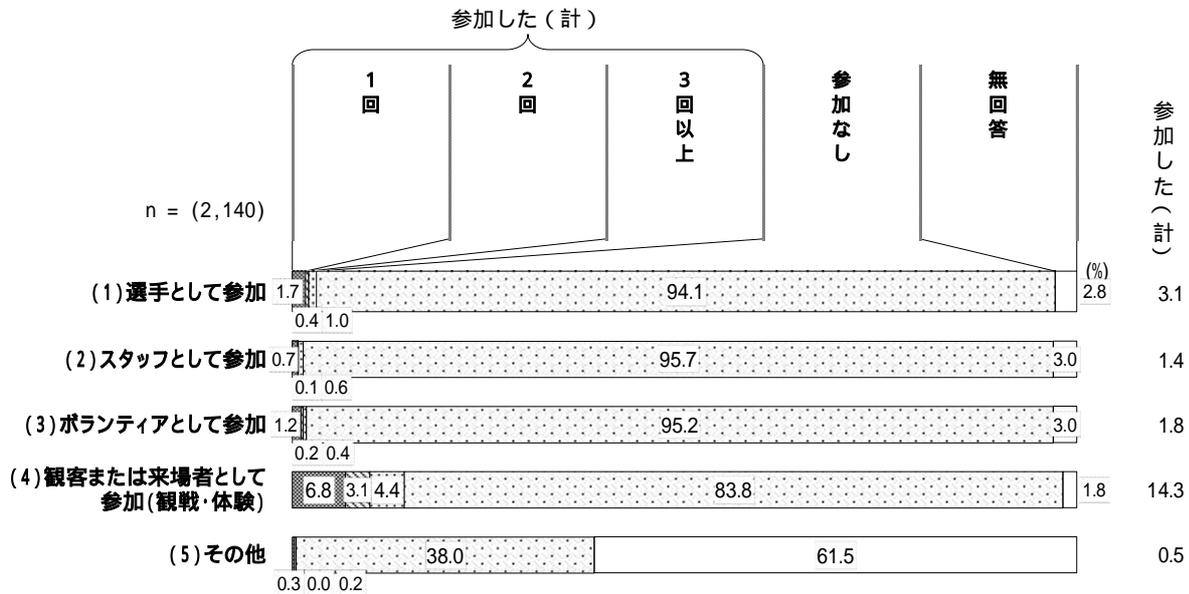
【過去調査との比較】

『読んでいる(計)』は、平成21年調査以降は徐々に減少傾向にあり、平成28年調査では7.0ポイント減少したが、今回調査では2.7ポイント増加している。

(11) スポーツイベントへの参加状況

『参加した(計)』は観客または来場者として参加(観戦・体験)が14.3%

問12 過去1年間のスポーツイベント(例:さいたま国際マラソンへの出場、プロスポーツの観戦など)への参加状況について、各項目ごとに参加回数をお答えください。(活動内容ごとに1つずつ選択)



スポーツイベントへの参加状況について、「1回」、「2回」、「3回以上」を合わせた『参加した(計)』は、観客または来場者として参加(観戦・体験)(14.3%)が1割台半ばと最も高く、それ以外は1割未満となっている。一方、「参加なし」は、スタッフとして参加(95.7%)、ボランティアとして参加(95.2%)、選手として参加(94.1%)、観客または来場者として参加(観戦・体験)(83.8%)で高くなっている。

(1) 選手として参加

『参加した(計)』は3.1%、「参加なし」(94.1%)は9割台半ばとなっている。

【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『参加した(計)』は0.5ポイント減少している。

(2) スタッフとして参加

『参加した(計)』は1.4%、「参加なし」(95.7%)は9割台半ばとなっている。

【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『参加した(計)』は1.1ポイント減少している。

(3) ボランティアとして参加

『参加した(計)』は1.8%、「参加なし」(95.2%)は9割台半ばとなっている。

【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『参加した(計)』は0.5ポイント減少している。

(4) 観客または来場者として参加(観戦・体験)

『参加した(計)』は14.3%、「参加なし」(83.8%)は8割強となっている。

【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『参加した(計)』は1.9ポイント減少している。

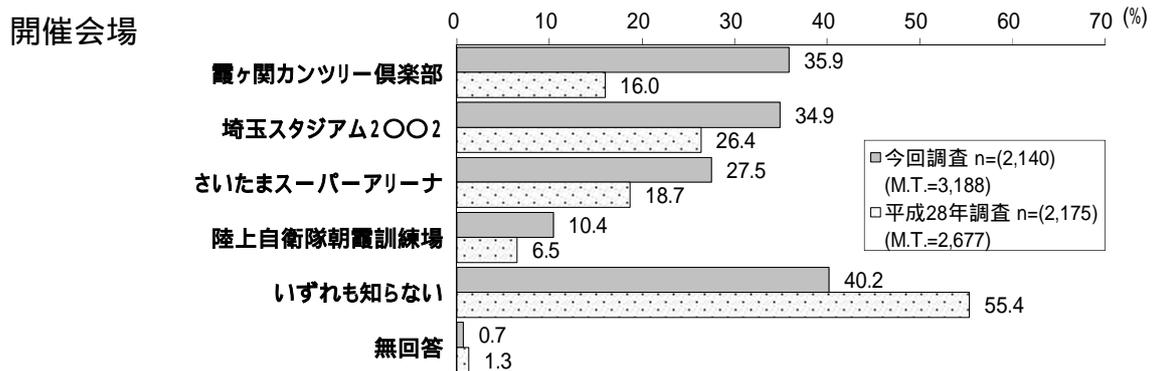
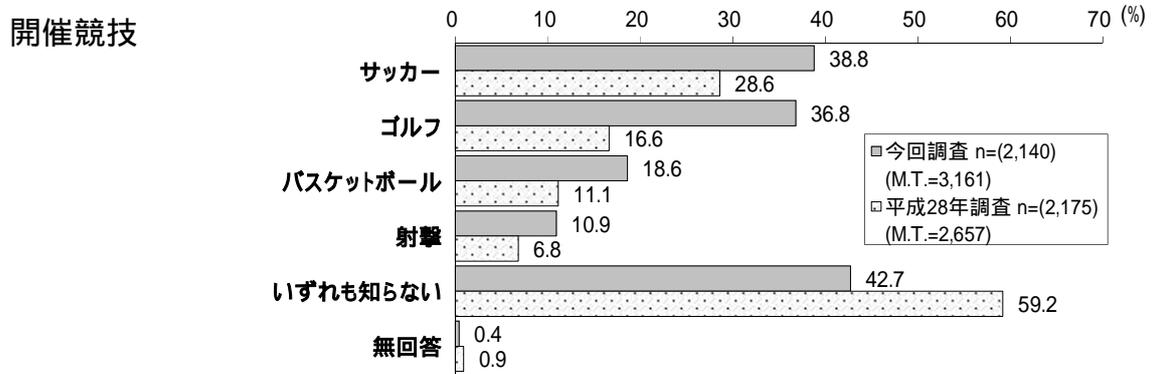
(5) その他(主な回答)

- ・さいたま市さくらウオーク、飯能ツアーデーマーチ
- ・地区運動会、孫の運動会

(12) 東京2020オリンピック・パラリンピック 埼玉県内の認知状況

開催競技は「サッカー」が38.8%、開催会場は「霞ヶ関カンツリー倶楽部」が35.9%

問13 「東京2020オリンピック・パラリンピック」において、埼玉県内で開催される競技と会場で、知っているものはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。



東京2020オリンピック・パラリンピックについて、埼玉県内の認知状況を聞いたところ、開催競技、開催会場ともに「いずれも知らない」が最も多く、競技（42.7%）で4割強、会場（40.2%）で4割を超えている。開催競技では、「サッカー」（38.8%）が4割弱で最も高く、次いで、「ゴルフ」（36.8%）、「バスケットボール」（18.6%）、「射撃」（10.9%）となっている。開催会場では、「霞ヶ関カンツリー倶楽部」（35.9%）と「埼玉スタジアム2002」（34.9%）が3割台半ばと高く、次いで、「さいたまスーパーアリーナ」（27.5%）、「陸上自衛隊朝霞訓練場」（10.4%）となっている。

【過去調査との比較】

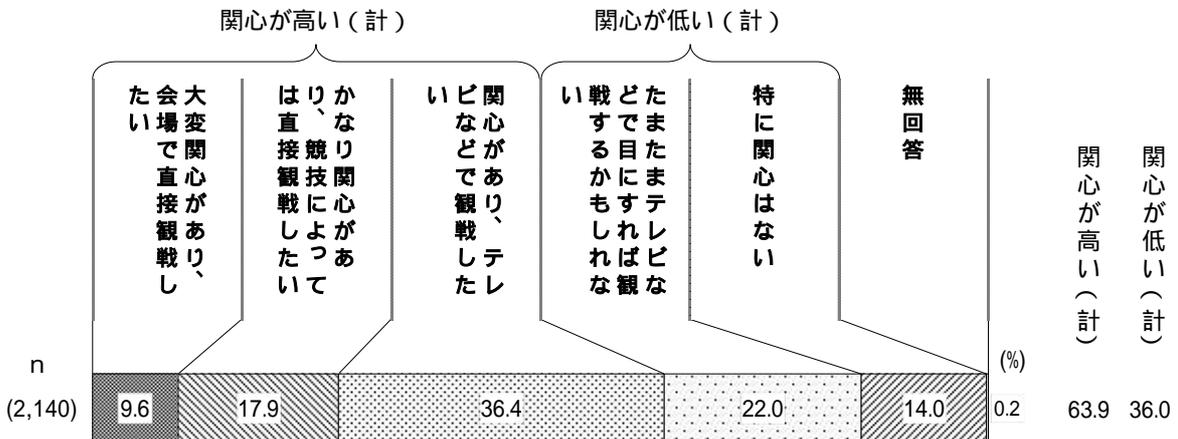
平成28年調査と比べて、競技は「ゴルフ」（20.2ポイント増）、「サッカー」（10.2ポイント増）など、すべての競技が増加している。一方、「いずれも知らない」が16.5ポイント減少している。

会場は「霞ヶ関カンツリー倶楽部」（19.9ポイント増）、「さいたまスーパーアリーナ」（8.8ポイント増）、「埼玉スタジアム2002」（8.5ポイント増）など、すべての会場が増加している。一方、「いずれも知らない」が15.2ポイント減少している。

(13) 東京2020オリンピック・パラリンピックへの関心度

『関心が高い(計)』が63.9%、『関心が低い(計)』が36.0%

問14 「東京2020オリンピック・パラリンピック」に対するあなたの関心は、次のうちどれですか。



東京2020オリンピック・パラリンピックへの関心度は、「関心があり、テレビなどで観戦したい」(36.4%)が3割台半ばを超えて最も高く、これに「かなり関心があり、競技によっては直接観戦したい」(17.9%)、「大変関心があり、会場で直接観戦したい」(9.6%)を合わせた『関心が高い(計)』(63.9%)は6割強となっている。一方で、「たまたまテレビなどで目にすれば観戦するかもしれない」(22.0%)と「特に関心はない」(14.0%)を合わせた『関心が低い(計)』(36.0%)は3割台半ばを超えている。

【過去調査との比較(参考)】

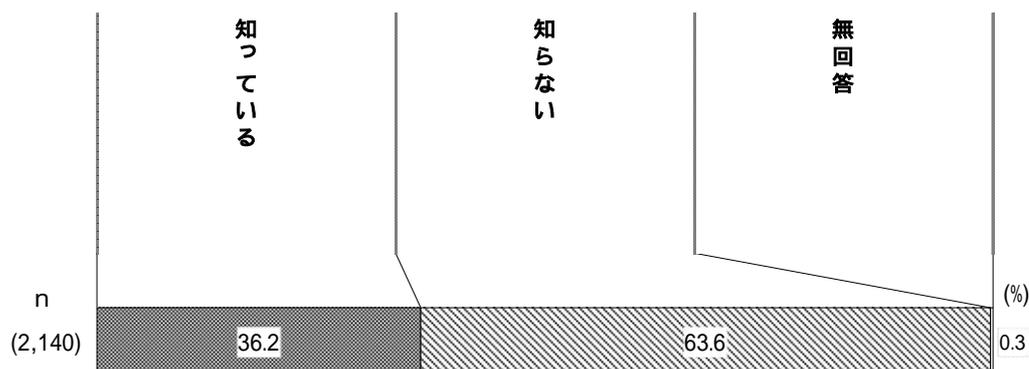
設問に変更があったため参考にとどめるが、平成28年調査(『関心が高い(計)』55.9%、『関心が低い(計)』43.7%)と比べて、『関心が高い(計)』が8.0ポイント増加し、『関心が低い(計)』が7.7ポイント減少している。

今回調査から「かなり関心があり、競技によっては直接観戦したい」を追加した。

(14) ラグビーワールドカップ2019熊谷開催の認知度

「知っている」が36.2%、「知らない」が63.6%

問15 埼玉県は、熊谷市とともに平成31年9月20日～11月2日に日本で開催されるラグビーワールドカップ2019の開催都市になっており、県営熊谷ラグビー場は全国12会場の一つになっています。あなたは、このことを知っていますか。

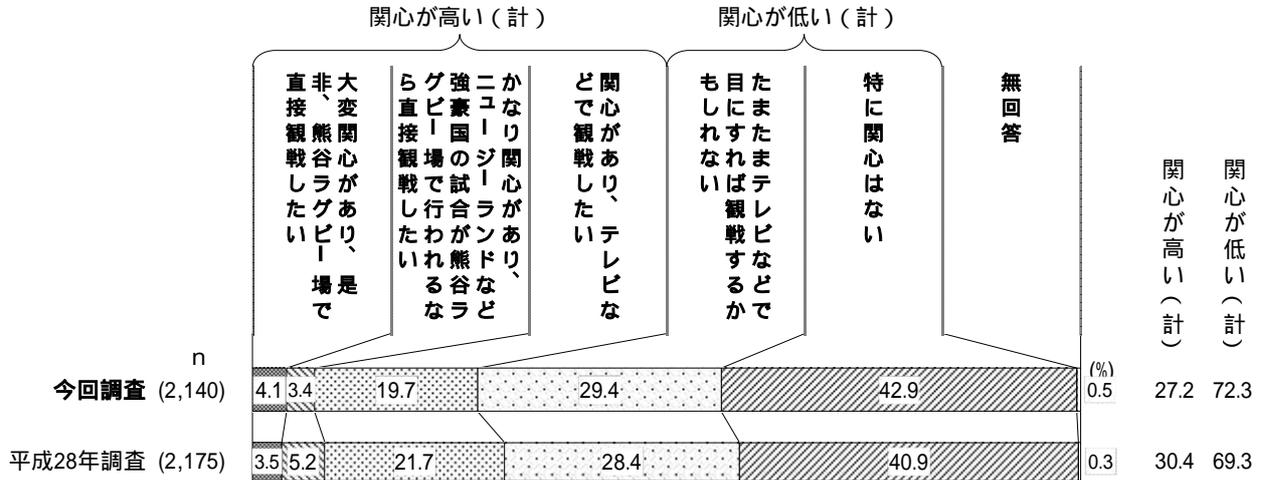


ラグビーワールドカップ2019熊谷開催への認知度は、「知っている」(36.2%)が3割台半ばを超えているが、「知らない」(63.6%)が6割強と最も高くなっている。

(15) ラグビーワールドカップ2019への関心度

『関心が高い(計)』が27.2%、『関心が低い(計)』が72.3%

問16 「ラグビーワールドカップ2019」に対するあなたの関心は、次のうちどれですか。



今回調査から「かなり関心があり、日本代表戦やニュージーランド代表戦などが熊谷ラグビー場で行われるなら直接観戦したい」を「かなり関心があり、ニュージーランドなど強豪国の試合が熊谷ラグビー場で行われるなら直接観戦したい」へ変更した。また、「関心があるため、テレビなどで観戦したい」を「関心があり、テレビなどで観戦したい」へ変更した。

ラグビーワールドカップ2019への関心度は、「大変関心があり、是非、熊谷ラグビー場で直接観戦したい」(4.1%)、「かなり関心があり、ニュージーランドなど強豪国の試合が熊谷ラグビー場で行われるなら直接観戦したい」(3.4%)、「関心があり、テレビなどで観戦したい」(19.7%)を合わせた『関心が高い(計)』(27.2%)は2割台半ばを超えている。「特に関心はない」(42.9%)は4割強と最も高くなっている。これに、「たまたまテレビなどで目にすれば観戦するかもしれない」(29.4%)を合わせた『関心が低い(計)』(72.3%)は7割強となっている。

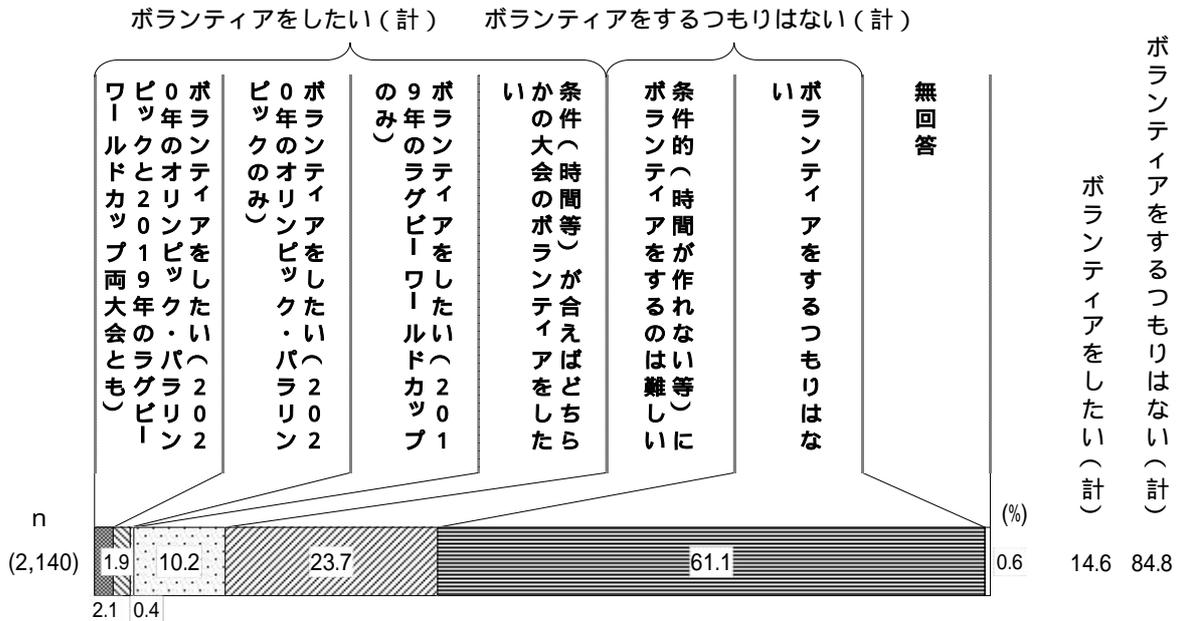
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『関心が高い(計)』が3.2ポイント減少し、『関心が低い(計)』が3.0ポイント増加している。

(16) オリンピック・パラリンピックとラグビーワールドカップのボランティア

『ボランティアをしたい(計)』が14.6%、『ボランティアをするつもりはない(計)』が84.8%

問17 2020年のオリンピック・パラリンピックと2019年のラグビーワールドカップの両大会でのボランティアについてあなたのお考えを教えてください。



オリンピック・パラリンピックとラグビーワールドカップのボランティアについては、「ボランティアをしたい(2020年のオリンピック・パラリンピックと2019年のラグビーワールドカップ両大会とも)」(2.1%)と「ボランティアをしたい(2020年のオリンピック・パラリンピックのみ)」(1.9%)、「ボランティアをしたい(2019年のラグビーワールドカップのみ)」(0.4%)、「条件(時間等)が合えばどちらかの大会のボランティアをしたい」(10.2%)を合わせた『ボランティアをしたい(計)』(14.6%)は1割台半ばとなっている。「ボランティアをするつもりはない」(61.1%)は6割強と最も高くなっている。これに、「条件的(時間が作れない等)にボランティアをするのは難しい」(23.7%)を合わせた『ボランティアをするつもりはない(計)』(84.8%)は8割台半ばとなっている。

【過去調査との比較(参考)】

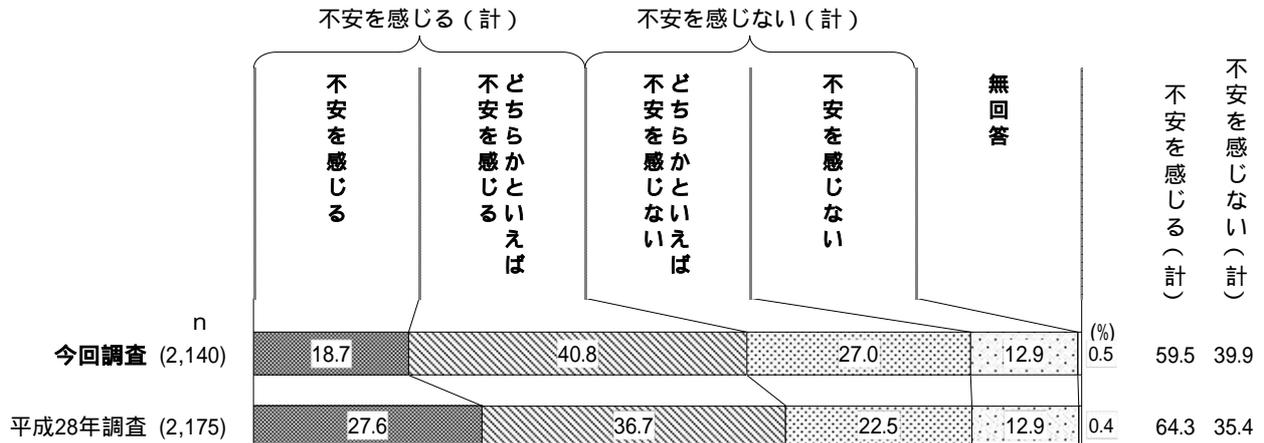
設問に変更があったため参考にとどめるが、平成28年調査(『(ボランティアに)参加したい(計)』5.4%、『(ボランティアに)参加するつもりはない(計)』94.0%)と比べて、『ボランティアをしたい(計)』が9.2ポイント増加し、『ボランティアをするつもりはない(計)』が9.2ポイント減少している。

今回調査から「条件(時間等)が合えばどちらかの大会のボランティアをしたい」を追加するなど、前回調査と比べて選択肢を大きく変更した。

(17) オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ開催に伴う県内でのテロ発生への不安

『不安を感じる(計)』が59.5%、『不安を感じない(計)』が39.9%

問18 「東京2020オリンピック・パラリンピック」や「ラグビーワールドカップ2019」の開催に伴う県内でのテロ発生に不安を感じますか。



オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ開催に伴う県内でのテロ発生への不安は、「どちらかといえば不安を感じる(40.8%)」が4割を超えて最も高く、これに「不安を感じる(18.7%)」を合わせた『不安を感じる(計)』(59.5%)は約6割となっている。一方で、「どちらかといえば不安を感じない(27.0%)」と「不安を感じない(12.9%)」を合わせた『不安を感じない(計)』(39.9%)は約4割となっている。

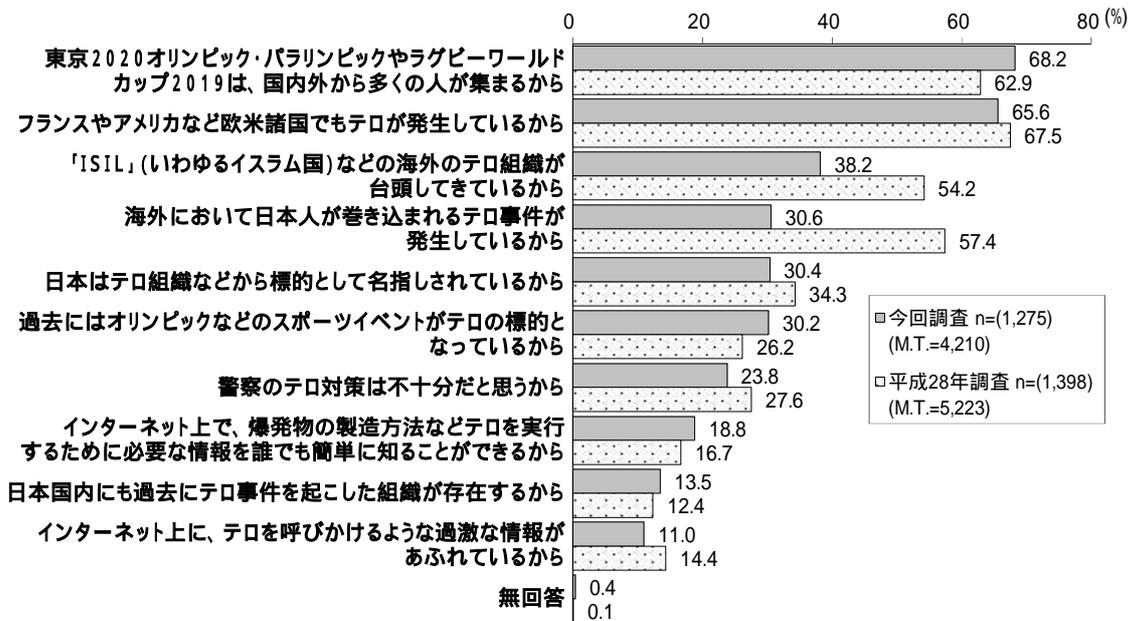
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『不安を感じる(計)』が4.8ポイント減少し、『不安を感じない(計)』が4.5ポイント増加している。

(17-1) 県内においてテロが発生することに不安を感じる理由

「東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019は、国内外から多くの人が集まるから」68.2%、「フランスやアメリカなど欧米諸国でもテロが発生しているから」65.6%

(問18で「不安を感じる」、「どちらかといえば不安を感じる」のいずれかを答えた方に)
 問18-1 県内においてテロが発生することに不安を感じる理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



県内においてテロが発生することに不安を感じる理由は、「東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019は、国内外から多くの人が集まるから」(68.2%)と「フランスやアメリカなど欧米諸国でもテロが発生しているから」(65.6%)が高い。次いで、「『ISIL』(いわゆるイスラム国)などの海外のテロ組織が台頭してきているから」(38.2%)「海外において日本人が巻き込まれるテロ事件が発生しているから」(30.6%)などとなっている。

【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、「海外において日本人が巻き込まれるテロ事件が発生しているから」(26.8ポイント減少)と「『ISIL』(いわゆるイスラム国)などの海外のテロ組織が台頭してきているから」(16.0ポイント減少)は大きく減少している。一方で、「東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019は、国内外から多くの人が集まるから」は5.3ポイント増加している。

3 県政への要望

「高齢者の福祉を充実する」(26.0%)が1位

問19 埼玉県政への要望についておたずねいたします。

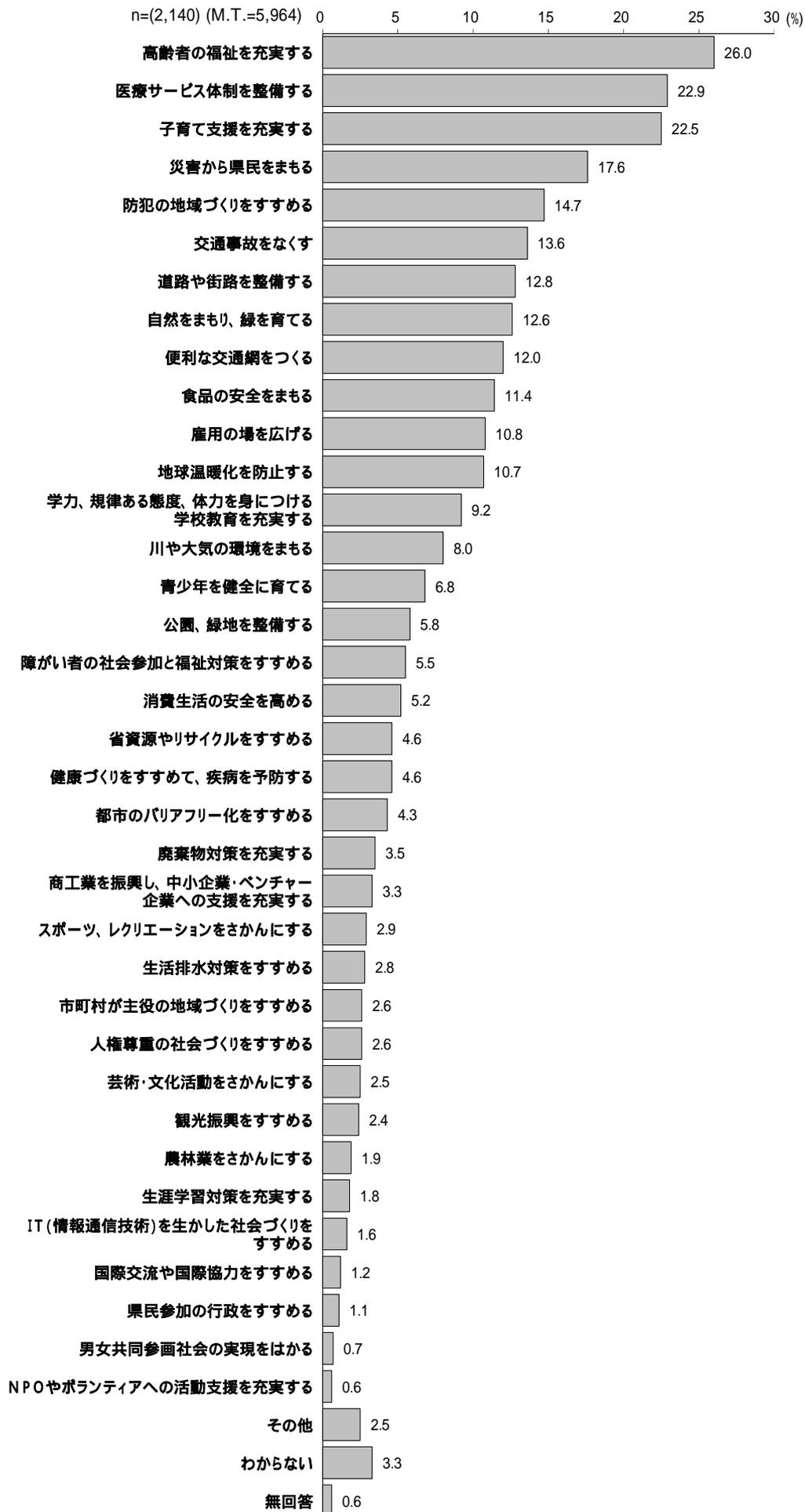
県の行政全般の中で、現在、あなたが最も重点をおいてほしいもの、特に必要だと思うものを、次の中から3つまで選んでください。

	今 回	前回（平成28年調査）	増減差
1位 高齢者の福祉を充実する	26.0%	26.2% (2位)	0.2
2位 医療サービス体制を整備する	22.9	26.9 (1位)	4.0
3位 子育て支援を充実する	22.5	23.0 (3位)	0.5
4位 災害から県民をまもる	17.6	16.1 (5位)	1.5
5位 防犯の地域づくりをすすめる	14.7	17.9 (4位)	3.2
6位 交通事故をなくす	13.6	9.9 (11位)	3.7
7位 道路や街路を整備する	12.8	12.0 (8位)	0.8
8位 自然をまもり、緑を育てる	12.6	13.4 (6位)	0.8
9位 便利な交通網をつくる	12.0	11.7 (10位)	0.3
10位 食品の安全をまもる	11.4	11.9 (9位)	0.5

【過去調査との比較】

今回の上位10位と前回の平成28年調査を比べると、1位の「高齢者の福祉を充実する」と2位の「医療サービス体制を整備する」の順位が入れ替わった。3位の「子育て支援を充実する」は順位の変化がない。4位の「災害から県民をまもる」と5位の「防犯の地域づくりをすすめる」の順位も入れ替わり、前回11位の「交通事故をなくす」は大きく順位を上げて6位となっている。また、前回8位の「道路や街路を整備する」も順位を上げて7位、前回10位の「便利な交通網をつくる」も順位を上げて9位となっている。一方、前回7位の「雇用の場を広げる」は順位を下げて11位となっている。

前回調査との増減をみると、「交通事故をなくす」(3.7ポイント増)、「災害から県民をまもる」(1.5ポイント増)などが増加している。一方で、「医療サービス体制を整備する」(4.0ポイント減)、「防犯の地域づくりをすすめる」(3.2ポイント減)などは減少している。



【平成25年以降の上位10位の推移】

過去5年間の上位10位の推移をみると、今回1位の「高齢者の福祉を充実する」(1位 1位 1位 2位 1位)、2位の「医療サービス体制を整備する」(2位 2位 2位 1位 2位)、3位の「子育て支援を充実する」(3位 3位 3位 3位 3位)は上位で固定している。4位の「災害から県民をまもる」(8位 5位 5位 5位 4位)は平成26年から5位を維持していたが、今回順位を1つ上げた。5位の「防犯の地域づくりをすすめる」(4位 4位 4位 4位 5位)は平成25年から4位を維持していたが、今回順位を1つ下げた。6位の「交通事故をなくす」(9位 7位 11位 11位 7位)は平成27年から平成28年まで11位であったが、今回順位を大きく上げた。7位の「道路や街路を整備する」(11位 11位 7位 8位 7位)は前回8位に順位を下げたが、今回順位を1つ上げた。8位の「自然をまもり、緑を育てる」(7位 9位 9位 6位 8位)は前回順位を6位に上げたが、今回順位を2つ下げた。9位の「便利な交通網をつくる」(11位 10位 10位 10位 9位)は平成26年から10位を維持していたが、今回順位を1つ上げた。10位の「食品の安全をまもる」(6位 8位 6位 9位 10位)は前回9位に順位を下げたが、今回も順位を1つ下げている。

順位	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
1	高齢者の福祉を充実する 26.2%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	医療サービス体制を整備する 26.9%	高齢者の福祉を充実する 26.0%
2	医療サービス体制を整備する 25.4%	医療サービス体制を整備する 25.3%	医療サービス体制を整備する 24.5%	高齢者の福祉を充実する 26.2%	医療サービス体制を整備する 22.9%
3	子育て支援を充実する 20.0%	子育て支援を充実する 17.3%	子育て支援を充実する 23.4%	子育て支援を充実する 23.0%	子育て支援を充実する 22.5%
4	防犯の地域づくりをすすめる 16.9%	防犯の地域づくりをすすめる 16.7%	防犯の地域づくりをすすめる 17.4%	防犯の地域づくりをすすめる 17.9%	災害から県民をまもる 17.6%
5	雇用の場を広げる 15.7%	災害から県民をまもる 16.5%	災害から県民をまもる 14.6%	災害から県民をまもる 16.1%	防犯の地域づくりをすすめる 14.7%
6	食品の安全をまもる 15.2%	雇用の場を広げる 15.3%	食品の安全をまもる 13.4%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 13.6%
7	自然をまもり、緑を育てる 15.0%	交通事故をなくす 14.2%	道路や街路を整備する 13.0%	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.8%
8	災害から県民をまもる 12.1%	食品の安全をまもる 13.8%	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.6%
9	交通事故をなくす 11.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.4%	食品の安全をまもる 11.9%	便利な交通網をつくる 12.0%
10	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 11.2%	便利な交通網をつくる 11.7%	便利な交通網をつくる 12.0%	便利な交通網をつくる 11.7%	食品の安全をまもる 11.4%

【上位4位の10年間の推移】

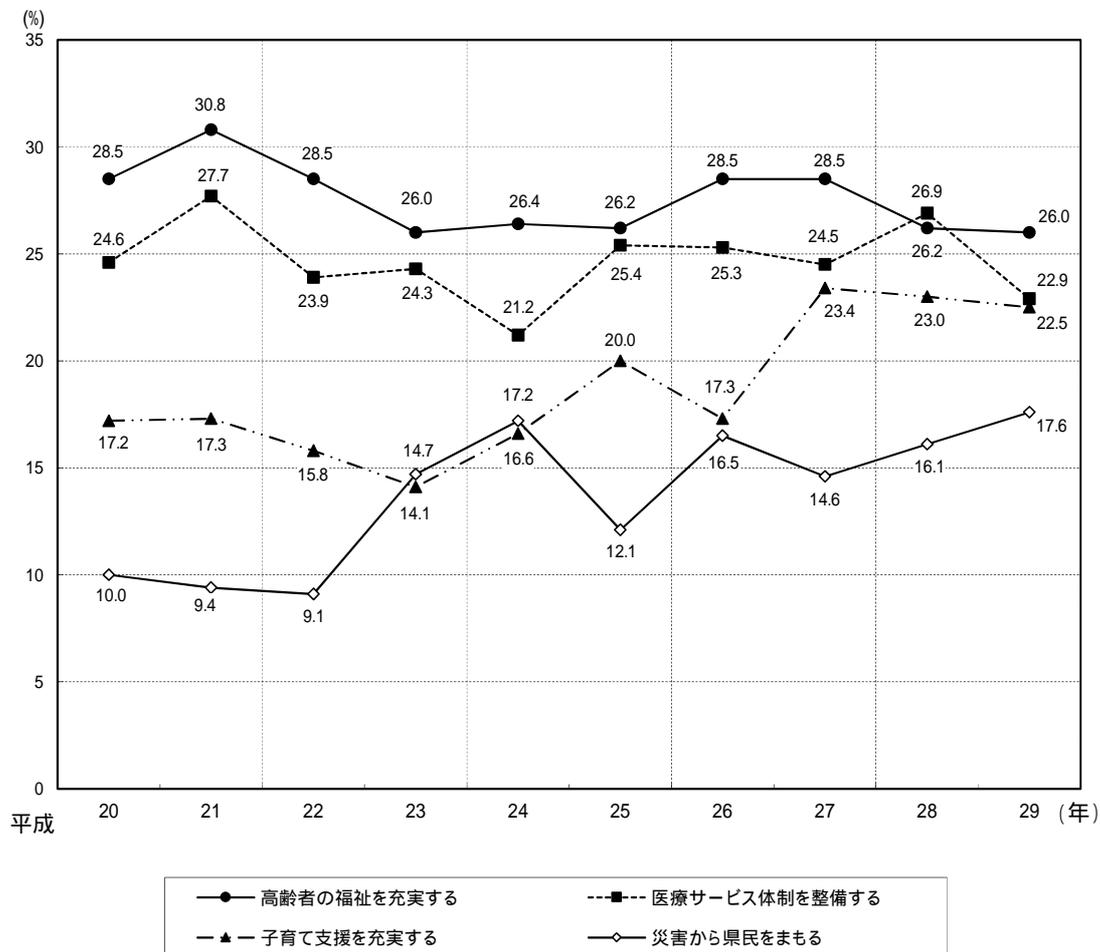
今回調査で上位となった「高齢者の福祉を充実する」、「医療サービス体制を整備する」、「子育て支援を充実する」、「災害から県民をまもる」の4項目について、平成20年以降の直近10年間の推移をみると次のようになっている。

まず、1位の「高齢者の福祉を充実する」は平成21年に直近10年間で最高値を記録した以降は減少傾向に転じたが、おおむね26～28%程度の間で推移している。

2位の「医療サービス体制を整備する」は平成21年に直近10年間で最高値を記録し、平成28年にも最高値に次ぐ2番目の値を記録したものの、今回再び減少している。

3位の「子育て支援を充実する」は、平成23年に直近10年間で最低値を記録した以降は増加傾向に転じ、平成27年に最高値を記録して、今回も2割強を維持している。

4位の「災害から県民をまもる」は平成22年に直近10年間で最低値を記録した以降、おおむね14～17%程度の間で推移し、今回最高値を記録した。



県政への要望10年間の推移(平成20年～平成29年)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
1	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 30.8%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 26.0%	高齢者の福祉を充実する 26.4%
2	医療サービス体制を整備する 24.6%	医療サービス体制を整備する 27.7%	医療サービス体制を整備する 23.9%	医療サービス体制を整備する 24.3%	医療サービス体制を整備する 21.2%
3	食品の安全をまもる 20.8%	自然をまもり、緑を育てる 19.7%	自然をまもり、緑を育てる 21.3%	食品の安全をまもる 22.3%	自然をまもり、緑を育てる 19.7%
4	地球温暖化を防止する 20.0%	防犯の地域づくりをすすめる 17.4%	防犯の地域づくりをすすめる 18.1%	自然をまもり、緑を育てる 18.6%	防犯の地域づくりをすすめる 17.6%
5	自然をまもり、緑を育てる 18.6%	子育て支援を充実する 17.3%	子育て支援を充実する/ 雇用の場を広げる 15.8%	防犯の地域づくりをすすめる 14.8%	雇用の場を広げる 17.3%
6	防犯の地域づくりをすすめる 17.9%	食品の安全をまもる 16.8%	雇用の場を広げる 15.8%	災害から県民をまもる/ 雇用の場を広げる 14.7%	災害から県民をまもる 17.2%
7	子育て支援を充実する 17.2%	地球温暖化を防止する 16.0%	地球温暖化を防止する 14.1%	雇用の場を広げる 14.7%	子育て支援を充実する 16.6%
8	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 11.8%	雇用の場を広げる 12.7%	食品の安全をまもる 12.9%	子育て支援を充実する 14.1%	食品の安全をまもる 14.2%
9	消費生活の安全を高める 10.3%	川や大気環境をまもる 9.6%	交通事故をなくす 10.9%	交通事故をなくす 10.7%	交通事故をなくす 13.2%
10	災害から県民をまもる 10.0%	災害から県民をまもる 9.4%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 10.1%	道路や街路を整備する 10.4%	地球温暖化を防止する 9.6%
11	省資源やリサイクルをすすめる 9.9%	省資源やリサイクルをすすめる 8.7%	道路や街路を整備する 9.5%	地球温暖化を防止する 10.0%	道路や街路を整備する 8.4%
12	雇用の場を広げる 9.5%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.5%	省資源やリサイクルをすすめる 9.2%	便利な交通網をつくる 9.0%	便利な交通網をつくる 8.2%
13	青少年を健全に育てる 8.7%	消費生活の安全を高める 8.2%	災害から県民をまもる 9.1%	省資源やリサイクルをすすめる/ 川や大気環境をまもる 8.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.0%
14	便利な交通網をつくる 8.5%	便利な交通網をつくる 7.9%	公園、緑地を整備する 8.4%	川や大気環境をまもる 8.6%	省資源やリサイクルをすすめる/ 青少年を健全に育てる 7.8%
15	交通事故をなくす 8.3%	交通事故をなくす 7.7%	青少年を健全に育てる 8.3%	消費生活の安全を高める 7.6%	青少年を健全に育てる 7.8%
16	川や大気環境をまもる 7.5%	道路や街路を整備する 6.8%	廃棄物対策を充実する 8.2%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 7.4%	川や大気環境をまもる 6.5%
17	道路や街路を整備する 7.2%	青少年を健全に育てる 6.2%	川や大気環境をまもる 7.4%	公園、緑地を整備する 7.3%	消費生活の安全を高める 6.0%
18	公園、緑地を整備する 5.4%	公園、緑地を整備する 5.9%	便利な交通網をつくる 6.4%	青少年を健全に育てる 5.7%	公園、緑地を整備する 5.3%
19	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.8%	廃棄物対策を充実する 5.0%	消費生活の安全を高める 6.0%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.9%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.7%
20	廃棄物対策を充実する 4.5%	農林業をさかんにする 3.9%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.2%	廃棄物対策を充実する 3.7%	廃棄物対策を充実する 4.2%
21	都市のバリアフリー化をすすめる 3.7%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.8%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 障害者の社会参加と福祉対策をすすめる/ 健康づくりをすすめて 疾病を予防する 3.6%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 3.5%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.1%
22	農林業をさかんにする 3.0%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.6%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる/ 健康づくりをすすめて 疾病を予防する 3.6%	生活排水対策をすすめる 3.2%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.8%
23	健康づくりをすすめて 疾病を予防する/ 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 2.8%	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 3.3%	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 3.6%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.1%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 人権尊重の社会づくりをすすめる/ 農林業をさかんにする 2.7%
24	生活排水対策をすすめる 2.4%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.7%	生活排水対策をすすめる 3.3%	都市のバリアフリー化をすすめる/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる/ 生活排水対策をすすめる/ 市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.5%
25	生活排水対策をすすめる 2.4%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.7%	農林業をさかんにする 3.1%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.4%	農林業をさかんにする 2.7%
26	県民参加の行政をすすめる/ スポーツ・レクリエーションをさかんにする 2.3%	生活排水対策をすすめる 2.5%	スポーツ・レクリエーションをさかんにする 2.4%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.3%	生活排水対策をすすめる/ 市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.5%
27	スポーツ・レクリエーションをさかんにする 2.3%	芸術・文化活動をさかんにする 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする 2.2%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.5%
28	人権尊重の社会づくりをすすめる/ 市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.9%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.8%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.6%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.2%
29	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.9%	県民参加の行政をすすめる 1.7%	生涯学習対策を充実する/ 観光振興をすすめる 1.5%	農林業をさかんにする 1.8%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.2%
30	芸術・文化活動をさかんにする/ 生涯学習対策を充実する 1.6%	スポーツ・レクリエーションをさかんにする 1.6%	観光振興をすすめる 1.5%	観光振興をすすめる 1.5%	観光振興をすすめる 2.1%
31	生涯学習対策を充実する 1.6%	生涯学習対策を充実する/ 人権尊重の社会づくりをすすめる 1.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.4%	県民参加の行政をすすめる 1.2%	県民参加の行政をすすめる 2.0%
32	男女共同参画社会の実現をはかる 1.5%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.3%	県民参加の行政をすすめる 1.3%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 1.1%	生涯学習対策を充実する 1.8%
33	国際交流や国際協力をすすめる 1.2%	観光振興をすすめる 1.0%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 1.2%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる/ 生涯学習対策を充実する/ 国際交流や国際協力をすすめる 1.0%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 1.1%
34	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.9%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する/ 国際交流や国際協力をすすめる 0.8%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりを進める/ 男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%	生涯学習対策を充実する/ 国際交流や国際協力をすすめる 1.0%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する/ 国際交流や国際協力をすすめる 0.9%
35	観光振興をすすめる 0.8%	国際交流や国際協力をすすめる 0.8%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%	国際交流や国際協力をすすめる 1.0%	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%
36	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりを進める 0.4%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりを進める 0.7%	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.5%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.7%

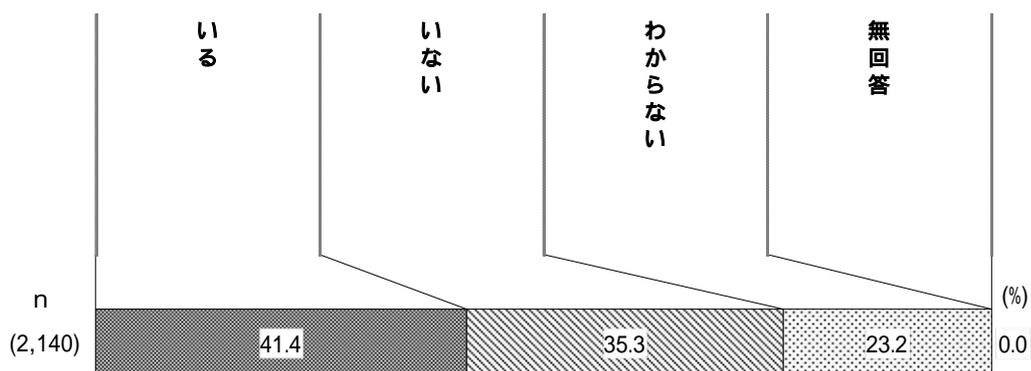
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
1	高齢者の福祉を充実する 26.2%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	医療サービス体制を整備する 26.9%	高齢者の福祉を充実する 26.0%
2	医療サービス体制を整備する 25.4%	医療サービス体制を整備する 25.3%	医療サービス体制を整備する 24.5%	高齢者の福祉を充実する 26.2%	医療サービス体制を整備する 22.9%
3	子育て支援を充実する 20.0%	子育て支援を充実する 17.3%	子育て支援を充実する 23.4%	子育て支援を充実する 23.0%	子育て支援を充実する 22.5%
4	防犯の地域づくりをすすめる 16.9%	防犯の地域づくりをすすめる 16.7%	防犯の地域づくりをすすめる 17.4%	防犯の地域づくりをすすめる 17.9%	災害から県民をまもる 17.6%
5	雇用の場を広げる 15.7%	災害から県民をまもる 16.5%	災害から県民をまもる 14.6%	災害から県民をまもる 16.1%	防犯の地域づくりをすすめる 14.7%
6	食品の安全をまもる 15.2%	雇用の場を広げる 15.3%	食品の安全をまもる 13.4%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 13.6%
7	自然をまもり、緑を育てる 15.0%	交通事故をなくす 14.2%	道路や街路を整備する 13.0%	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.8%
8	災害から県民をまもる 12.1%	食品の安全をまもる 13.8%	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.0%
9	交通事故をなくす 11.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.4%	食品の安全をまもる 11.9%	便利な交通網をつくる 12.0%
10	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 11.2%	便利な交通網をつくる 11.7%	便利な交通網をつくる 12.0%	便利な交通網をつくる 11.7%	食品の安全をまもる 11.4%
11	道路や街路を整備する / 11.1%	道路や街路を整備する 10.5%	交通事故をなくす 10.5%	交通事故をなくす 9.9%	雇用の場を広げる 10.8%
12	便利な交通網をつくる 9.2%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 9.5%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 10.4%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.8%	地球温暖化を防止する 10.7%
13	川や大気環境をまもる 8.6%	川や大気環境をまもる 8.7%	青少年を健全に育てる 7.9%	地球温暖化を防止する 8.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 9.2%
14	地球温暖化を防止する 7.9%	地球温暖化を防止する 8.4%	川や大気環境をまもる 6.6%	川や大気環境をまもる 8.0%	川や大気環境をまもる 8.0%
15	青少年を健全に育てる 6.9%	青少年を健全に育てる 7.3%	地球温暖化を防止する 6.4%	青少年を健全に育てる 6.9%	青少年を健全に育てる 6.8%
16	省資源やリサイクルをすすめる 5.9%	省資源やリサイクルをすすめる 6.6%	公園、緑地を整備する 6.4%	公園、緑地を整備する 5.4%	公園、緑地を整備する 5.8%
17	公園、緑地を整備する 5.8%	消費生活の安全を高める 6.5%	消費生活の安全を高める 6.3%	省資源やリサイクルをすすめる 5.2%	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 5.5%
18	消費生活の安全を高める 5.1%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 5.9%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 5.6%	消費生活の安全を高める 5.2%	消費生活の安全を高める 5.2%
19	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.8%	公園、緑地を整備する 5.2%	省資源やリサイクルをすすめる 5.1%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.8%	省資源やリサイクルをすすめる / 4.6%
20	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.8%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.2%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.3%	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.7%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.6%
21	廃棄物対策を充実する / 3.7%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.5%	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.7%	廃棄物対策を充実する / 3.4%	都市のバリアフリー化をすすめる 4.3%
22	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.7%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 3.1%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.4%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.4%	廃棄物対策を充実する 3.5%
23	都市のバリアフリー化をすすめる / 3.0%	廃棄物対策を充実する 3.0%	生活排水対策をすすめる 3.2%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.3%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.3%
24	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.4%	都市のバリアフリー化をすすめる 2.9%	廃棄物対策を充実する 3.1%	生活排水対策をすすめる / 3.1%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.9%
25	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.3%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.9%	市町村が主役の地域づくりをすすめる / 2.6%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 3.1%	生活排水対策をすすめる 2.8%
26	農林業をさかんにする 2.2%	生活排水対策をすすめる 2.8%	芸術・文化活動をさかんにする 2.6%	生涯学習対策を充実する / 2.2%	市町村が主役の地域づくりをすすめる / 2.8%
27	芸術・文化活動をさかんにする 2.1%	人権尊重の社会づくりをすすめる / 2.4%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.6%	芸術・文化活動をさかんにする 2.3%	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.6%
28	観光振興をすすめる 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする 2.4%	農林業をさかんにする 2.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.2%	芸術・文化活動をさかんにする 2.5%
29	生活排水対策をすすめる / 1.7%	農林業をさかんにする 2.1%	生涯学習対策を充実する 2.1%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.1%	観光振興をすすめる 2.4%
30	生涯学習対策を充実する / 1.7%	県民参加の行政をすすめる 1.7%	観光振興をすすめる 2.0%	農林業をさかんにする / 1.8%	農林業をさかんにする 1.9%
31	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.8%	観光振興をすすめる 1.6%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.6%	観光振興をすすめる 1.8%	生涯学習対策を充実する 1.8%
32	県民参加の行政をすすめる 1.4%	生涯学習対策を充実する 1.6%	男女共同参画社会の実現をはかる / 1.1%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 1.1%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 1.6%
33	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 1.3%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.2%	県民参加の行政をすすめる 1.0%	県民参加の行政をすすめる / 0.9%	国際交流や国際協力をすすめる 1.2%
34	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 1.2%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 0.9%	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	県民参加の行政をすすめる 1.1%
35	男女共同参画社会の実現をはかる / 0.8%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 0.8%	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.8%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.7%
36	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.8%	国際交流や国際協力をすすめる 0.8%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.8%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.7%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.6%

4 シニアの社会参加

(1) 周囲にいる地域社会活動をしているシニア

「いる」41.4%、「いない」35.3%

問20 あなたの周囲(家族、友人、知人、同僚など)に、地域社会活動をしているシニア(60歳以上の方。以下同じ。)の方はいますか。



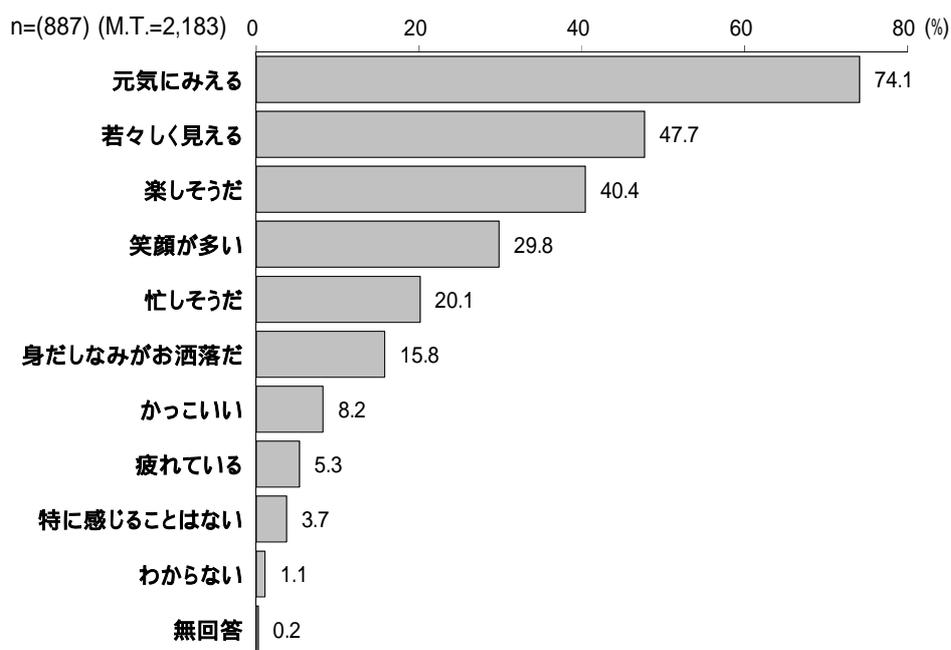
地域社会活動をしているシニアが周囲に、「いる」(41.4%)が4割強と最も高くなっている。一方で、「いない」(35.3%)が3割台半ばである。また、「わからない」(23.2%)が2割強となっている。

(1 - 1) 地域社会活動をしているシニアの特徴

「元気にみえる」が74.1%

(問20で「いる」と答えた方に)

問20 - 1 その人は、地域社会活動をしていない人に比べ(またはその人が地域社会活動を始める前に比べ)てどのような違いがあると感じますか。あてはまるものをすべて選んでください。

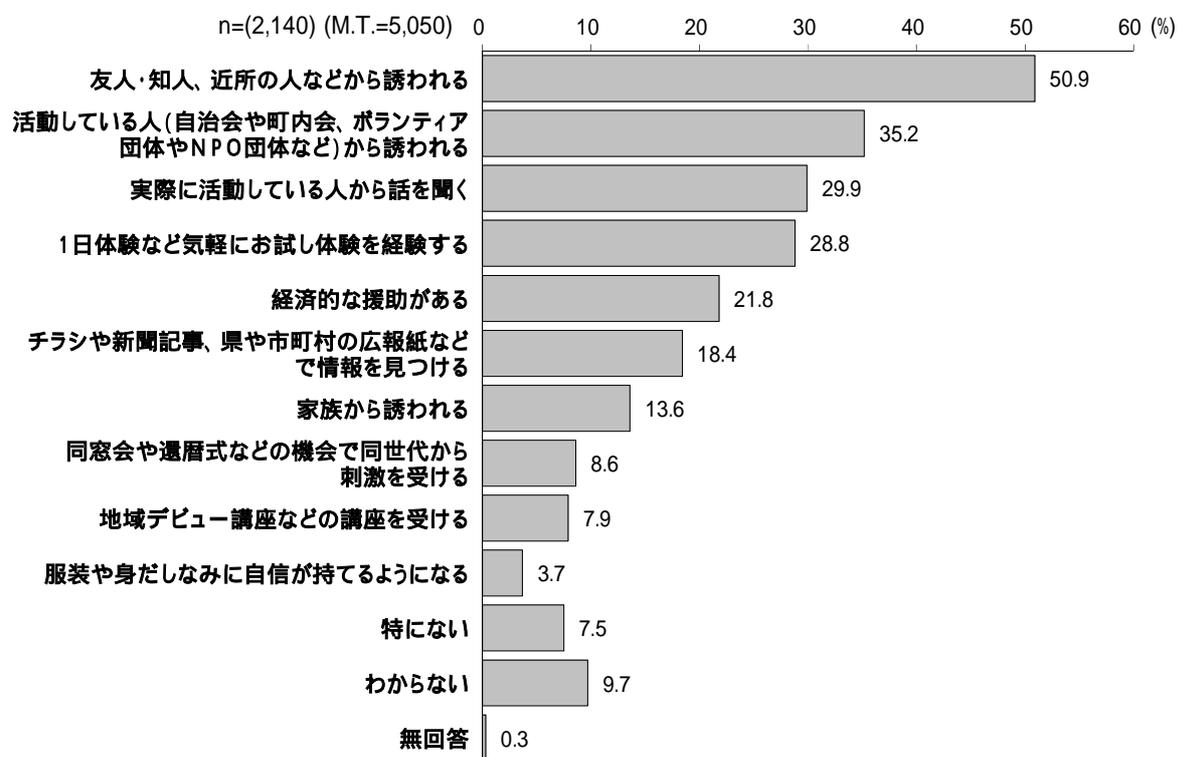


地域社会活動をしている人の特徴は、「元気にみえる」(74.1%)が7割台半ばと最も高く、次いで、「若々しく見える」(47.7%)、「楽しそうだ」(40.4%)、「笑顔が多い」(29.8%)、「忙しそうだ」(20.1%)などとなっている。

(2) シニアが地域社会活動に一步踏み出すためのきっかけ

「友人・知人、近所の人などから誘われる」50.9%

問21 シニアが地域社会活動に一步踏み出すためには、どんなきっかけがあればよいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

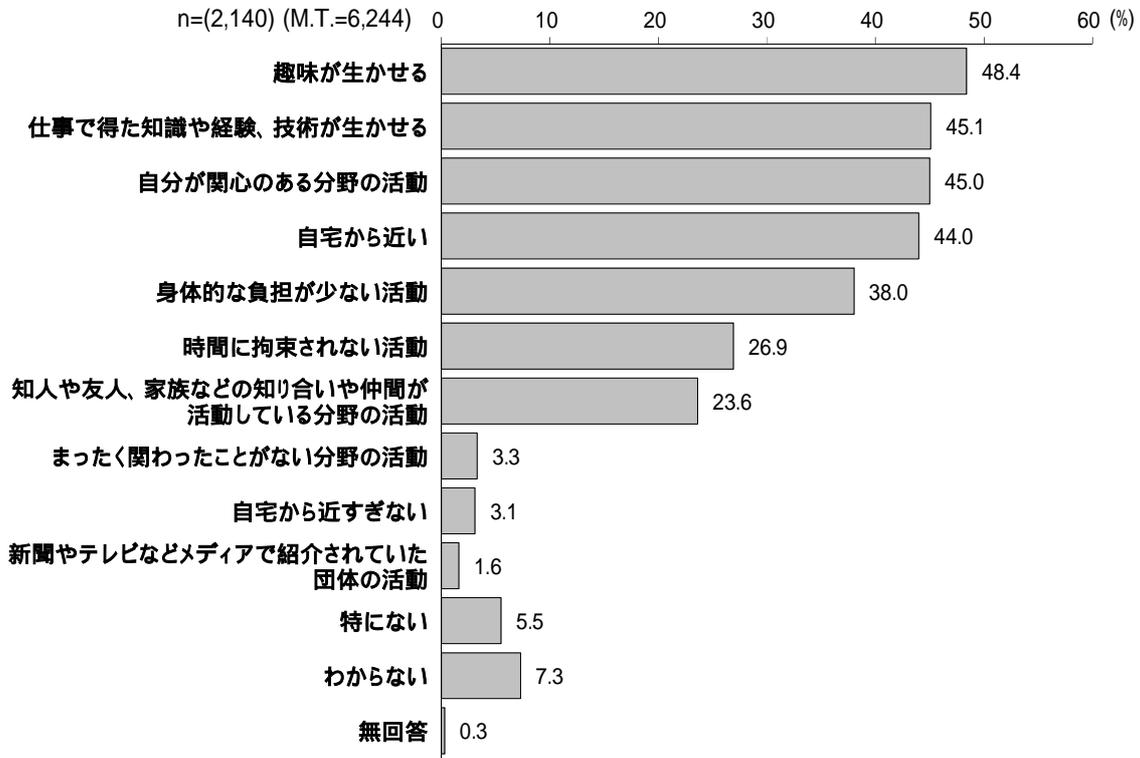


シニアが地域社会活動に一步踏み出すためのきっかけは、「友人・知人、近所の人などから誘われる」(50.9%)が5割を超えて最も高く、次いで、「活動している人(自治会や町内会、ボランティア団体やNPO団体など)から誘われる」(35.2%)が3割台半ばとなっている。以下、「実際に活動している人から話を聞く」(29.9%)、「1日体験など気軽にお試し体験を経験する」(28.8%)、「経済的な援助がある」(21.8%)などとなっている。

(3) シニアが地域社会活動に一步踏み出すための活動内容

「趣味が生かせる」48.4%

問22 シニアが地域社会活動に一步踏み出すためには、どのような内容の活動がよいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

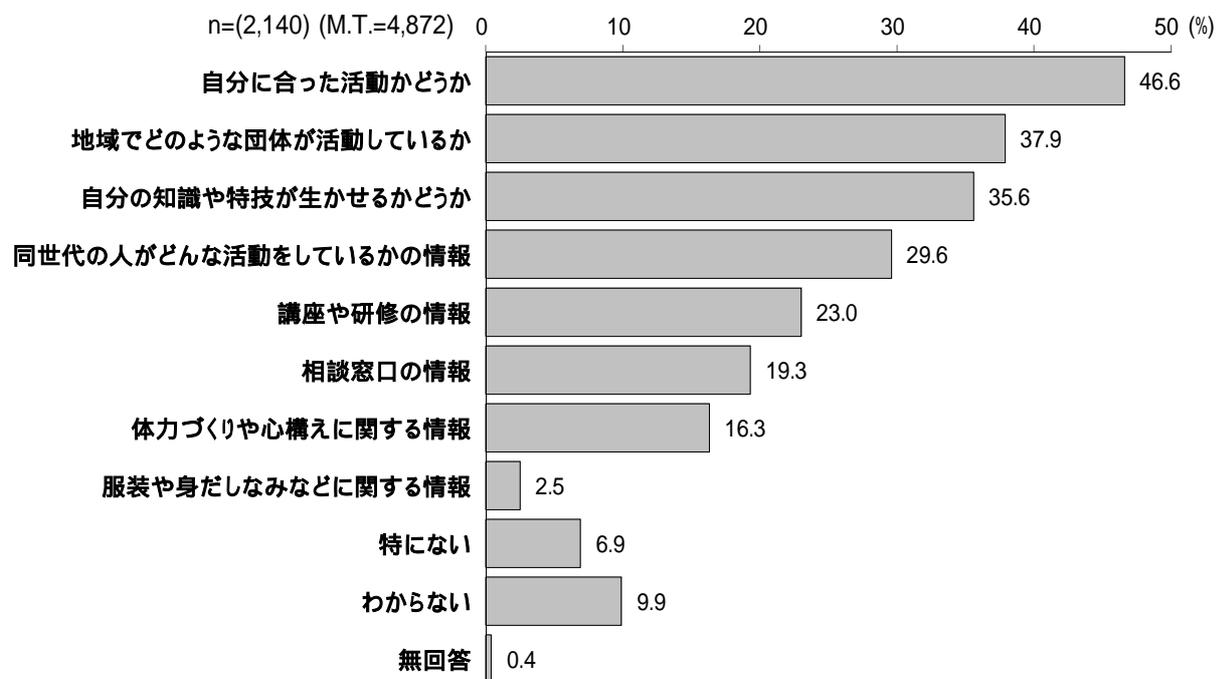


シニアが地域社会活動に一步踏み出すための活動内容は、「趣味が生かせる」(48.4%)が5割弱と最も高く、次いで、「仕事で得た知識や経験、技術が生かせる」(45.1%)、「自分が関心のある分野の活動」(45.0%)、「自宅から近い」(44.0%)が4割台半ばとなっている。以下、「身体的な負担が少ない活動」(38.0%)、「時間に拘束されない活動」(26.9%)、「知人や友人、家族などの知り合いや仲間が活動している分野の活動」(23.6%)などとなっている。

(4) シニアが地域社会活動に参加するために必要な情報

「自分に合った活動かどうか」46.6%

問23 シニアが地域社会活動に参加するために必要な情報はどんなことだと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

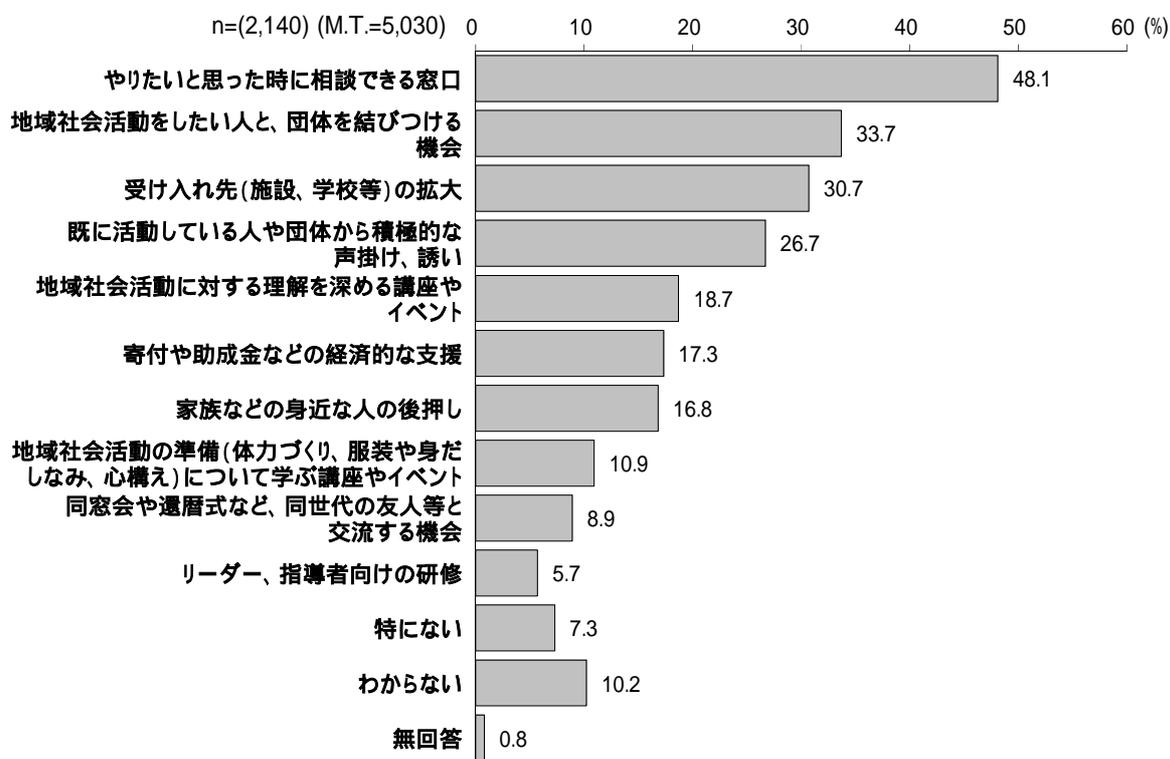


シニアが地域社会活動に参加するために必要な情報は、「自分に合った活動かどうか」(46.6%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「地域でどのような団体が活動しているか」(37.9%)が3割台半ばを超えている。以下、「自分の知識や特技が活かせるかどうか」(35.6%)、「同世代の人がどんな活動をしているかの情報」(29.6%)、「講座や研修の情報」(23.0%)などとなっている。

(5) シニアの地域社会活動を活発にするために必要なこと

「やりたいと思った時に相談できる窓口」48.1%

問24 今後、シニアの地域社会活動を活発にするためには、何が必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



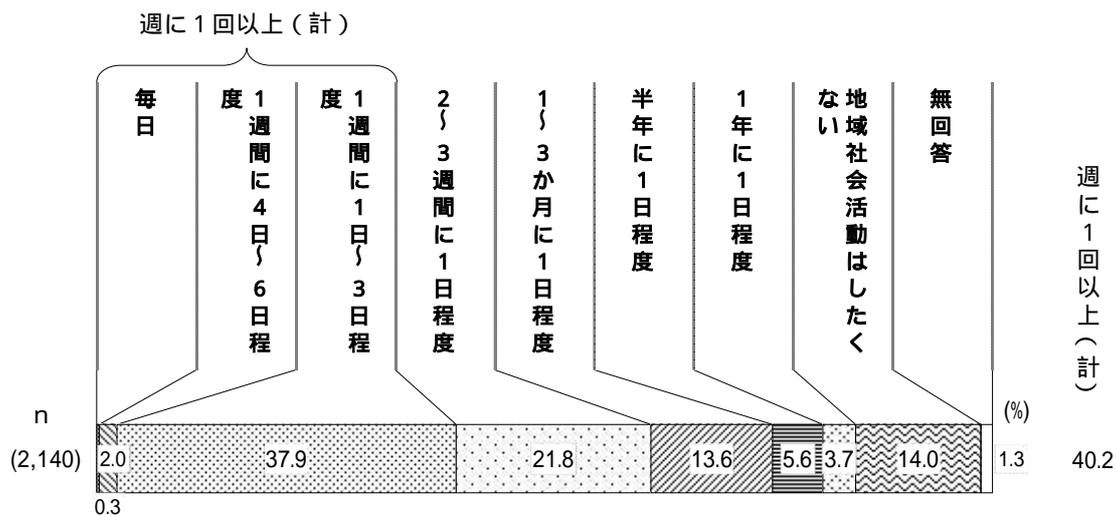
シニアの地域社会活動を活発にするために必要なことは、「やりたいと思った時に相談できる窓口」(48.1%)が5割弱と最も高く、次いで、「地域社会活動をしたい人と、団体を結びつける機会」(33.7%)が3割強、「受け入れ先(施設、学校等)の拡大」(30.7%)が3割を超えている。以下、「既に活動している人や団体から積極的な声掛け、誘い」(26.7%)、「地域社会活動に対する理解を深める講座やイベント」(18.7%)、「寄付や助成金などの経済的な支援」(17.3%)などとなっている。

(6) 地域社会活動を希望する頻度

『週に1回以上(計)』40.2%

(問25は、あなたがシニア世代となった(60歳以上となった)場合を想定してお答えください。60歳以上の方は、現在のお考えをお答えください。)

問25 どれくらいの頻度であれば地域社会活動をしてほしいと思いますか。もっとも近いものを1つだけ選んでください。



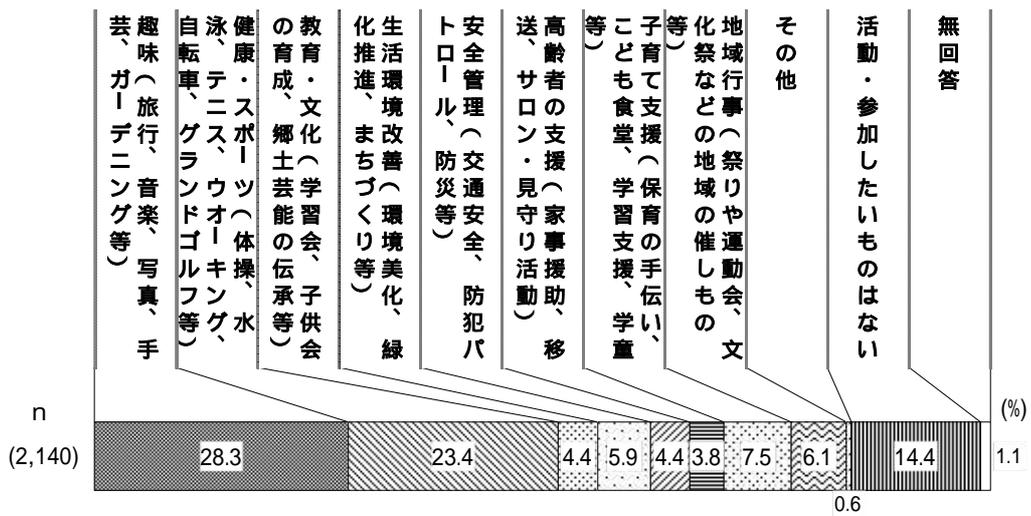
地域社会活動を希望する頻度は、「1週間に1日~3日程度」(37.9%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「2~3週間に1日程度」(21.8%)、「1~3か月に1日程度」(13.6%)などとなっている。また、『週に1回以上(計)』(「毎日」(0.3%)、「1週間に4日~6日程度」(2.0%)、「1週間に1日~3日程度」(37.9%)の合計40.2%)は4割を超えている。

(7) 関心のある地域社会活動の分野

「趣味(旅行、音楽、写真、手芸、ガーデニング等)」28.3%

(問26は、あなたがシニア世代となった(60歳以上となった)場合を想定してお答えください。60歳以上の方は、現在のお考えをお答えください。)

問26 どのような地域社会活動の分野に最も関心がありますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。



関心のある地域社会活動の分野は、「趣味(旅行、音楽、写真、手芸、ガーデニング等)」(28.3%)が3割弱と最も高く、「健康・スポーツ(体操、水泳、テニス、ウォーキング、自転車、グランドゴルフ等)」(23.4%)が2割強となっている。一方で、「活動・参加したいものはない」(14.4%)は1割台半ばとなっている。

(8) 地域社会活動を始める前と始めた後の変化

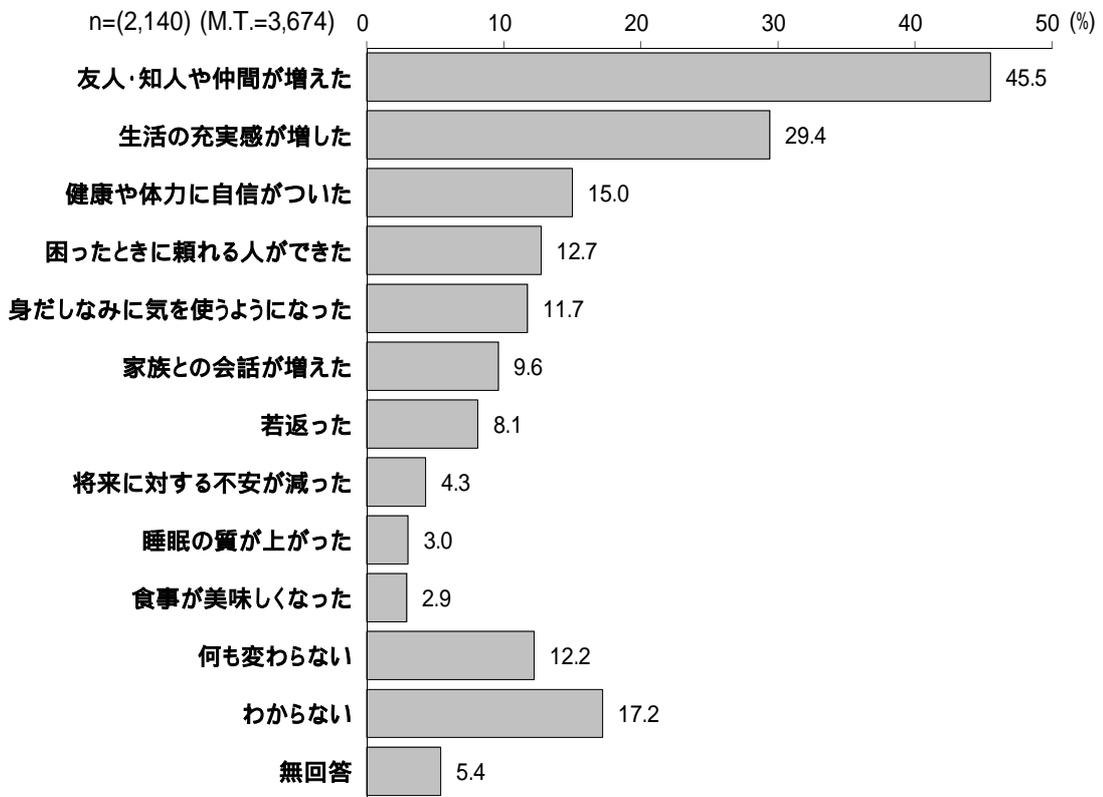
「友人・知人や仲間が増えた」45.5%

(問27は、シニア世代と各世代の意識などの違いを調査する趣旨でおたずねします。現在のお考えをお答えください。)

問27 (問5(1)で「ある」と答えた方)あなたが地域社会活動を始める前と始めた後では、あなた自身の何がどう変わったと感じますか。

(問5(1)で「ない」と答えた方)もしあなたが地域社会活動を始めたと仮定した場合、始める前と始めた後であなた自身の何がどう変わるだろうと予測しますか。

あてはまるものをすべて選んでください。



地域社会活動を始める前と始めた後の変化は、「友人・知人や仲間が増えた」(45.5%)が4割台半ばと最も高く、次いで、「生活の充実感が増した」(29.4%)が約3割となっている。以下、「健康や体力に自信がついた」(15.0%)、「困ったときに頼れる人ができた」(12.7%)、「身だしなみに気を使うようになった」(11.7%)などとなっている。一方、「何も変わらない」は12.2%である。

(9) 地域社会活動に関する情報の入手方法

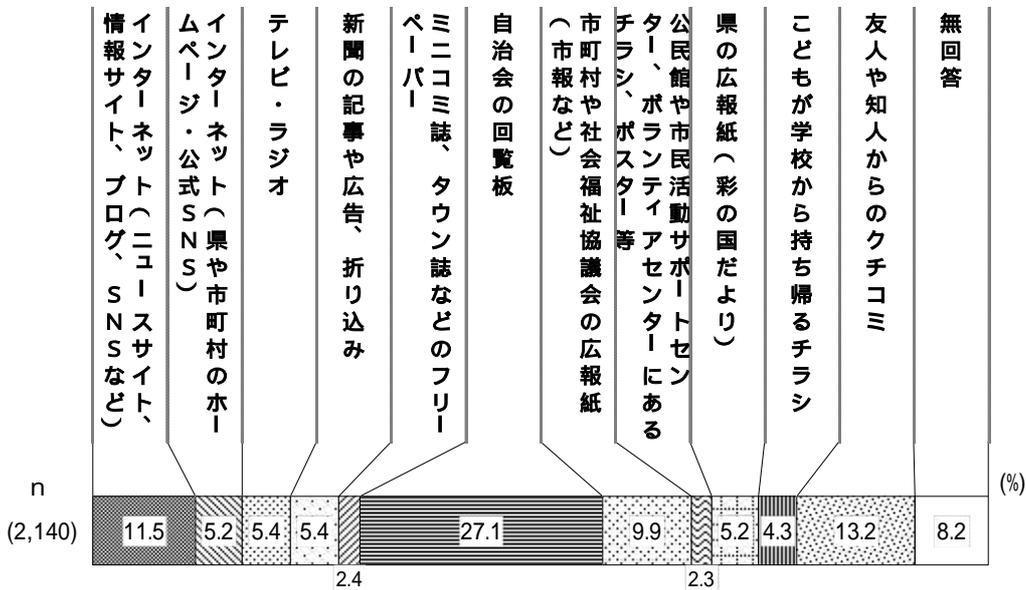
「自治会の回覧板」27.1%、「友人や知人からのクチコミ」13.2%、「インターネット(ニュースサイト、情報サイト、ブログ、SNSなど)」11.5%

(問28は、シニア世代と各世代の意識などの違いを調査する趣旨でおたずねします。現在のお考えをお答えください。)

問28 (問5(1)で「ある」と答えた方)今行っている(複数行っている場合は主たるもの)地域社会活動に関する情報を最初に何(どこ)で得ましたか。

(問5(1)で「ない」と答えた方)地域社会活動に関する情報を得るためには何(どこ)が最も効果的だと思いますか。

あてはまるものを1つだけ選んでください。



地域社会活動に関する情報の入手方法は、「自治会の回覧板」(27.1%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで「友人や知人からのクチコミ」(13.2%)、「インターネット(ニュースサイト、情報サイト、ブログ、SNSなど)」(11.5%)、「市町村や社会福祉協議会の広報紙(市報など)」(9.9%)となっている。

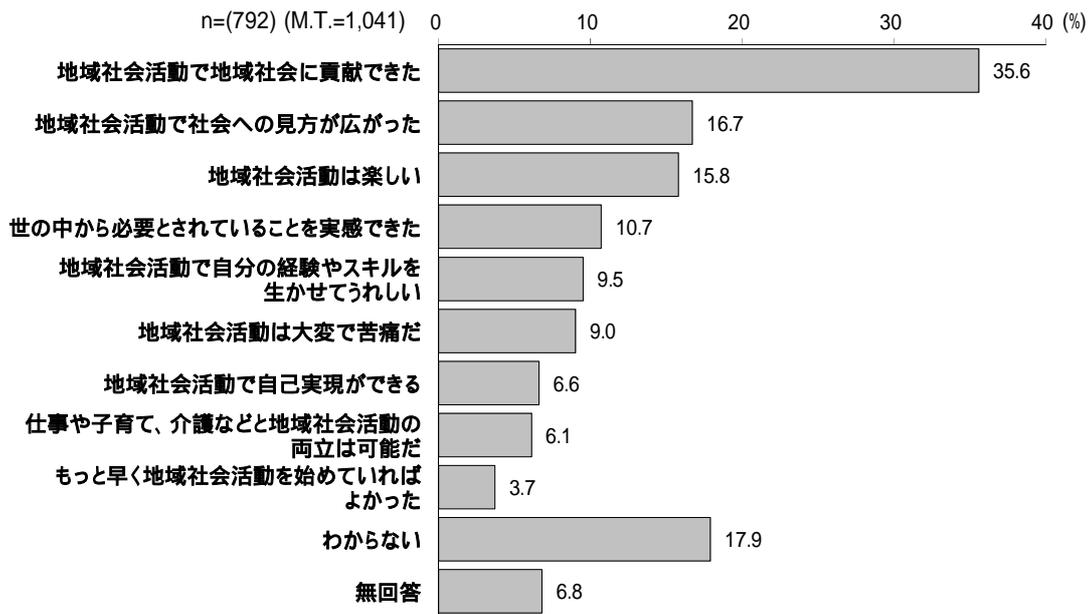
(10) 地域社会活動を始めた後に感じたこと

「地域社会活動で地域社会に貢献できた」35.6%

(問29は、シニア世代と各世代の意識などの違いを調査する趣旨でおたずねします。現在のお考えをお答えください。)

(問5(1)で「ある」と答えた方)

問29 地域社会活動を始めた後に感じたことはどんなことですか。
あてはまるものをすべて選んでください。



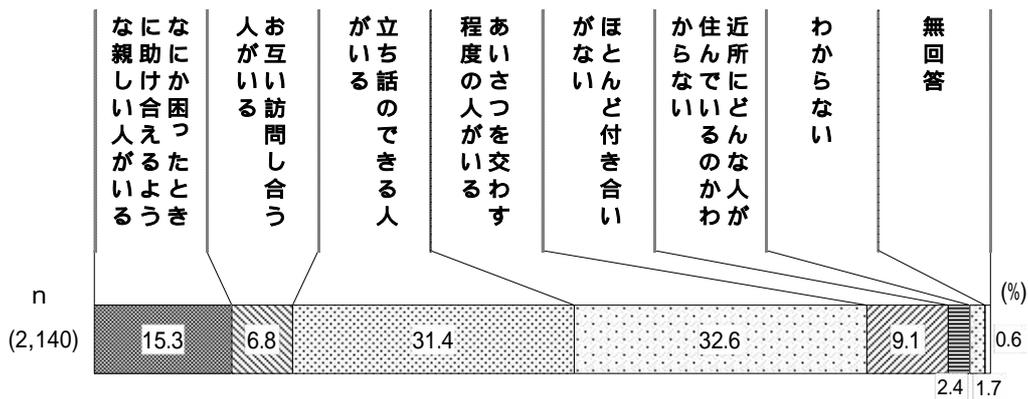
地域社会活動を始めた後に感じたことは、「地域社会活動で地域社会に貢献できた」(35.6%)が3割台半ばと最も高く、次いで、「地域社会活動で社会への見方が広がった」(16.7%)が1割台半ばを超えている。以下、「地域社会活動は楽しい」(15.8%)、「世の中から必要とされていることを実感できた」(10.7%)、「地域社会活動で自分の経験やスキルを生かせてうれしい」(9.5%)などとなっている。

(11) 近所の方との付き合い

「あいさつを交わす程度の人がいる」32.6%、「立ち話のできる人がある」31.4%

(問30は、シニア世代と各世代の意識などの違いを調査する趣旨でおたずねします。現在のお考えをお答えください。)

問30 ご近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。



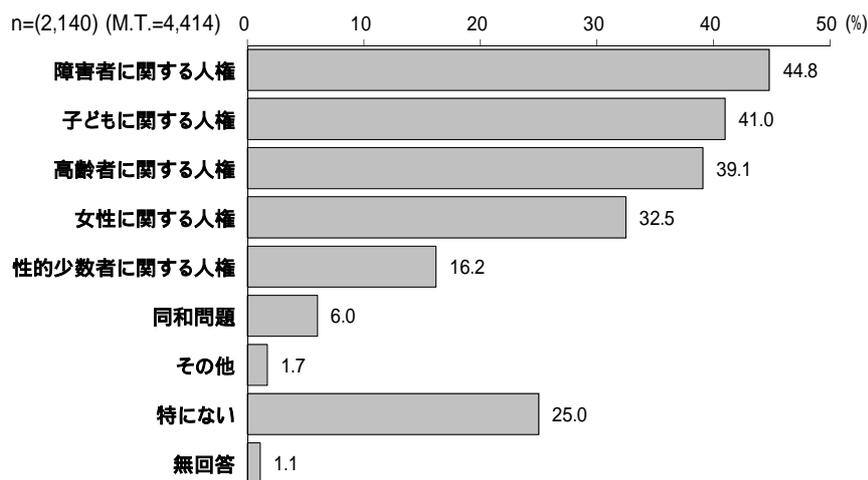
近所の方との付き合いは、「あいさつを交わす程度の人がある」(32.6%)と「立ち話のできる人がある」(31.4%)が3割強といずれも高く、次いで、「なにか困ったときに助け合えるような親しい人がある」(15.3%)、「お互いに訪問し合う人がある」(6.8%)となっている。一方で、「ほとんど付き合いがない」(9.1%)が約1割となっている。

5 性的少数者（LGBT）

（1）関心のある人権問題

「障害者に関する人権」が44.8%

問31 今の日本の社会には様々な人権問題がありますが、あなたはどんな人権問題に最も関心がありますか。あてはまるものを3つ選んでください。

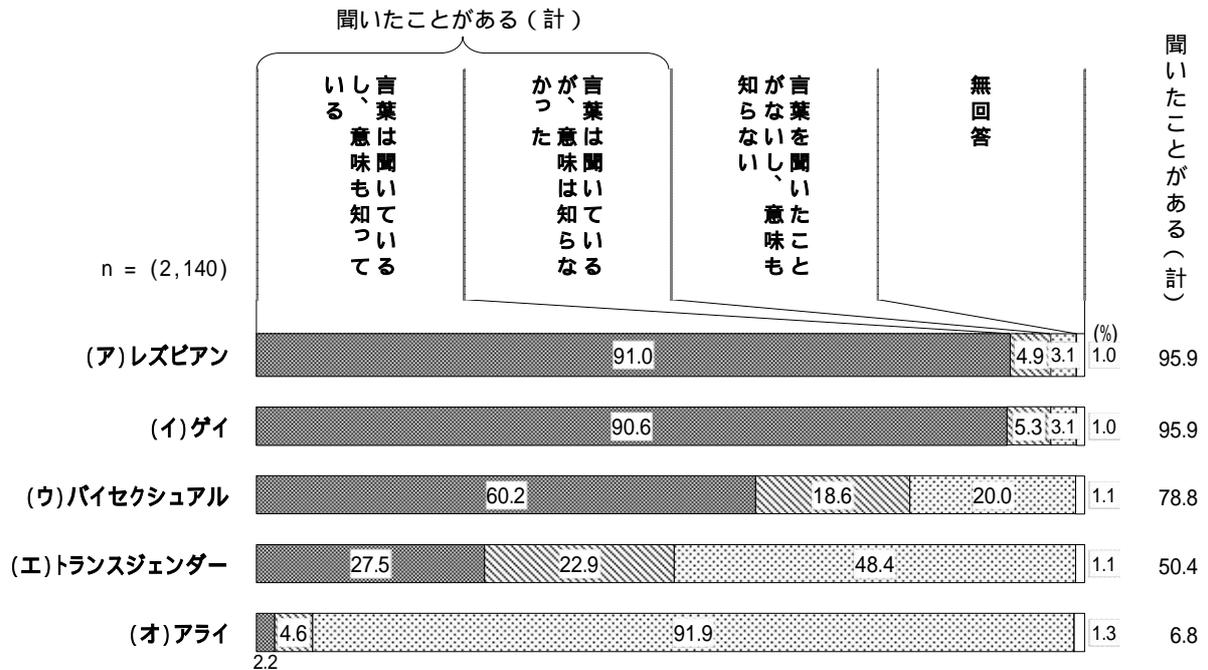


関心のある人権問題は、「障害者に関する人権」(44.8%)が4割台半ばと最も高く、次いで、「子どもに関する人権」(41.0%)が4割強、「高齢者に関する人権」(39.1%)が約4割となっている。以下、「女性に関する人権」(32.5%)、「性的少数者に関する人権」(16.2%)などとなっている。一方、「特にない」(25.0%)は2割台半ばである。

(2) 性的少数者の認知状況

『聞いたことがある(計)』はレズビアンとゲイがともに95.9%

問32 あなたは、次の言葉について聞いたことがありますか。また、意味を知っていますか。
(ア)から(オ)のそれぞれについて、もっとも近いものを1つ選んでください。



性的少数者(LGBT)の認知状況について、「言葉は聞いているし、意味も知っている」、「言葉は聞いているが、意味は知らなかった」を合わせた『聞いたことがある(計)』は、レズビアンとゲイ(ともに95.9%)が9割台半ばと特に高く、バイセクシュアル(78.8%)は8割弱、トランスジェンダー(50.4%)は5割を超えている。一方、「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」は、アライ(91.9%)で9割強、トランスジェンダー(48.4%)で5割弱と高くなっている。

(ア)レズビアン

『聞いたことがある(計)』(95.9%)は9割台半ば、「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」は3.1%となっている。

(イ)ゲイ

『聞いたことがある(計)』(95.9%)は9割台半ば、「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」は3.1%となっている。

(ウ)バイセクシュアル

『聞いたことがある(計)』(78.8%)は8割弱、「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」(20.0%)は2割となっている。

(エ)トランスジェンダー

『聞いたことがある(計)』(50.4%)は5割を超えており、「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」(48.4%)は5割弱となっている。

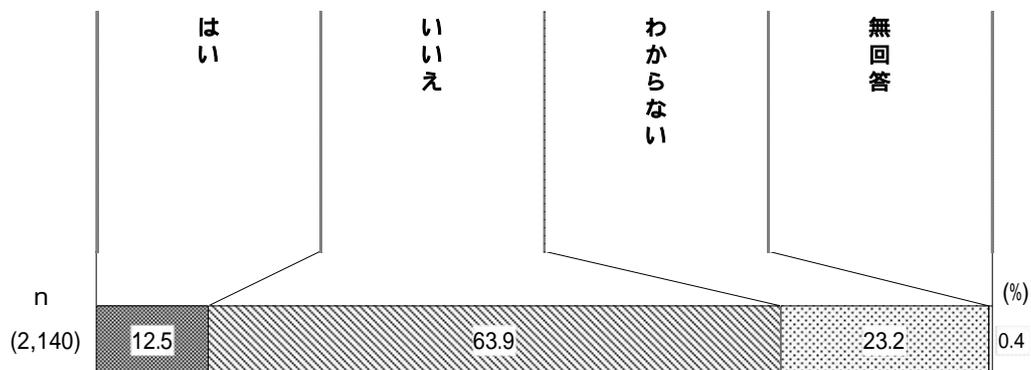
(オ)アライ

『聞いたことがある(計)』は6.8%、「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」(91.9%)は9割強となっている。

(3) 身のまわりの性的少数者の有無

「はい」12.5%

問33 今まであなたのまわりに、性的少数者の方はいましたか。



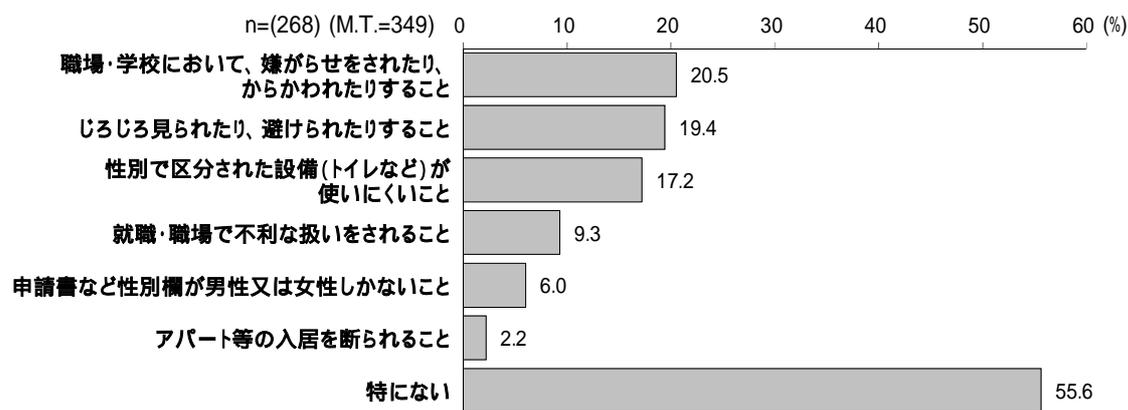
身のまわりの性的少数者の有無は、「はい」(12.5%)が1割強となっている。一方で、「いいえ」(63.9%)は6割強で最も高く、「わからない」(23.2%)は2割強となっている。

(3 - 1) 性的少数者に対して見聞きしたこと

「職場・学校において、嫌がらせをされたり、からかわれたりすること」20.5%

(問33で「はい」と答えた方に)

問33-1 あなたは、性的少数者に対して次のことを実際に見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

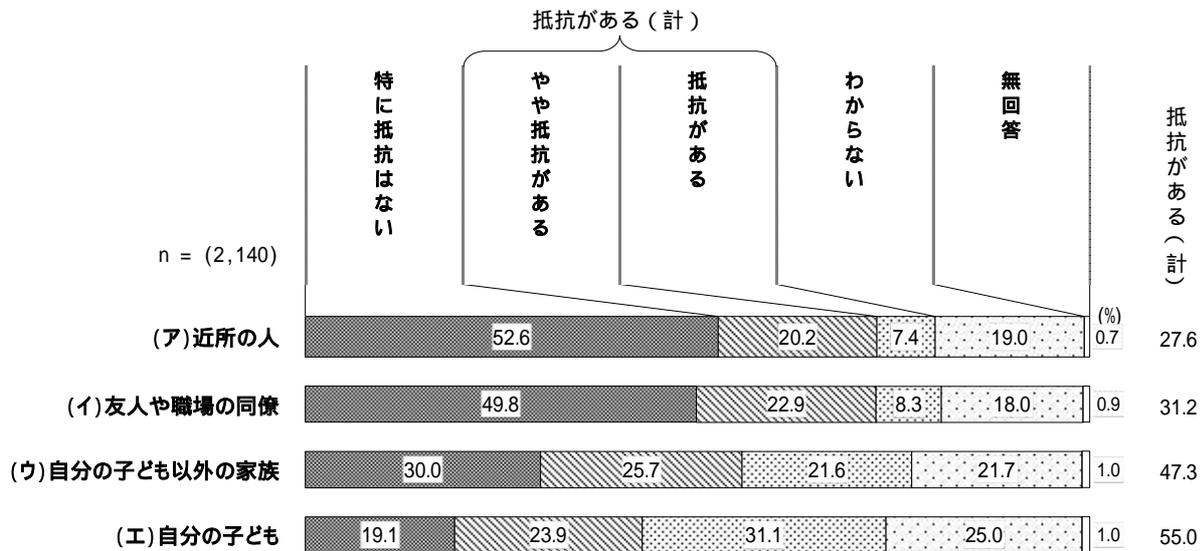


性的少数者に対して見聞きしたことは、「職場・学校において、嫌がらせをされたり、からかわれたりすること」(20.5%)が2割を超えて最も高く、次いで、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(19.4%)が約2割となっている。以下、「性別で区分された設備(トイレなど)が使いにくいこと」(17.2%)、「就職・職場で不利な扱いをされること」(9.3%)などとなっている。一方、「特にない」(55.6%)は5割台半ばとなっている。

(4) 身近な方が性的少数者だった場合の自身の気持ち

『抵抗がある(計)』は自分の子どもが55.0%、自分の子ども以外の家族が47.3%

問34 次の方が性的少数者だったとした場合、あなたはどう思いますか。(ア)から(エ)のそれぞれについて、あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。



身近な方が性的少数者だった場合の自身の気持ちは、「特に抵抗はない」は近所の人(52.6%)が5割強、友人や職場の同僚(49.8%)が約5割と高くなっている。一方、「やや抵抗がある」、「抵抗がある」を合わせた『抵抗がある(計)』は、自分の子ども(55.0%)が5割台半ばと最も高く、自分の子ども以外の家族(47.3%)、友人や職場の同僚(31.2%)、近所の人(27.6%)となっている。

(ア) 近所の人

「特に抵抗はない」(52.6%)は5割強、『抵抗がある(計)』(27.6%)は2割台半ばを超えている。

(イ) 友人や職場の同僚

「特に抵抗はない」(49.8%)は約5割、『抵抗がある(計)』(31.2%)は3割強となっている。

(ウ) 自分の子ども以外の家族

「特に抵抗はない」(30.0%)は3割、『抵抗がある(計)』(47.3%)は4割台半ばを超えている。

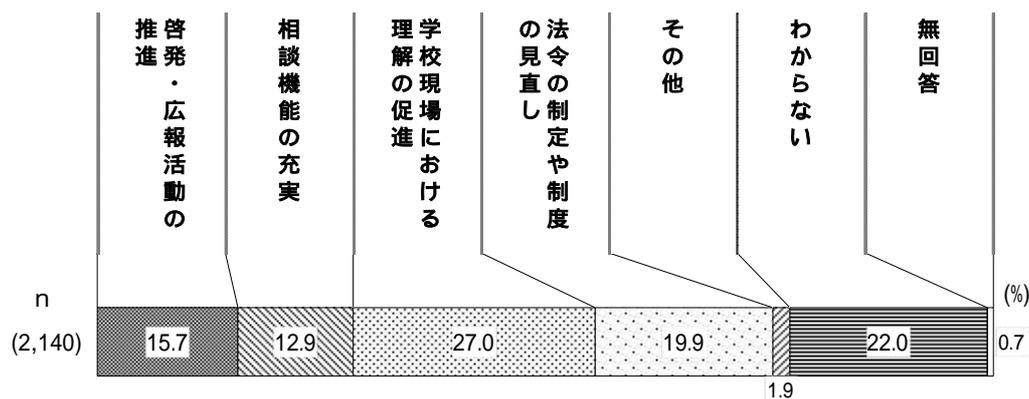
(エ) 自分の子ども

「特に抵抗はない」(19.1%)は約2割、『抵抗がある(計)』(55.0%)は5割台半ばとなっている。

(5) 性的少数者に対する差別や偏見のない社会を実現するために必要なこと

「学校現場における理解の促進」27.0%

問35 あなたは、性的少数者に対する差別や偏見のない社会を実現するためには、何が必要だと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。



性的少数者に対する差別や偏見のない社会を実現するために必要なことは、「学校現場における理解の促進」(27.0%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで「法令の制定や制度の見直し」(19.9%)が約2割、「啓発・広報活動の推進」(15.7%)が1割台半ばとなっている。

(参考資料) 世論調査実施状況

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
1	昭和43年度	8月16日～9月2日	県政全般(県政への関心、暮らし向き、青少年、教育、保健、スポーツ、社会福祉、住宅、環境等)	1,500	個別面接聴取法	84.0%
2	昭和44年度	7月15日～31日	県政全般(自治意識、暮らし向き、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、環境、消費生活等)	1,500	個別面接聴取法	81.3%
3	昭和45年度	9月20日～10月10日	県政全般(自治意識、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、公害、消費生活、農業等)	1,500	個別面接聴取法	86.5%
4		11月9日～24日	広報、具体的な広報の媒体、広聴	1,500	個別面接聴取法	89.1%
5	昭和46年度	9月20日～10月3日	近隣社会、居住環境	1,500	個別面接聴取法	90.7%
6		11月26日～12月9日	大災害に関すること(一般的関心、地震、防火、避難、近隣組織、職場・外出先での対策、地震に対する備えについて)	1,500	個別面接聴取法	86.6%
7	昭和47年度	10月26日～11月4日	県政全般(公害・交通問題、県民の健康と暮らし、教育・文化・スポーツを伸ばす等)	1,500	個別面接聴取法	82.5%
8	昭和48年度	11月14日～26日	県政全般(広報、自然環境と開発、福祉、消費生活、ごみ処理、保健、商工、農林、労働、都市環境、教育等)	1,500	個別面接聴取法	84.7%
9	昭和49年度	8月15日～27日	県政全般(現在の住まい、広報、公害、交通、健康、県民の暮らし、学校教育、自然保護等)	1,500	個別面接聴取法	80.9%
10	昭和50年度	8月上旬～中旬	県政全般(公害、交通安全、災害、警察、医療、福祉、教育、自然保護と開発、水、住宅、ごみ、商工、農林等)	1,500	個別面接聴取法	77.1%
11		3月9日～18日	学校教育、生活環境、自然環境	1,500	個別面接聴取法	83.0%
12	昭和51年度	7月20日～31日	水問題、福祉問題、コミュニティ問題	1,500	個別面接聴取法	83.9%
13	昭和52年度	6月15日～30日	地域社会、地域福祉、文化活動、医療、献血、暴走族、県政への満足度、県民討論会、県政全般	1,500	個別面接聴取法	83.6%
14	昭和53年度	7月14日～26日	文化の問題、婦人の問題、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.1%
15	昭和54年度	7月10日～26日	みどりの環境、地震災害、県政全般	1,500	個別面接聴取法	81.9%
16	昭和55年度	7月25日～8月11日	老人福祉、21世紀のまちづくり、地価及び宅地問題、県政全般	1,500	留置記入依頼法	87.5%
17	昭和56年度	7月25日～8月14日	水問題、障害者福祉、県政全般	1,500	個別面接聴取法	84.1%
18	昭和57年度	7月23日～8月12日	交通安全、行政改革、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	82.5%
19	昭和58年度	7月20日～8月14日	21世紀の県民生活、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.7%
20	昭和59年度	7月20日～8月12日	みどり、快適な環境、文化活動、サービス業、県税、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	80.4%
21	昭和60年度	7月18日～8月11日	高齢化社会、コミュニティ、学校教育、平和、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	78.4%
22	昭和61年度	7月9日～8月14日	国際交流、健康、快適な環境、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.1%
23	昭和62年度	6月1日～30日	住環境、景観、交通網、生涯学習、ボランティア活動、社会意識、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	80.2%
24	昭和63年度	7月1日～31日	県民生活、土地問題、ごみ処理、文化活動、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.7%
25	平成元年度	6月23日～7月23日	高度情報化施策、男女平等意識、青少年健全育成、埼玉コロシアム・埼玉メッセ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
26	平成2年度	7月4日～29日	環境保全、交通安全、県税、お墓、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	78.1%

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
27	平成3年度	7月5日～8月4日	スポーツ・レクリエーション活動、道路整備、ペット問題、商品包装、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.5%
28	平成4年度	6月26日～7月26日	住宅問題、防災、高度情報化施策、個人情報の保護、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.0%
29	平成5年度	7月9日～8月4日	新しいくづくり、人と環境にやさしいリサイクル県づくり、国際化とまちづくり、住みよさ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.2%
30	平成6年度	7月8日～8月10日	消費生活、ボランティア活動・福祉活動への参加について、子どもと家族、県の広報について、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
31	平成7年度	7月1日～31日	21世紀の彩の国さいたまの将来像、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	78.3%
32	平成8年度	7月10日～8月11日	ごみ減量化について、身近な自然について、健康と医療サービスについて、高度情報化施策について、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.3%
33	平成9年度	8月16日～9月15日	県政情報、安全な暮らし(防災、高齢者の交通安全、犯罪)、墓地、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.8%
34	平成10年度	7月10日～8月9日	国民体育大会、青少年問題、公園、高齢者福祉、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.9%
35	平成11年度	7月9日～8月8日	埼玉県の緑、子育て支援、ボランティア活動、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
36	平成12年度	7月8日～8月7日	環境全般・環境学習について、公害問題について、廃棄物問題・リサイクルについて、有害な化学物質について、地球温暖化について、環境保全活動について、今後の県の取り組み、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.7%
37	平成13年度	6月30日～7月30日	保健・医療、文化・芸術、国際交流・国際協力、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.2%
38	平成14年度	7月6日～8月5日	農林業の役割、屋外照明による生活環境への影響、日常生活、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
39	平成15年度	7月15日～8月5日	防犯、水環境、食の安全、日常生活、生活意識、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	67.3%
40	平成16年度	7月13日～8月10日	生活意識、日常生活、森林環境、地球温暖化、子どもの虐待、スポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.4%
41	平成17年度	7月2日～8月1日	生活意識、日常生活、子育て支援、みどりの環境税制、消費生活、まちづくり・住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.9%
42	平成18年度	7月8日～8月14日	生活意識、日常生活、生活範囲とまちづくり、外国人との共生、団塊世代等の人材活用、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	65.3%
43	平成19年度	7月13日～8月6日	生活意識、日常生活、消費生活、子どもの安全対策、県民のスポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.4%
44	平成20年度	7月11日～8月8日	生活意識、日常生活、住みよさ、みどりと川の再生、大学と地域の連携、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.8%
45	平成21年度	7月10日～8月3日	生活意識、日常生活、定住意向、スポーツ振興、水道の未来づくり、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.0%
46	平成22年度	7月9日～8月2日	生活意識、日常生活、消費生活、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.1%
47	平成23年度	7月8日～8月1日	生活意識、日常生活、住みよさ、自転車利用、生涯学習、買い物弱者、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.7%
48	平成24年度	7月6日～29日	生活意識、日常生活、定住意向、健康長寿埼玉、震災前後における省エネ・創エネに関する意識と行動の変化、県教育行政、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.1%
49	平成25年度	7月5日～28日	生活意識、日常生活、個人情報の保護と活用、埼玉県ホームページの利用状況、生涯学習、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.0%
50	平成26年度	7月4日～27日	生活意識、日常生活、住みよさ、埼玉版ウーマンミクスプロジェクト、治水対策、食品ロスの削減、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	70.8%
51	平成27年度	7月3日～26日	生活意識、日常生活、定住意向、人口減少問題、大地震への備え、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.9%
52	平成28年度	7月8日～31日	生活意識、日常生活、スポーツ振興、認知症、水道の利用、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	72.5%
53	平成29年度	7月7日～31日	生活意識、日常生活、シニアの社会参加、性的少数者(LGBT)、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.3%

本報告書の調査データを引用された場合は、
掲載資料 1 部を下記の担当課へ送付願います。

平成29年度

埼玉県政世論調査

平成29年11月発行

埼玉県県民生活部広聴広報課

〒330-9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂 3 - 15 - 1



埼玉県マスコット「コバトン&さいたまっち」